

異文化コミュニケーションⅠ

担当教員 大城 朋子

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

多様な文化を背景とした多様な人々との効果的なコミュニケーション能力を身に付けていくために、まずはジャパノロジーを深める。それと同時に多文化への理解を深めていく。そして、自文化を正當に評価し発信する力をつけ、国際社会に積極的に関わっていく基盤を整えていく。その際に、世界共通の言語となりつつある英語を道具として使い、課題を中心にグローバル時代に必要とされる力を身につけていく。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	異文化コミュニケーションとは
2	文化とアイデンティティス (テレオタイプと偏見)
3	非言語コミュニケーション
4	海外メディアの中の日本
5	時間と空間と文化
6	課題①言語と文化 (挨拶、呼称・人称代名詞、他)
7	課題②言語と文化 (省略表現、曖昧な日本語、他)
8	課題③言語と文化 (相づち、敬語表現、外来語)
9	課題④言語と文化 (日本のことわざ、忌み言葉、他)
10	生活と文化 (住)
11	生活と文化 (食)
12	生活と文化 (衣)
13	課題⑤日本の祭りと年中行事
14	課題⑥日本の祭りと年中行事
15	メディアと異文化コミュニケーション (映画、アニメ、マンガ、小説、他)
16	まとめ

【履修上の注意事項】

資料をじっくり読み、疑問点、問題点を自分の意見をまとめてほしい。そして、発信の道具としての英語力を身につけるため、準2級から2級の英語検定試験合格を目指すこと。

【評価方法】

課題に関する資料をよく読み、まとめて発表する。そして、意見を交換し洞察を深めていく。その際には英語、そして、パワーポイント等の道具を駆使して効果的な情報発信型のプレゼンテーションに持っていく。

【テキスト】

随時資料を配布するが、情報収集力を付けるためにも、各自が自主的に資料を収集することも期待される。

【参考文献】

『多文化社会と異文化コミュニケーション』伊佐雅子監修、三修社
 『異文化コミュニケーション ワークブック』八代京子他著、三修社
 『日本事情ハンドブック』水谷修他著、大修館書店

異文化コミュニケーションⅡ

担当教員 大城 朋子

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

異文化コミュニケーションⅠに引き続き、多様な文化を背景とした多様な人々との効果的なコミュニケーション能力を身に付けていくために、まずはジャパノロジーを深める。それと同時に多文化への理解を深めていく。そして自文化を正当に評価し発信する力をつけ、国際社会に積極的に関わっていく基盤を整えていく。その際に、世界共通の言語となりつつある英語を道具として用い、課題を中心にグローバル時代に必要とされる力を身につけていく。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	職業観（労働観の変化、社会参加、他）
2	家族観（結婚観、他）
3	家族観（役割観、性差観、他）
4	娯楽観
5	子供文化と老人社会
6	若者文化1
7	若者文化2
8	調査発表&Discussion①
9	調査発表&Discussion②
10	調査発表&Discussion③
11	調査発表&Discussion④
12	調査発表&Discussion⑤
13	調査発表&Discussion⑥
14	日本社会と外国人、そして多文化共生
15	グローバルコミュニケーション
16	まとめ

【履修上の注意事項】

資料をじっくり読み、疑問点、問題点を自分の意見をまとめてほしい。そして、発信の道具としての英語力を身につけるため、準2級から2級の英語検定試験合格を目指す。

【評価方法】

課題に関する資料をよく読み、まとめて発表する。そして、意見を交換し洞察を深めていく。その際には英語、そして、パワーポイント等の道具を駆使して効果的な情報発信型のプレゼンテーションに持っていく。

【テキスト】

随時資料を配布するが、情報収集力を付けるためにも各自が自主的に資料を収集することも期待される。

【参考文献】

『多文化社会と異文化コミュニケーション』伊佐雅子監修、三修社
 『異文化コミュニケーション ワークブック』八代京子他著、三修社
 『日本事情ハンドブック』水谷修他著、大修館書店

演習 I

担当教員 兼本 敏

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

受講生は1～2年で履修してきた専門科目および選択科目を総合的に整理し日本文化について各自で確認してもらう。つまり、日本文化学科では必須である卒業論文のテーマ設定をを念頭に置き、クラスに参加してもらう。各自が興味を持っているテーマを発表し合い、質問し合い、必要な知識、欠落している知識を確認し補っていく。また、論文、報告書、感想文などの文章の特徴を理解してもらい、その形式について再度学ぶ。

【授業の展開計画】

ゼミ形式で行うので、授業の展開はディスカッションとなる。
4月は、論文、報告書、感想文などの特徴と形式の確認。
5月は、各自のテーマについて発表する。発表後に質疑応答。
6月は、各自のテーマについて発表する。発表後に質疑応答。
7月は、各自の課題（欠落していた知識や論文のテーマと章立て）を提出。

【履修上の注意事項】

学科におけるコースは自己責任で選ぶが、卒論へ向けて現段階で自分は何が分かっている、
1. 何が分かっていない、を把握してもらいたい。
2. 前期ではクラスメートのテーマに耳を傾け、自分の習得した知識の増大に努めてほしい。
学期末に提出してもらうゼミ報告書に1 & 2について書いてもらう。

【評価方法】

学期末に提出してもらう「ゼミ報告書」を基に評価する。
評価は、次の3点を基準に評価する。
1) 文章の構成（各形式に合った文章構成か否か）
2) 表現力（誤字脱字なども含む）
3) 内容（履修の心得の内容に答えているか否か）

【テキスト】

各自のテーマに応じて自己決定し報告してください。

【参考文献】

高橋順一 他 (1998) 『人間科学 研究法ハンドブック』ナカニシヤ出版
小笠原喜康 『インターネット完全活用編 大学生のためのレポート・論文術』 講談社現代新書
その他、適宜に紹介する。

演習 I

担当教員 大城 朋子

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

言語・コミュニケーションを人間・文化・社会との関りにおいて考え、そこに存在する課題に取り組んでいく。属性とことば、言語行動、言語生活、言語接触、言語意識、言語習得等の社会言語学領域の文献や日本語教育に関する文献を徹底的に読み込んでいく。その際に担当者はレジメを作成し ppを用いて発表していく。

【授業の展開計画】

1. ゼミ運営の方針説明・レジメの作り方
2. 学術論文を読み込む
3. テーマと研究方法の選択決定・アウトライン作成
4. 調査・資料収集の進め方・調査票作成→実際の調査

【履修上の注意事項】

常に問題意識を持ち、積極的に資料を調べたり専門家に直接尋ねたりして自主的に研究に取り組み、問題解決に臨んでほしい。生きたことばの面白さ、そして研究の面白さを体験してほしい。

【評価方法】

共同研究への取り組みの姿勢、課題発表、討論への参加度、論文作成等を総合的に評価する。

【テキスト】

ダニエル・ロング他編『応用社会言語学を学ぶ人のために』世界思想社
真田信治他著『社会言語学』おうふう社 他

【参考文献】

演習 I

担当教員 大野 隆之

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

日本近代文学の諸作品を徹底的に読み込む。研究・批評と、単なる感想文との差異を十分に自覚し、自己の研究スタイルを確立する。さらに他者の見解を十分理解したうえで、批判的に討議する能力を身につける。

【授業の展開計画】

- 1、演習のすすめ方、班編成、テキストの決定。
- 2、問題のたて方。
- 3、資料の蒐集法。
- 4、模擬演習。
- 5、報告と討議。

【履修上の注意事項】

報告および学年末のレポートが評価の中心となるが、報告者以外の討議の姿勢を十分に加味する。「現代文学理論」未受講の者は同時に受講すること。学年末にはゼミ報告書を発行する。過年度生は「演習一」に読み替える。

【評価方法】

【テキスト】

基本的に、各自が選択する。どのようなテキストを選ぶか、それ自体がすでに研究の一部である。

【参考文献】

演習 I

担当教員 吉田 肇吾

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本ゼミのコンセプトは「お互いに学びあうこと」。情報メディア社会における各種図書館について、図書館情報学を中心とする学問分野で、各自が設定したテーマに基づいて調査研究を進め、その内容を発表し、質疑応答・討議をおこなう。なお、3年生の段階では、興味・関心のある分野・テーマの基礎知識の整理に重点を置くため、文献調査を徹底的におこない、ゼミ論としてまとめる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション：論文作成作業について
2	ゼミ論の執筆①：執筆スケジュール
3	ゼミ論の執筆②：テーマ設定・研究方法
4	ゼミ論の執筆③：資料・情報の収集方法
5	ゼミ論の執筆④：論文の構成方法
6	ゼミ論の執筆⑤：執筆の書き方
7	ゼミ論の執筆⑥：内容発表・質疑応答・討議
8	テーマと方法論の発表／個別指導①
9	テーマと方法論の発表／個別指導②
10	テーマと方法論の発表／個別指導③
11	テーマと方法論の発表／個別指導④
12	進行状況報告・題点の発表／個別指導①
13	進行状況報告・題点の発表／個別指導②
14	進行状況報告・題点の発表／個別指導③
15	進行状況報告・題点の発表／個別指導④
16	まとめ

【履修上の注意事項】

各自が明確なテーマ設定、論文作成計画を立案すること。

【評価方法】

各自の発表、及び出席日数と討議への参加姿勢も含めて総合的に評価する。

【テキスト】

設定したテーマに基づき、各自が関連資料の調査・収集・選択することを基本とする。必要に応じ、調査方法・関連資料などを紹介する。

【参考文献】

演習 I

担当教員 山口 真也

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本ゼミ(文化情報学ゼミ)のテーマである「表現の自由(知る自由)研究」「図書館情報学研究」「文化情報ソフトウェア制作」に関するさまざまなトピックを取り上げ、各自が興味関心を持つ専門分野の研究方法を学びます。後期から始まる個人研究発表のテーマ設定を各自で行うことを最終目標とし、①情報収集(文献調査)方法、②レジュメの作成方法、③グループ討論の方法(論理的な思考方法・発表スキル)、④社会調査方法などを学習し、卒業研究を行うために必要となる基本的な知識・技術を幅広く身につけることを目的とします。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション(1):履修上の注意、授業の内容紹介、論文集の配布、発表日程の決定
2	オリエンテーション(2):個別面談(2年間の目標設定・進路相談)
3	オリエンテーション(3):就職活動と研究活動の両立・就職ガイダンス
4	卒業論文中間報告(1):4年生が現在取り組んでいる卒論テーマの紹介
5	卒業論文中間報告(2):4年生が現在取り組んでいる卒論テーマの紹介
6	卒業論文報告(1):昨年度の卒業論文集掲載論文のテーマに関するグループディスカッション
7	卒業論文報告(2):昨年度の卒業論文集掲載論文のテーマに関するグループディスカッション
8	卒業論文報告(3):昨年度の卒業論文集掲載論文のテーマに関するグループディスカッション
9	個人研究テーマの決定(1):先行研究の調査方法(図書・雑誌記事編)、チューター制度の説明
10	個人研究テーマの決定(2):先行研究の調査方法(新聞記事・辞書事典・各種データ編)
11	個人研究テーマの決定(3):学術研究の方法(問題意識・仮説・検証)、研究計画書の作成方法
12	個人研究テーマの決定(4):社会調査法(アンケート・観察・インタビュー調査方法)
13	個人研究テーマ発表(1)
14	個人研究テーマ発表(2)
15	個人研究テーマ発表(3)
16	授業のまとめと自己評価(到達度チェック、レポート提出)

【履修上の注意事項】

- 1)データベース、ソフト制作を行う学生は、「文化情報学概論論」「マルチメディア論」「データベース論」「文化情報学基礎演習(情報学クラス)」の単位をすでに取得していることが望ましい。また、「地域データベース論」「地域データベース演習」を3年生前期で受講することを履修の条件とする。
- 2)図書館情報学研究を行う学生は、①図書館司書資格課程履修中、②3年次後期より始まる学校図書館司書教諭課程履修予定であることを条件とする。

【評価方法】

- 1)演習課題の提出状況、出席状況を総合的に判断し、評価します。
- 2)出席回数が全授業回数の2/3に満たない場合は単位を与えません。
- 3)欠席する場合は事前に欠席届(メール可)を提出すること。(無断で欠席しないこと)

【テキスト】

適宜指示する。

【参考文献】

適宜指示する。

演習 I

担当教員 黒澤 亜里子

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

基本的には近現代の文学テキストを取り上げますが、毎年異なるテーマ、課題を設定します。一つのテーマをめぐって真剣に考え、かつ論じ合うゼミの醍醐味、楽しさを知ってもらいたい。

【授業の展開計画】

- 1 ゼミ運営の方針説明
- 2 レジュメの作り方
- 3 調査、資料収集の方法
- 4 学術論文のスタイル
- 5 発表及び討議
- 6 ゼミ論文の作成
- 7 ゼミ報告集の編集作業

【履修上の注意事項】

夏期合宿への参加は必須です。

【評価方法】

①発表 ②ゼミ活動への取り組みの姿勢、貢献度 ③出席

【テキスト】

プリント使用。

【参考文献】

取り上げる作品に応じて適宜指示します。

演習 I

担当教員 田場 裕規

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本演習は、平安末期の私家集「粟田口別当入道集」を扱う。冷泉家時雨亭叢書の影印の翻字演習を前半に行い、後半はレポーターが【校異】【通釈】【語釈】【考説】を発表し、その内容を検討する。最終的に注釈書（ゼミ論集）としてまとめる。

【授業の展開計画】

第1回 ガイダンス

第2回～第4回 翻字演習

第5回～第14回 レポート発表

- ・必ず【校異】【通釈】【語釈】【考説】の項をもって発表すること。
 - ・『国歌大観』（角川書店）、『歌ことば歌枕大辞典』（角川書店）、『日本国語大辞典』（小学館）、『和歌文学辞典』（桜風社）などの関連する事項を調べること。
 - ・調査結果に基づく通釈、考説であること。
- 第15回～第16回 注釈書（ゼミ論集）の編集作業。

【履修上の注意事項】

①無断欠席をしないこと。②レジュメ等プリント類を多く使うが、保持および保管は学生の責任において為すこと。余分に刷らない。③レポーター以外も下調べを行ってから参加すること。

【評価方法】

①出席を重視する。②発表内容・演習に対する取り組みの姿勢等を総合的に評価する。

【テキスト】

テキストは購入しなくてもよい。

【参考文献】

授業内で指示する。

『字典かな 新装版』（笠間書院）¥780

演習 I

担当教員 下地 賀代子

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

日本語の記述的研究およびフィールドワークの方法論を身につけることを目標とします。具体的には、まず、日本語学、社会言語学に関する先行研究、前年度の研究成果をふまえつつ、受講者全員でテーマを決定します。そして、先行研究を読みこみ、そのテーマに合った調査方法・調査項目について検討、討議を重ねることによって具体的な調査内容を決定します。そして、夏休みには実際に調査を行います。

【授業の展開計画】

- ・先行研究の確認、問題点の明確化 → テーマの絞り込み
- ・先行研究の読み込み(発表)
- ・調査方法および項目の検討、討議 → 調査内容の決定、調査票の作成
- ・実際の言語調査(フィールドワーク)

【履修上の注意事項】

受講者の積極的な参加、自主的な取り組みを期待します。言語調査・研究の面白さと醍醐味を体験してほしいです。

【評価方法】

演習への参加度、発表、質疑応答を総合的に評価します。

【テキスト】

授業中に適宜紹介します。

【参考文献】

牧野成一他『ウチとソトの言語学』アルク社
町田健編／中井精一著『社会言語学のしくみ』研究社

演習 I

担当教員 葛綿 正一

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本演習は日本の古典文学・文化に関する演習を行うものである。今年度は特に狂言を取り上げる。狂言作品を一つ一つ取り上げながら注釈を試み、笑いの問題、オノマトペの効用などについて考える。

【授業の展開計画】

週	授業の内容	週	授業の内容
1	演習の進め方	17	発表する(8)
2	調べる(1)	18	発表する(9)
3	調べる(2)	19	発表する(10)
4	調べる(3)	20	発表する(11)
5	調べる(4)	21	発表する(12)
6	分析する(1)	22	発表する(13)
7	分析する(2)	23	発表する(14)
8	分析する(3)	24	発表する(15)
9	分析する(4)	25	ゼミ論集の制作(1)
10	発表する(1)	26	ゼミ論集の制作(2)
11	発表する(2)	27	ゼミ論集の制作(3)
12	発表する(3)	28	ゼミ論集の制作(4)
13	発表する(4)	29	まとめ(1)
14	発表する(5)	30	まとめ(2)
15	発表する(6)	31	
16	発表する(7)		

【履修上の注意事項】

九月にゼミ合宿の実施、二月にゼミ論集の完成を予定している。

毎回、小レポートの提出を義務づける。

厳しく学び合う場にしたいので、意欲の乏しい人は受講を遠慮してほしい。

登録予定人数は12名。中世近世文学論または映像文化論に関してテーマの明確な学生のみ受け入れる。

【評価方法】

発表内容、出席状況、授業への参加姿勢を総合的に評価する。

【テキスト】

そのつど紹介する。

【参考文献】

そのつど紹介する。

演習 I

担当教員 仁野平 智明

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

国語教育学における諸問題についてとりあげ、検討・考察する。各自が設定したテーマに基づいて、研究の方法論を学びつつ考察を深め、発表して質疑応答・討議を行う形式とする。

【授業の展開計画】

学生の発表及びそれに対する質疑応答・討議を中心とするが、必要に応じて国語教育学に関する文献講読をおりまぜるなどして理解の深化を促す。前半は3年次による国語教育領域論に関する研究発表を、後半は4年次による卒業論文着想発表を行う予定である。

1. ガイダンス
2. 国語教育学の研究について
3. 各領域における今日的な問題について
4. 研究発表①
5. 研究発表②
6. 研究発表③
7. 研究発表④
8. 研究発表⑤
9. 研究発表⑥
10. 卒業論文着想発表①
11. 卒業論文着想発表②
12. 卒業論文着想発表③
13. 卒業論文着想発表④
14. 卒業論文着想発表⑤
15. 卒業論文着想発表⑥
16. 総括

【履修上の注意事項】

国語科教職課程を履修していること。
教師を志し、学ぶことの厳しさと楽しさを共有したいと願う者の受講を望む。

【評価方法】

発表内容、授業への取り組み、出席状況などをもとにして総合的に判断する。

【テキスト】

必要に応じて紹介する。

【参考文献】

必要に応じて紹介する。

演習 I

担当教員 西岡 敏

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

琉球語諸方言に関する調査・記述を行ないます。ある方言を記述する場合には、まず語彙の収集と音素体系の確立から始め、そののち、収集語彙の音素的記述、形態や文法の調査などを行なって記述を広げていきます。言語を研究するときの基本的な文法概念について学び、テキストの収集（録音）と記述、および、それについて註釈を付けることも試みます。ある方言を別の方言と比べることも、必要になってくる場合があります。

【授業の展開計画】

初めは、琉球語に関する本を読んだりメディアにふれたりして、琉球語についての理解を深めます。また、琉球語諸方言を記録として書き留める練習をします。

その後、琉球語諸方言に関するテーマを決め、それについて実際に調査・記述します。音韻論・形態論（動詞や形容詞の活用など）・文法論・語彙論・アクセント論・敬語論・言語地理学・言語民俗学などの研究分野が考えられますので、グループごとにテーマを絞り、調査・分析を進めます。とくに、今まで調査があまりされていない方言の記述・分析が奨励されます。文法記述、辞書（語彙集）作成、テキスト収集などが大きな目標となります。音声テキストおよび画像資料の収集と、そのデジタル化も、これからの大切な仕事です。地元方言（地方語）の再活性化という問題も考えていきます。

まず教室で、先行文献の検討、調査表の作成、予備調査などを行ないます。その後、実際に現地に赴いて野外調査（フィールドワーク）を行ないます。再び教室に戻ったあと、集めた資料の整理をします。年度末には、みんなで一つの冊子を作り上げましょう。

【履修上の注意事項】

「日本語音声学」を受講済みのこと。音声学の知識は必須です。未受講の場合は、必ず受講のうえ、単位取得のこと。

年に数回、方言調査のフィールドワークを行ないます。聞き取り調査、調査の整理、補充調査に積極的に参加してください。

【評価方法】

出席状況、フィールドワークへの準備および参加、演習の発表、提出レポートなどを総合的に判断します。

【テキスト】

その都度指示します。

【参考文献】

その都度指示します。

演習 I

担当教員 狩俣 恵一

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

卒業論文に関連するそれぞれの研究テーマを発表してもらおう。発表の内容は琉球文学を対象とする。3年次生はそれらの発表を通して、調査及び発表資料作成の方法を学ぶ。

琉球文学には、琉球士族社会で生まれたオモロ・琉歌・古典芸能・記録された言語文化などと、庶民社会で伝承された歌謡・説話・民俗芸能などに大別することもできるが、その両者は相互に影響関係にあるので、そのことを考慮して調査・研究を進めること。特に、琉歌は本土の歌謡や和歌の影響を受けている作品が多く、説話もまた本土との繋がりが深いので、そのことを考慮して、論を組み立てるようにするのが望ましい。

【授業の展開計画】

第1回 発表についての説明

1. 各発表者の発表日の確定
2. 発表資料等作成に当たって、指導を受けることを希望する学生は、あらかじめ連絡して研究室で指導を受けること。
3. 発表資料はパソコンで作成すること。
4. 発表の後には、一人一人が必ず質問や意見などを述べること。

第2回～第15回 4年次生全員が各自のテーマで発表し、質疑応答を行う。

第16回 全体の総括と試験

【履修上の注意事項】

1. 発表者が無断欠席をした場合は、原則として単位を認めない。
2. 欠席が3分の1を超える学生は、原則として単位を認めない。

【評価方法】

出席点・発表レジュメ・発表の方法・質問内容による総合評価。

【テキスト】

なし

【参考文献】

『沖縄古語大辞典』『沖縄民俗辞典』『琉歌全集』『おもろさうし』『南島歌謡大成』

演習Ⅱ

担当教員 兼本 敏

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

前期で提出したゼミ報告書について各自の意見を話し合い、ゼミ論のテーマを決定する。後期は「ゼミ論」の記述が目標となる。ゼミ論完成に向けて必要な知識の確認を行う。このゼミ論は卒論に繋がるよう書いてもらう。

【授業の展開計画】

授業は次のように展開する。

- 10月 ゼミ形式で、前期に提出した「ゼミ論」について話し合う。
- 11月 各自でゼミ論のテーマを設定し、その構想を発表してもらう。
- 12月 執筆中のゼミ論について質疑応答を繰り返す。
- 1月 ゼミ論の構成と最終提出

【履修上の注意事項】

後期は学校行事や個人的なイベントが多く、アツという間に過ぎてしまいます。11月には推薦入試、大学祭があり、12月はクリスマスや忘年会で学生の本業を忘れがちです。欠席は減点としますので体調管理はしっかりと！

【評価方法】

ゼミ論の仕上がりで評価します。評価項目は次の通りです。
1) 構成（章立て、展開） 2) 参考資料 3) 引用文の形式
内容については後期の授業で質疑応答形式で確認します。

【テキスト】

【参考文献】

適宜紹介します。

演習Ⅱ

担当教員 大城 朋子

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

グループで共同研究を行う。テーマの決定、資料収集、調査計画、実際の調査、分析・考察、そして発表等を経て論文にまとめる。このような一連の研究のプロセスを体験することにより、論理的な思考態度の基本を身につけ、卒業論文作成に向けて基礎的な力を養っていく。

【授業の展開計画】

1. 調査・資料収集の進め方・調査票作成→実際の調査
2. 調査結果の検討→調査の発表及び討議
3. 報告書作成・印刷

【履修上の注意事項】

自主的に研究に取り組み、生きたことばの面白さ、そして研究の面白さを体験してほしい。

【評価方法】

共同研究への取り組みの姿勢、課題発表、討論への参加度、論文作成等を総合的に評価する。

【テキスト】

真田信治他著『社会言語学の展望』くろしお出版
他資料も適宜使用する。また、各自で選択する論文も使用する。

【参考文献】

演習Ⅱ

担当教員 田場 裕規

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本演習は、概ね「古代文学」（上代文学・中古文学）を扱うものとするが、国語科教育における古典教育（古典文学教育）に関する分野も扱い、「古典と教育」というテーマも併せて考察する。様々な視点から複眼的に思考することによって、「古典と教育」を論じ、学びの共同体を目指す。

【授業の展開計画】

演習Ⅰで学んだことを踏まえて、各自が設定した研究テーマについて調査・考察し、その報告と討議によって演習を進める。年度末には、ゼミ論集等を作成する。

- 1 ガイダンス
- 2 研究発表
- 3 研究発表
- 4 研究発表
- 5 研究発表
- 6 研究発表
- 7 研究発表
- 8 研究発表
- 9 研究発表
- 10 研究発表
- 11 研究発表
- 12 研究発表
- 13 研究発表
- 14 ゼミ論集等の作成
- 15 まとめ

【履修上の注意事項】

①無断欠席をしないこと。②レジュメ等プリント類を多く使うが、保持および保管は学生の責任において為すこと。余分に刷らない。③毎時間、A4一枚の課題を課し評価に加味する。

【評価方法】

①出席を重視する。②発表内容・演習に対する取り組みの姿勢等を総合的に評価する。

【テキスト】

必要に応じて指示する。

【参考文献】

必要に応じて指示する。

演習Ⅱ

担当教員 狩俣 恵一

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

卒業論文に関連するそれぞれの研究テーマを発表してもらおう。発表の内容は琉球文学を対象とする。3年次生はそれらの発表を通して、調査及び発表資料作成の方法を学ぶ。

琉球文学には、琉球士族社会で育まれたオモロ・琉歌・古典芸能・記録された言語文化などと、庶民社会で伝承された歌謡・説話・民俗芸能などに大別することができるが、その両者は相互に影響関係にあるので、そのことを考慮して調査・研究を進めること。特に、琉歌は本土の歌謡や和歌の影響を受けている作品が多く、説話・芸能もまた本土との繋がりが深いので、そのことを勘案して、論を組み立てるようにするのが望ましい。

【授業の展開計画】

第1回 発表方法についての説明

1. 各発表者の発表日の確定
2. 発表資料作成に当たって、指導を受けることを希望する学生は、あらかじめ連絡して研究室で指導を受けること。
3. 発表資料はパソコンで作成すること。
4. 発表の後には、1人1人が必ず質問や意見を述べること。

第2回～15回 4年次生全員が各自のテーマに基づいて発表し、質疑応答を行う。

第16回 全体の総括と試験

【履修上の注意事項】

1. 発表者が欠席した場合、原則として単位は認めない。
2. 欠席が3分の1を超えた学生は、原則として単位を認めない。

【評価方法】

出席点・発表レジュメ・発表の方法・質問内容による総合評価。

【テキスト】

なし

【参考文献】

『沖縄古語辞典』『沖縄民俗辞典』『琉歌全集』『おもろさうし』『南島大成』

演習Ⅱ

担当教員 山口 真也

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本ゼミのテーマである「表現の自由(知る自由)研究」「図書館情報学研究」「文化情報データベース・ソフトウェア制作」に関するさまざまなテーマを取り上げ、個人ごとに研究発表を行います。その過程で、卒業研究の基礎となる研究レポートを作成し、①学術論文の執筆方法(論理的な文章構成力)、②社会調査方法(アンケート・観察・インタビュー方法)、③調査結果の分析方法(データ集計法)、④プレゼンテーションスキル、⑤ディベート方法を習得し、卒業論文の作成、卒業制作を行うための基本的な知識、技術を身につけることを目的とします。あわせてキャリアに関する情報提供・交換も行い、各自が研究テーマと関わらせながら、進路研究を進める。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	後期の目標・夏休みの学習状況の報告・発表日程の決定
2	レジュメの作成方法・引用の方法・参考文献の書き方・司会進行方法
3	グループ学習① 基本概念の整理方法(レジュメの見出しの作成)
4	グループ学習② 調査方法の決定・内容の検討(仮説を証明するためにふさわしい調査方法とは?)
5	グループ学習③ 観察調査の分析方法・グラフによる表現方法
6	個人研究発表① 卒業研究題目仮登録
7	個人研究発表②
8	個人研究発表③ 就職ガイダンス①(自己分析の方法)
9	個人研究発表④
10	個人研究発表⑤ 就職ガイダンス②(エントリーシートの書き方)
11	個人研究発表⑥
12	個人研究発表⑦ 就職ガイダンス③(エントリーシートの書き方)
13	個人研究発表⑧
14	個人研究発表⑨ 就職ガイダンス④(エントリーシートの送り方)
15	個人研究発表⑩
16	授業のまとめ(到達度のチェック・レポート提出)

【履修上の注意事項】

- 履修条件等は演習Ⅰと同じ。
- ゼミ生が10名を超える場合は、補講を12月末、または2月～3月に合宿形式で行うことがあります。
- 2月末～3月上旬に4年生による卒業研究発表会があります。

【評価方法】

- 研究発表の完成度、準備に至る作業状況、出席状況を総合的に判断し、評価する。
- 出席回数が全授業回数の2/3に満たない場合は単位を与えない。
- 欠席する場合は欠席届を事前に提出(メール可)すること。(無断で欠席しないこと)

【テキスト】

適宜指示する。

【参考文献】

適宜指示する。

演習Ⅱ

担当教員 吉田 肇吾

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本ゼミのコンセプトは「お互いに学びあうこと」。情報メディア社会における各種図書館について、図書館情報学を中心とする学問分野で、各自が設定したテーマに基づいて調査研究を進め、その内容を発表し、質疑応答・討議をおこなう。なお、3年生の段階では、興味・関心のある分野・テーマの基礎知識の整理に重点を置くため、文献調査を徹底的におこない、ゼミ論としてまとめる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション：後期日程について
2	ゼミ論：経過報告／個別指導①
3	ゼミ論：経過報告／個別指導②
4	ゼミ論：経過報告／個別指導③
5	ゼミ論：書き方
6	ゼミ論執筆：個別指導①
7	ゼミ論執筆：個別指導②
8	ゼミ論執筆：個別指導③
9	ゼミ論執筆：個別指導④
10	ゼミ論発表／質疑応答①
11	ゼミ論発表／質疑応答②
12	ゼミ論発表／質疑応答③
13	ゼミ論発表／質疑応答④
14	ゼミ論発表／質疑応答⑤
15	ゼミ論発表／質疑応答⑥
16	ゼミ論提出

【履修上の注意事項】

各自のテーマ設定に基づき、あらゆる情報手段を活用して必要な資料・情報源を収集し、テーマに関する基礎知識を整理すること。

【評価方法】

各自の発表、及び出席回数と討議への参加姿勢も含めて総合的に評価する。

【テキスト】

設定したテーマに基づき、各自が関連資料の調査・収集・選択することを基本とする。必要に応じ、調査方法・関連資料などを紹介する。

【参考文献】

演習Ⅱ

担当教員 下地 賀代子

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

言語の調査法およびその分析・考察のし方を身につけることを目標とします。まず、前期と夏期休暇中に調査・収集した言語資料を整理・データ化します。そして各自で研究テーマを設定し、その言語データをもとにそれぞれのテーマに関する分析・考察・再調査などを行い、発表します。全体での討議を経て各自の研究成果をレポート化し、調査報告書を作成します。

【授業の展開計画】

- ・調査資料の整理、検討、データ化 → 各自の研究テーマの決定
- ・先行研究との比較、考察
- ・調査データをもととする各自の研究成果の発表、討議
- ・執筆分担、報告書の構成を決定
- ・報告書の作成

【履修上の注意事項】

受講者の積極的な参加、自主的な取り組みを期待します。言語調査・研究の面白さと醍醐味を体験してほしいです。

【評価方法】

演習への参加度、発表・質疑応答、研究レポートを総合的に評価します。

【テキスト】

授業中に適宜紹介します。

【参考文献】

その他、授業中で適宜紹介します。

演習Ⅱ

担当教員 西岡 敏

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

琉球語諸方言に関する調査・記述を行ないます。ある方言を記述する場合には、まず語彙の収集と音素体系の確立から始め、そののち、収集語彙の音素的記述、形態や文法の調査などを行なって記述を広げていきます。言語を研究するときの基本的な文法概念について学び、テキストの収集（録音）と記述、および、それについて註釈を付けることも試みます。ある方言を別の方言と比べることも、必要になってくる場合があります。

【授業の展開計画】

初めは、琉球語に関する本を読んだりメディアにふれたりして、琉球語についての理解を深めます。また、琉球語諸方言を記録として書き留める練習をします。

その後、琉球語諸方言に関するテーマを決め、それについて実際に調査・記述します。音韻論・形態論（動詞や形容詞の活用など）・文法論・語彙論・アクセント論・敬語論・言語地理学・言語民俗学などの研究分野が考えられますので、グループごとにテーマを絞り、調査・分析を進めます。とくに、今まで調査があまりされていない方言の記述・分析が奨励されます。文法記述、辞書（語彙集）作成、テキスト収集などが大きな目標となります。音声テキストおよび画像資料の収集と、そのデジタル化も、これからの大切な仕事です。地元方言（地方語）の再活性化という問題も考えていきます。

まず教室で、先行文献の検討、調査表の作成、予備調査などを行ないます。その後、実際に現地に赴いて野外調査（フィールドワーク）を行ないます。再び教室に戻ったあと、集めた資料の整理をします。年度末には、みんなで一つの冊子を作り上げましょう。

【履修上の注意事項】

「日本語音声学」を受講済みのこと。音声学の知識は必須です。未受講の場合は、必ず受講のうえ、単位取得のこと。

年に数回、方言調査のフィールドワークを行ないます。聞き取り調査、調査の整理、補充調査に積極的に参加してください。

【評価方法】

出席状況、フィールドワークへの準備および参加、演習の発表、提出レポートなどを総合的に判断します。

【テキスト】

その都度指示します。

【参考文献】

その都度指示します。

演習Ⅱ

担当教員 仁野平 智明

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

国語教育学における諸問題についてとりあげ、検討・考察する。各自が設定したテーマに基づいて、研究の方法論を学びつつ考察を深め、発表して質疑応答・討議を行う形式とする。

【授業の展開計画】

学生の発表及びそれに対する質疑応答・討議を中心とするが、必要に応じて国語教育学に関する文献講読をおりませるなどして理解の深化を促す。前半は国語教育指導論に関する研究発表を、後半は文学作品を考察対象とした教材論に関する研究発表を行い、1月は4年次による卒業論文発表会とする。

1. ガイダンス
2. 国語教育学指導論の今日的な問題について
3. 研究発表①
4. 研究発表②
5. 研究発表③
6. 研究発表④
7. 教材論について
8. 研究発表⑤
9. 研究発表⑥
10. 研究発表⑦
11. 研究発表⑧
12. 研究発表⑨
13. 研究発表⑩
14. 卒業論文発表会①
15. 卒業論文発表会②
16. 総括、ゼミ論集発行に向けて

【履修上の注意事項】

国語科教職課程を履修していること。

教師を志し、学ぶことの厳しさと楽しさを共有したいと願う者の受講を望む。

【評価方法】

発表内容、授業への取り組み、出席状況などをもとにして総合的に判断する。

【テキスト】

必要に応じて紹介する。

【参考文献】

必要に応じて紹介する。

演習Ⅱ

担当教員 大野 隆之

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

日本近代文学の諸作品を徹底的に読み込む。研究・批評と、単なる感想文との差異を十分に自覚し、自己の研究スタイルを確立する。さらに他者の見解を十分理解したうえで、批判的に討議する能力を身につける。

【授業の展開計画】

- 1、前期演習の反省。
- 2、後期の問題設定。
- 3、報告と討議。

【履修上の注意事項】

報告および学年末のレポートが評価の中心となるが、報告者以外の討議の姿勢を十分に加味する。「現代文学理論」未受講の者は同時に受講すること。学年末にはゼミ報告書を発行する。

過年度生は「演習一」に読み替える。

【評価方法】

【テキスト】

基本的に、各自が選択する。どのようなテキストを選ぶか、それ自体がすでに研究の一部である。

【参考文献】

演習Ⅱ

担当教員 黒澤 亜里子

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

基本的には近現代の文学テキストを取り上げますが、毎年異なるテーマ、課題を設定します。一つのテーマをめぐって真剣に考え、かつ論じ合うゼミの醍醐味、楽しさを知ってもらいたい。

【授業の展開計画】

- 1 ゼミ運営の方針説明
- 2 レジュメの作り方
- 3 調査、資料収集の方法
- 4 学術論文のスタイル
- 5 発表及び討議
- 6 ゼミ論文の作成
- 7 ゼミ報告集の編集作業

【履修上の注意事項】

夏期合宿への参加は必須です。

【評価方法】

- ①発表 ②ゼミ活動への取り組みの姿勢、貢献度 ③出席

【テキスト】

プリント使用。

【参考文献】

取り上げる作品に応じて適宜指示します。

演習Ⅱ

担当教員 葛綿 正一

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本演習は日本の古典文学・文化に関する演習を行うものである。今年度は特に狂言を取り上げる。狂言作品を一つ一つ取り上げながら注釈を試み、笑いの問題、オノマトペの効用などについて考える。

【授業の展開計画】

週	授業の内容	週	授業の内容
1	演習の進め方	17	発表する(8)
2	調べる(1)	18	発表する(9)
3	調べる(2)	19	発表する(10)
4	調べる(3)	20	発表する(11)
5	調べる(4)	21	発表する(12)
6	分析する(1)	22	発表する(13)
7	分析する(2)	23	発表する(14)
8	分析する(3)	24	発表する(15)
9	分析する(4)	25	ゼミ論集の制作(1)
10	発表する(1)	26	ゼミ論集の制作(2)
11	発表する(2)	27	ゼミ論集の制作(3)
12	発表する(3)	28	ゼミ論集の制作(4)
13	発表する(4)	29	まとめ(1)
14	発表する(5)	30	まとめ(2)
15	発表する(6)	31	
16	発表する(7)		

【履修上の注意事項】

九月にゼミ合宿の実施、二月にゼミ論集の完成を予定している。

毎回、小レポートの提出を義務づける。

厳しく学び合う場にしたいので、意欲の乏しい人は受講を遠慮してほしい。

【評価方法】

発表内容、出席状況、授業への参加姿勢を総合的に評価する。

【テキスト】

そのつど紹介する。

【参考文献】

そのつど紹介する。

演習Ⅲ

担当教員 大城 朋子

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

日本語学や社会言語学の関係資料の読み込み、比較分析、考察、そして議論を行い卒業論文の執筆のための視点を養っていきます。

【授業の展開計画】

1. ゼミ運営の方針説明・レジメの作り方
2. 学術論文を読み込む
3. テーマと研究方法の選択決定・アウトライン作成
4. 調査・資料収集の進め方・調査票作成→実際の調査

【履修上の注意事項】

積極的に課題に取り組み、研究の奥深さを体験してほしい。

【評価方法】

取り組みに対する姿勢、発表内容、論文作成等を総合的に評価します。

【テキスト】

宇佐美まゆみ『言葉は社会を変えられる』明石書店
他論文や資料を適宜使用する。

【参考文献】

テーマにそって各自で選択した論文

演習Ⅲ

担当教員 黒澤 亜里子

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

基本的には近現代の文学テキストを取り上げますが、毎年異なるテーマ、課題を設定します。一つのテーマをめぐって真剣に考え、かつ論じ合うゼミナールの醍醐味、楽しさを知ってもらいたい。

【授業の展開計画】

- 1 ゼミ運営の方針説明
- 2 レジュメの作り方
- 3 調査、資料収集の方法
- 4 学術論文のスタイル
- 5 発表及び討議
- 6 ゼミ論文の作成
- 7 ゼミ報告集の編集作業

【履修上の注意事項】

夏期合宿への参加は必須です。

【評価方法】

①発表 ②ゼミ活動への取り組みの姿勢、貢献度 ③出席

【テキスト】

プリント使用。

【参考文献】

取り上げる作品に応じて適宜指示します。

演習Ⅲ

担当教員 下地 賀代子

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

日本語の記述的研究およびフィールドワークの方法論を身につけることを目標とします。具体的には、まず、日本語学、社会言語学に関する先行研究、前年度の研究成果をふまえつつ、受講者全員でテーマを決定します。そして、先行研究を読みこみ、そのテーマに合った調査方法・調査項目について検討、討議を重ねることによって具体的な調査内容を決定します。そして、夏休みには実際に調査を行います。

【授業の展開計画】

- ・先行研究の確認、問題点の明確化 → テーマの絞り込み
- ・先行研究の読み込み(発表)
- ・調査方法および項目の検討、討議 → 調査内容の決定、調査票の作成
- ・実際の言語調査(フィールドワーク)

【履修上の注意事項】

受講者の積極的な参加、自主的な取り組みを期待します。言語調査・研究の面白さと醍醐味を体験してほしいです。

【評価方法】

演習への参加度、発表、質疑応答を総合的に評価します。

【テキスト】

授業中に適宜紹介します。

【参考文献】

牧野成一他『ウチとソトの言語学』アルク社
町田健編／中井精一著『社会言語学のしくみ』研究社

演習Ⅲ

担当教員 西岡 敏

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

琉球語諸方言に関する調査・記述を行ないます。ある方言を記述する場合には、まず語彙の収集と音素体系の確立から始め、そののち、収集語彙の音素的記述、形態や文法の調査などを行なって記述を広げていきます。言語を研究するときの基本的な文法概念について学び、テキストの収集（録音）と記述、および、それについて註釈を付けることも試みます。ある方言を別の方言と比べることも、必要になってくる場合があります。

【授業の展開計画】

初めは、琉球語に関する本を読んだりメディアにふれたりして、琉球語についての理解を深めます。また、琉球語諸方言を記録として書き留める練習をします。

その後、琉球語諸方言に関するテーマを決め、それについて実際に調査・記述します。音韻論・形態論（動詞や形容詞の活用など）・文法論・語彙論・アクセント論・敬語論・言語地理学・言語民俗学などの研究分野が考えられますので、グループごとにテーマを絞り、調査・分析を進めます。とくに、今まで調査があまりされていない方言の記述・分析が奨励されます。文法記述、辞書（語彙集）作成、テキスト収集などが大きな目標となります。音声テキストおよび画像資料の収集と、そのデジタル化も、これからの大切な仕事です。地元方言（地方語）の再活性化という問題も考えていきます。

まず教室で、先行文献の検討、調査表の作成、予備調査などを行ないます。その後、実際に現地に赴いて野外調査（フィールドワーク）を行ないます。再び教室に戻ったあと、集めた資料の整理をします。年度末には、みんなで一つの冊子を作り上げましょう。

【履修上の注意事項】

「日本語音声学」を受講済みのこと。音声学の知識は必須です。未受講の場合は、必ず受講のうえ、単位取得のこと。

年に数回、方言調査のフィールドワークを行ないます。聞き取り調査、調査の整理、補充調査に積極的に参加してください。

【評価方法】

出席状況、フィールドワークへの準備および参加、演習の発表、提出レポートなどを総合的に判断します。

【テキスト】

その都度指示します。

【参考文献】

その都度指示します。

演習Ⅲ

担当教員 吉田 肇吾

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本ゼミのコンセプトは「お互いに学びあうこと」。生涯学習社会・情報社会における各種図書館について、図書館情報学を中心とする学問分野で、各自が設定したテーマに基づき調査・研究を進め、その内容を発表し、質疑応答・討議をおこなう。4年次では、3年次で文献調査を通してまとめた基礎知識を踏まえた上で、さらにアンケート調査の実施や集計結果の考察を深め、卒論としてまとめる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション：ゼミ論から卒論へ
2	卒論：執筆スケジュールの組み方
3	卒論：テーマ設定・研究方法の確定
4	卒論：資料・情報の収集方法
5	卒論：論文の構成方法について
6	卒論：書き方・内容発表・質疑応答
7	テーマと方法論の発表／個別指導①
8	テーマと方法論の発表／個別指導②
9	テーマと方法論の発表／個別指導③
10	テーマと方法論の発表／個別指導④
11	進行状況・問題点の報告／個別指導①
12	進行状況・問題点の報告／個別指導②
13	進行状況・問題点の報告／個別指導③
14	進行状況・問題点の報告／個別指導④
15	進行状況・問題点の報告／個別指導⑤
16	まとめ

【履修上の注意事項】

各自のテーマ設定に基づき、論文作成作業を着実に進めること。

【評価方法】

各自の発表、及び出席回数と討議への参加姿勢も含めて総合的に評価する。

【テキスト】

設定したテーマに関する関連資料を収集して基礎知識を持ち、さらに図書館現場への調査活動をもおこなう。必要に応じ、調査方法・関連資料などを紹介する。

【参考文献】

演習Ⅲ

担当教員 田場 裕規

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本演習は、平安末期の私家集「粟田口別当入道集」を扱う。冷泉家時雨亭叢書の影印の翻字演習を前半に行い、後半はレポーターが【校異】【通釈】【語釈】【考説】を発表し、その内容を検討する。最終的に注釈書（ゼミ論集）としてまとめる。”

【授業の展開計画】

第1回 ガイダンス

第2回～第4回 翻字演習

第5回～第14回 レポート発表

- ・必ず【校異】【通釈】【語釈】【考説】の項をもって発表すること。
- ・『国歌大観』（角川書店）、『歌ことば歌枕大辞典』（角川書店）、『日本国語大辞典』（小学館）、『和歌文学辞典』（桜風社）などの関連する事項を調べること。
- ・調査結果に基づく通釈、考説であること。

第15回～第16回 注釈書（ゼミ論集）の編集作業。”

【履修上の注意事項】

①無断欠席をしないこと。②レジュメ等プリント類を多く使うが、保持および保管は学生の責任において為すこと。余分に刷らない。③レポーター以外も下調べを行ってから参加すること。

【評価方法】

①出席を重視する。②発表内容・演習に対する取り組みの姿勢等を総合的に評価する。

【テキスト】

テキストは購入しなくてもよい。

【参考文献】

授業内で指示する。

『字典かな 新装版』（笠間書院）¥780”

演習Ⅲ

担当教員 仁野平 智明

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

国語教育学における諸問題についてとりあげ、検討・考察する。各自が設定したテーマに基づいて、研究の方法論を学びつつ考察を深め、発表して質疑応答・討議を行う形式とする。

【授業の展開計画】

学生の発表及びそれに対する質疑応答・討議を中心とするが、必要に応じて国語教育学に関する文献講読なをおりませるなどして理解の深化を促す。前半は3年次による国語教育領域論に関する研究発表を、後半は4年次による卒業論文着想発表を行う予定である。

1. ガイダンス
2. 国語教育学の研究について
3. 各領域における今日的な問題について
4. 研究発表①
5. 研究発表②
6. 研究発表③
7. 研究発表④
8. 研究発表⑤
9. 研究発表⑥
10. 卒業論文着想発表①
11. 卒業論文着想発表②
12. 卒業論文着想発表③
13. 卒業論文着想発表④
14. 卒業論文着想発表⑤
15. 卒業論文着想発表⑥
16. 総括

【履修上の注意事項】

国語科教職課程を履修していること。
教師を志し、学ぶことの厳しさと楽しさを共有したいと願う者の受講を望む。

【評価方法】

発表内容、授業への取り組み、出席状況などをもとにして総合的に判断する。

【テキスト】

必要に応じて紹介する。

【参考文献】

必要に応じて紹介する。

演習Ⅲ

担当教員 狩俣 恵一

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

『琉歌百控』をテキストとして、発表を行う。発表者は琉歌の解釈をしたうえで、その問題点を発見しテーマを定めて発表資料を作成する。

琉歌は本土の歌謡や和歌の影響を受けている作品が多いので、本土の和歌や歌謡と比較することによって、琉歌の特質を明らかにするようにつとめること。

【授業の展開計画】

第1回 発表方法についての説明

1. 発表日の確定
2. 発表レジュメには、以下のことを掲載する。
 - ①琉歌百控（新日本古典文学大系）の原歌・解釈・発表者の訳
 - ②語釈（言葉の文法的な解釈）
 - ③発表テーマを考察するために必要な琉歌・和歌などの類歌その際『琉歌全集』『琉歌大成』などを資料とし、必要に応じて作者・時代背景などにも触れること。
3. 発表資料は、パソコンで作成すること。
4. 発表の後には、全員が質問・意見などを述べて、発表者と討論する。

第2回～第15回 各発表者は、『琉歌百控』の琉歌の番号順に発表し、全員で質疑応答を行う。

第16回 全体のまとめと試験

【履修上の注意事項】

1. 発表者が無断欠席した場合は、原則として単位を認めない。
2. 3分の1以上を欠席した学生は、原則として単位を認めない。

【評価方法】

出席点・発表資料・発表内容・質疑の総合評価。

【テキスト】

なし

【参考文献】

『沖縄古語大辞典』『琉歌全集』『琉歌大成』『おもろさうし』『南島歌謡大成』

演習Ⅲ

担当教員 山口 真也

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本ゼミ(文化情報学ゼミ)のテーマである「表現の自由(知る自由)研究」「図書館情報学研究」「文化情報ソフトウェア制作」に関するさまざまなトピックを取り上げ、各自が興味関心を持つ専門分野の研究方法を学びます。4年生は、新ゼミ生(3年生)のチューターとして、各自の卒論研究の中間報告を行うとともに、3年生によるグループ討論、研究テーマ決定、文献調査、テーマ発表において随時アドバイスを行うことで、卒業研究に必要なとなる知識、技能を再確認するとともに、プレゼンテーションスキルと協働意識を身につけることを目的とします。

【授業の展開計画】

各回の内容は演習Ⅰと同じです。

【履修上の注意事項】

演習Ⅰと同じ。

【評価方法】

演習Ⅰと同じ。

【テキスト】

適宜指示する。

【参考文献】

適宜指示する。

演習Ⅲ

担当教員 大野 隆之

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

日本近代文学の諸作品を徹底的に読み込む。研究・批評と、単なる感想文との差異を十分に自覚し、自己の研究スタイルを確立する。さらに他者の見解を十分理解したうえで、批判的に討議する能力を身につける。

【授業の展開計画】

- 1、演習のすすめ方、班編成、テキストの決定。
- 2、問題のたて方。
- 3、資料の蒐集法。
- 4、模擬演習。
- 5、報告と討議。

【履修上の注意事項】

報告および学年末のレポートが評価の中心となるが、報告者以外の討議の姿勢を十分に加味する。「現代文学理論」未受講の者は同時に受講すること。学年末にはゼミ報告書を発行する。

過年度生は「演習一」に読み替える。

【評価方法】

【テキスト】

基本的に、各自が選択する。どのようなテキストを選ぶか、それ自体がすでに研究の一部である。

【参考文献】

演習Ⅲ

担当教員 葛綿 正一

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本演習は日本の古典文学・文化に関する演習を行うものである。今年度は特に狂言を取り上げる。狂言作品を一つ一つ取り上げながら注釈を試み、笑いの問題、オノマトペの効用などについて考える。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	演習の進め方	17	発表する (8)
2	調べる (1)	18	発表する (9)
3	調べる (2)	19	発表する (10)
4	調べる (3)	20	発表する (11)
5	調べる (4)	21	発表する (12)
6	分析する (1)	22	発表する (13)
7	分析する (2)	23	発表する (14)
8	分析する (3)	24	発表する (15)
9	分析する (4)	25	ゼミ論集の制作 (1)
10	発表する (1)	26	ゼミ論集の制作 (2)
11	発表する (2)	27	ゼミ論集の制作 (3)
12	発表する (3)	28	ゼミ論集の制作 (4)
13	発表する (4)	29	まとめ (1)
14	発表する (5)	30	まとめ (2)
15	発表する (6)	31	
16	発表する (7)		

【履修上の注意事項】

九月にゼミ合宿の実施、二月にゼミ論集の完成を予定している。

毎回、小レポートの提出を義務づける。

厳しく学び合う場にしたいので、意欲の乏しい人は受講を遠慮してほしい。

【評価方法】

発表内容、出席状況、授業への参加姿勢を総合的に評価する。

【テキスト】

そのつど紹介する。

【参考文献】

そのつど紹介する。

演習Ⅳ

担当教員 葛綿 正一

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本演習は日本の古典文学・文化に関する演習を行うものである。今年度は特に狂言を取り上げる。狂言作品を一つ一つ取り上げながら注釈を試み、笑いの問題、オノマトペの効用などについて考える。

【授業の展開計画】

週	授業の内容	週	授業の内容
1	演習の進め方	17	発表する(8)
2	調べる(1)	18	発表する(9)
3	調べる(2)	19	発表する(10)
4	調べる(3)	20	発表する(11)
5	調べる(4)	21	発表する(12)
6	分析する(1)	22	発表する(13)
7	分析する(2)	23	発表する(14)
8	分析する(3)	24	発表する(15)
9	分析する(4)	25	ゼミ論集の制作(1)
10	発表する(1)	26	ゼミ論集の制作(2)
11	発表する(2)	27	ゼミ論集の制作(3)
12	発表する(3)	28	ゼミ論集の制作(4)
13	発表する(4)	29	まとめ(1)
14	発表する(5)	30	まとめ(2)
15	発表する(6)	31	
16	発表する(7)		

【履修上の注意事項】

九月にゼミ合宿の実施、二月にゼミ論集の完成を予定している。

毎回、小レポートの提出を義務づける。

厳しく学び合う場にしたいので、意欲の乏しい人は受講を遠慮してほしい。

【評価方法】

発表内容、出席状況、授業への参加姿勢を総合的に評価する。

【テキスト】

そのつど紹介する。

【参考文献】

そのつど紹介する。

演習Ⅳ

担当教員 大野 隆之

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

日本近代文学の諸作品を徹底的に読み込む。研究・批評と、単なる感想文との差異を十分に自覚し、自己の研究スタイルを確立する。さらに他者の見解を十分理解したうえで、批判的に討議する能力を身につける。

【授業の展開計画】

- 1、前期演習の反省。
- 2、後期の問題設定。
- 3、報告と討議。

【履修上の注意事項】

報告および学年末のレポートが評価の中心となるが、報告者以外の討議の姿勢を十分に加味する。「現代文学理論」未受講の者は同時に受講すること。学年末にはゼミ報告書を発行する。

過年度生は「演習一」に読み替える。

【評価方法】

【テキスト】

基本的に、各自が選択する。どのようなテキストを選ぶか、それ自体がすでに研究の一部である。

【参考文献】

演習Ⅳ

担当教員 吉田 肇吾

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本ゼミのコンセプトは「お互いに学びあうこと」。情報メディア社会における各種図書館について、図書館情報学を中心とする学問分野で、各自が設定したテーマに基づき調査・研究をすすめ、その内容を発表し質疑応答・討議をおこなう。4年次では、3年次で文献調査を通してまとめた基礎知識を踏まえた上で、さらに図書館現場へのアンケート調査などにより考察を深め、卒論としてまとめる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション：後期日程について
2	卒論：中間発表／個別指導①
3	卒論：中間発表／個別指導②
4	卒論：中間発表／個別指導③
5	卒論：中間発表／個別指導④
6	論文執筆：個別指導①
7	論文執筆：個別指導②
8	論文執筆：個別指導③
9	論文執筆：個別指導④
10	論文内容の発表・質疑応答／個別指導①
11	論文内容の発表・質疑応答／個別指導②
12	論文内容の発表・質疑応答／個別指導③
13	論文内容の発表・質疑応答／個別指導④
14	論文内容の発表・質疑応答／個別指導⑤
15	論文内容の発表・質疑応答／個別指導⑥
16	卒業論文提出

【履修上の注意事項】

各自のテーマ設定に基づき、論文作成の後期段階を着実に進めること。
論文発表時には、各自レジュメを準備・配布し、口頭による丁寧な補足説明をおこなうこと。

【評価方法】

各自の発表、及び出席回数と討議への参加姿勢も含めて総合的に評価する。

【テキスト】

設定したテーマに基づき関連資料を収集することを基本とする。
必要に応じ、調査方法・関連資料などを紹介する。

【参考文献】

演習Ⅳ

担当教員 黒澤 亜里子

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

基本的には近現代の文学テキストを取り上げますが、毎年異なるテーマ、課題を設定します。一つのテーマをめぐって真剣に考え、かつ論じ合うゼミナールの醍醐味、楽しさを知ってもらいたい。

【授業の展開計画】

- 1 ゼミ運営の方針説明
- 2 レジュメの作り方
- 3 調査、資料収集の方法
- 4 学術論文のスタイル
- 5 発表及び討議
- 6 ゼミ論文の作成
- 7 ゼミ報告集の編集作業

【履修上の注意事項】

夏期合宿への参加は必須です。

【評価方法】

①発表 ②ゼミ活動への取り組みの姿勢、貢献度 ③出席

【テキスト】

プリント使用。

【参考文献】

取り上げる作品に応じて適宜指示します。

演習Ⅳ

担当教員 山口 真也

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本ゼミのテーマである「表現の自由(知る自由)研究」「図書館情報学研究」「文化情報データベース・ソフトウェア制作」に関するさまざまなテーマを取り上げ、3年生による個人研究発表を行います。4年生は、チューターとして、グループ学習時に様々なアドバイスを与え、さらに、3年生による研究発表の準備や発表当日の進行をサポートすることで、卒業研究に必要となる基礎的な知識、技能を再確認するとともに、協働意識とプレゼンテーションスキル、司会進行方法、討論方法など、社会人として必要となる各種技能を習得することを目的とします。

【授業の展開計画】

各回の内容は演習Ⅱと同じです。

【履修上の注意事項】

演習Ⅱと同じ。

【評価方法】

演習Ⅱと同じ。

【テキスト】

適宜指示する。

【参考文献】

適宜指示する。

演習Ⅳ

担当教員 西岡 敏

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

琉球語諸方言に関する調査・記述を行ないます。ある方言を記述する場合には、まず語彙の収集と音素体系の確立から始め、そののち、収集語彙の音素的記述、形態や文法の調査などを行なって記述を広げていきます。言語を研究するときの基本的な文法概念について学び、テキストの収集（録音）と記述、および、それについて註釈を付けることも試みます。ある方言を別の方言と比べることも、必要になってくる場合があります。

【授業の展開計画】

初めは、琉球語に関する本を読んだりメディアにふれたりして、琉球語についての理解を深めます。また、琉球語諸方言を記録として書き留める練習をします。

その後、琉球語諸方言に関するテーマを決め、それについて実際に調査・記述します。音韻論・形態論（動詞や形容詞の活用など）・文法論・語彙論・アクセント論・敬語論・言語地理学・言語民俗学などの研究分野が考えられますので、グループごとにテーマを絞り、調査・分析を進めます。とくに、今まで調査があまりされていない方言の記述・分析が奨励されます。文法記述、辞書（語彙集）作成、テキスト収集などが大きな目標となります。音声テキストおよび画像資料の収集と、そのデジタル化も、これからの大切な仕事です。地元方言（地方語）の再活性化という問題も考えていきます。

まず教室で、先行文献の検討、調査表の作成、予備調査などを行ないます。その後、実際に現地に赴いて野外調査（フィールドワーク）を行ないます。再び教室に戻ったあと、集めた資料の整理をします。年度末には、みんなで一つの冊子を作り上げましょう。

【履修上の注意事項】

「日本語音声学」を受講済みのこと。音声学の知識は必須です。未受講の場合は、必ず受講のうえ、単位取得のこと。

年に数回、方言調査のフィールドワークを行ないます。聞き取り調査、調査の整理、補充調査に積極的に参加してください。

【評価方法】

出席状況、フィールドワークへの準備および参加、演習の発表、提出レポートなどを総合的に判断します。

【テキスト】

その都度指示します。

【参考文献】

その都度指示します。

演習Ⅳ

担当教員 狩俣 恵一

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

3年次生が『琉歌百控』をテキストとして発表を行うが、4年次生は3年次生の発表の問題点を指摘し、内容を深めるための質問を行う。

発表者は琉歌の解釈をしたうえで、その問題点を発見しテーマを定めて発表資料を作成する。琉歌は、本土の和歌や歌謡の影響を強く受けている作品が多いので、本土の和歌や歌謡と比較することによって、琉歌の特質を明らかにするようにつとめること。

【授業の展開計画】

第1回 発表方法についての説明

1. 発表日の確定
2. 発表資料作成に当たって指導を希望する学生は、あらかじめ連絡して研究室で指導を受けること。
3. 発表レジュメには、①琉歌百控（新日本古典文学大系）の原歌・解釈・発表者の訳、②語釈（琉歌の語彙及び文法的な解釈）、③発表テーマを考察するために必要な琉歌（類歌等）を『琉歌全集』『琉歌大成』などを資料とすること。また、必要に応じて作者・時代背景などにも触れること。
4. 発表資料はパソコンで作成すること。
5. 発表を聞く学生は、質問または感想を述べて発表者と討論すること。

第2回～第15回 各発表者は『琉歌百控』の歌番号順に4種ずつ発表し、討論する。

第16回 全体のまとめと試験

【履修上の注意事項】

1. 指導を受けることを希望する発表者は、あらかじめ連絡して研究室で指導を受けること。
2. 発表者が無断欠席した場合は、原則として単位を認めない。
3. 3分の1以上の欠席者は、原則として単位を認めない。

【評価方法】

出席点・発表レジュメ・発表の方法・質問内容による総合評価。

【テキスト】

『琉歌百控』

【参考文献】

『沖縄古語大辞典』『琉歌全集』『琉歌大成』『おもろさうし』『南島歌謡大成』

演習Ⅳ

担当教員 田場 裕規

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本演習は、概ね「古代文学」（上代文学・中古文学）を扱うものとするが、国語科教育における古典教育（古典文学教育）に関する分野も扱い、「古典と教育」というテーマも併せて考察する。様々な視点から複眼的に思考することによって、「古典と教育」を論じ、学びの共同体を目指す。

【授業の展開計画】

演習Ⅰで学んだことを踏まえて、各自が設定した研究テーマについて調査・考察し、その報告と討議によって演習を進める。年度末には、ゼミ論集等を作成する。

- 1 ガイダンス
- 2 研究発表
- 3 研究発表
- 4 研究発表
- 5 研究発表
- 6 研究発表
- 7 研究発表
- 8 研究発表
- 9 研究発表
- 10 研究発表
- 11 研究発表
- 12 研究発表
- 13 研究発表
- 14 ゼミ論集等の作成
- 15 まとめ

【履修上の注意事項】

①無断欠席をしないこと。②レジュメ等プリント類を多く使うが、保持および保管は学生の責任において為すこと。余分に刷らない。③毎時間、A4一枚の課題を課し評価に加味する。

【評価方法】

①出席を重視する。②発表内容・演習に対する取り組みの姿勢等を総合的に評価する。

【テキスト】

必要に応じて指示する。

【参考文献】

必要に応じて指示する。

演習Ⅳ

担当教員 大城 朋子

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

日本語学や社会言語学の関係資料の読み込み、比較分析、考察、そして議論を行い卒業論文の執筆のための視点を養っていきます。

【授業の展開計画】

1. 調査結果に関する発表・討議
2. 学術論文の読み込み
3. 報告書作成

【履修上の注意事項】

積極的に課題に取り組み、研究の奥深さを体験し、より論理的な視点を養ってほしい。

【評価方法】

研究への取り組み、発表内容、論文作成等を総合的に評価します。

【テキスト】

各自のテーマに沿って選んだ学術論文をテキストとします。

【参考文献】

演習Ⅳ

担当教員 下地 賀代子

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

言語の調査法およびその分析・考察のし方を身につけることを目標とします。まず、前期と夏期休暇中に調査・収集した言語資料を整理・データ化します。そして各自で研究テーマを設定し、その言語データをもとにそれぞれのテーマに関する分析・考察・再調査などを行い、発表します。全体での討議を経て各自の研究成果をレポート化し、調査報告書を作成します。

【授業の展開計画】

- ・調査資料の整理、検討、データ化 → 各自の研究テーマの決定
- ・先行研究との比較、考察
- ・調査データをもととする各自の研究成果の発表、討議
- ・執筆分担、報告書の構成を決定
- ・報告書の作成

【履修上の注意事項】

受講者の積極的な参加、自主的な取り組みを期待します。言語調査・研究の面白さと醍醐味を体験してほしいです。

【評価方法】

演習への参加度、発表・質疑応答、研究レポートを総合的に評価します。

【テキスト】

授業中に適宜紹介します。

【参考文献】

その他、授業中で適宜紹介します。

演習Ⅳ

担当教員 仁野平 智明

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

国語教育学における諸問題についてとりあげ、検討・考察する。各自が設定したテーマに基づいて、研究の方法論を学びつつ考察を深め、発表して質疑応答・討議を行う形式とする。

【授業の展開計画】

学生の発表及びそれに対する質疑応答・討議を中心とするが、必要に応じて国語教育学に関する文献講読をおりませるなどして理解の深化を促す。前半は国語教育指導論に関する研究発表を、後半は文学作品を考察対象とした教材論に関する研究発表を行い、1月は4年次による卒業論文発表会とする。

1. ガイダンス
2. 国語教育学指導論の今日的な問題について
3. 研究発表①
4. 研究発表②
5. 研究発表③
6. 研究発表④
7. 教材論について
8. 研究発表⑤
9. 研究発表⑥
10. 研究発表⑦
11. 研究発表⑧
12. 研究発表⑨
13. 研究発表⑩
14. 卒業論文発表会①
15. 卒業論文発表会②
16. 総括、ゼミ論集発行に向けて

【履修上の注意事項】

国語科教職課程を履修していること。

教師を志し、学ぶことの厳しさと楽しさを共有したいと願う者の受講を望む。

【評価方法】

発表内容、授業への取り組み、出席状況などをもとにして総合的に判断する。

【テキスト】

必要に応じて紹介する。

【参考文献】

必要に応じて紹介する。

漢文学 I

担当教員 運天 亜紀子

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

漢文を読むためには漢字が本来持つ意味や文章の構造を把握し、日本語の古文法に従って和訳・解釈する知識が必要である。この講義では漢文を読むための基礎的な方法、調べ方を学び、「訓点」の施された漢文をより正確に読む訓練を繰り返しながら、漢文訓読に慣れ親しむことに重点をおく。

まずは漢文解釈に必要な文法事項の確認を徹底して行うが、それ以外にも練習を通して人名、書名、語彙、歴史事項といった漢文解釈のための基礎知識を身に着けたい。

【授業の展開計画】

漢文学 I では、日本語古典文法 I、II の講義と連携し、漢文訓読法及び語文法を復習し、辞書を引きながら、漢文を訓読し解釈する練習を繰り返す。方法としては、指定の教科書に沿って句法の解説を行い、練習問題を使って句法の確認と漢文解釈（和訳）を行っていく。

学習範囲が広範なため、中間テストと期末テストの実施を予定している。

週	授 業 の 内 容
1	登録・ガイダンス
2	「漢文訓読法基礎」 句法の整理（2）－否定
3	同上 句法の整理（2）－疑問・反語
4	同上 句法の整理（3）－使役
5	同上 句法の整理（3）－受身
6	同上 句法の整理（3）－比較
7	同上 句法の整理（3）－選択
8	中間テスト
9	同上 句法の整理（4）－仮定
10	同上 句法の整理（4）－限定
11	同上 句法の整理（4）－比況・抑揚
12	同上 句法の整理（4）－累加・詠嘆
13	同上 句法の整理（4）－願望
14	同上 句法の整理（4）－接続
15	授業のまとめとアンケート
16	期末テスト

【履修上の注意事項】

* 受講に際しては必ず『新字源』『漢語林』のような漢和辞典を用意すること。（電子辞書可）

* 「日本語古典文法I・II」を履修済みであること。履修していない場合は、前期オリエンテーションにてプレシメントテストを受け、漢文法の基礎を理解していることを確認した上で受講を許可する。

【評価方法】

中間テストと期末テストを中心に、授業態度や出席状況を含めて評価する。

【テキスト】

『基礎から解釈へ 漢文必携』三訂版（桐原書店）

【参考文献】

講義中紹介する。

漢文学Ⅱ

担当教員 運天 亜紀子

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

「漢文学Ⅰ」で身につけた漢文訓読の基礎知識を生かし、この講義では長文読解にポイントを置き、さまざまなジャンルの漢文（散文）を精読しながら正しい解釈と長文読解の実践力を身につける。また、単に内容の把握に止まらず、漢文講読を通して古代中国の文化、思想、歴史等を理解し、文章の美しさ、深さを味わう機会としたい。

【授業の展開計画】

前半は「漢文学Ⅰ」で学んだ漢文訓読の基礎をふまえ、訓読、現代語訳、語句の解釈を中心とした長文読解、内容の理解を深めるために「設問」にも取り組む。教材には沖縄県教員採用試験等の出題傾向を参考に、思想、歴史、伝記、説話等の様々なジャンルから短文を選定し、グループに分かれて持ち回りで内容についての発表を担当してもらう。その際担当者には「語釈」「訳読」等をまとめたレジュメの提出が課せられる。

また後半では韻文（詩）を学習対象とし、特に近体詩の構造について一通り学び、代表的な作品を鑑賞する。

週	授 業 の 内 容
1	登録・ガイダンス
2	「漢文の構造」文型を中心に
3	「読解トレーニング」『呂氏春秋』より
4	同上 『論語』より
5	同上 『十八史略』より
6	同上 『孟子』より
7	同上 『韓非子』より
8	発表 『史記』より
9	発表 『史記』より
10	発表 『唐宋八家文』より
11	発表 『唐宋八家文』より
12	発表 『戦国策』より
13	「近体詩の構造」押韻、平仄など
14	「近体詩鑑賞」李白、杜甫を中心に
15	授業のまとめとアンケート
16	期末テスト

【履修上の注意事項】

*受講に際しては『新字源』『漢語林』のような辞書を用意すること。

*漢文学Ⅰを履修済みであること。

【評価方法】

発表、レジュメの内容とテストを中心に、授業態度や出席状況を含めて評価する。

【テキスト】

『基礎から解釈へ 漢文必携』三訂版（桐原書店）及び、プリントやレジュメを適宜配布する。

【参考文献】

参考文献は講義中紹介する。

基礎演習 I

担当教員 田場 裕規、黒澤 亜里子、兼本 敏、仁野平 智明、大野 隆之、下地 賀代子（6クラス）

対象学年 1年

開講時期 前期

単位区分 必

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

1年生が大学生活にスムーズに移行できるように、履修計画や仲間づくりをサポートするとともに、情報収集・整理力など、大学生として必要となる「アカデミック・スキル」の基礎を幅広く習得することを目的とします。図書館オリエンテーションやワークショップなどの合同ガイダンスの実施と、要約文・意見文・レポートの作成方法についての学びを重ねながら、「読む」「書く」「話す」「聞く」力を高め、日本文化学科における学びの基礎的能力を習得することを目指します。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション、クラス開き
2	自己紹介
3	図書館オリエンテーション
4	大学入門①
5	大学入門②
6	要約文の書き方①
7	要約文の書き方②
8	意見文の書き方①
9	意見文の書き方②
10	意見文の書き方③
11	こころの健康ガイダンス
12	レポートの書き方
13	各ゼミごとの学習
14	キャリアガイダンス
15	まとめ、到達度の確認、夏休みの目標設定
16	(予備)

【履修上の注意事項】

- 1) 欠席する場合は必ず事前に連絡をすること。(無断欠席をしないこと)
- 2) 欠席回数が全授業回数の1/3を超えた場合は単位を与えない。

【評価方法】

課題の内容・提出、授業への取り組み、出席状況などをもとにして総合的に判断します。

【テキスト】

1回目のオリエンテーションにて説明します。

【参考文献】

1回目のオリエンテーションにて説明します。

基礎演習Ⅱ

担当教員 田場 裕規、黒澤 亜里子、兼本 敏、仁野平 智明、大野 隆之、下地 賀代子（6クラス）

対象学年 1年

開講時期 後期

単位区分 必

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

前期の「基礎演習Ⅰ」での学習内容をさらに発展させ、情報収集・整理力、分析力、思考力、批判力、発表力（プレゼンテーションスキル）、文章記述力など、大学生として必要となる「アカデミック・スキル」をさらに深く習得することを目的とします。環境問題やキャリアをテーマとする講座などの合同ガイダンスを実施するとともに、グループごとの研究発表を行い、共に学び合うことの大切さを理解し、日本文化に関する研究手法の基礎的能力を習得することを目指します。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション、クラス開き
2	日本文化学科で学ぶ学問諸領域
3	レジュメの書き方・まとめ方
4	文章の引用方法、著作権
5	研究発表の方法・テーマの提示、グループの決定
6	研究発表の見本(模擬発表)
7	環境意識を育てるためのガイダンス
8	グループ研究発表①
9	グループ研究発表②
10	グループ研究発表③
11	グループ研究発表④
12	グループ研究発表⑤
13	グループ研究発表⑥
14	キャリアガイダンス
15	まとめ、到達度の確認、春休みの目標設定
16	(予備)

【履修上の注意事項】

- 1) 欠席する場合は必ず事前に連絡をすること。（無断欠席をしないこと）
- 2) 欠席回数が全授業回数の1/3を超えた場合は単位を与えない。
- 3) 第3回、第4回は10月上旬の公休日に集中形式で実施する。

【評価方法】

発表の内容、授業への取り組み、出席状況などをもとにして総合的に判断します。

【テキスト】

1回目のオリエンテーションにて説明します。

【参考文献】

1回目のオリエンテーションにて説明します。

現代文学理論 I

担当教員 大野 隆之

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 琉球文化・人文情報コースは選択科目

【授業のねらい】

20世紀以降に出現した文学理論の基礎的な内容を、森鷗外「舞姫」をテキストとして実践的に理解する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	プロローグ 現代文学理論の歴史と背景。
2	現象学の考え方の基礎を理解する。「舞姫」の概要を確認する。
3	空間論 1 空間論の概要を学ぶ。
4	空間論 2 「舞姫」における空間を、ベルリン中心に理解する。
5	身体論 1 身体論の概要を学ぶ。
6	身体論 2 「舞姫」における進退の問題。二人の病を中心に。
7	構造主義 1 構造主義の基礎を学ぶ。
8	構造主義 2 構造分析と批評。
9	映像論 モンタージュとフォトジェニー。後期のサブカルチャー批評につなげる入門編。
10	ナラトロジー 1 ナラトロジーの基本的考え方。
11	ナラトロジー 2 「舞姫」における語りのメカニズム。
12	精神分析批評 1 基礎的な考え方。
13	精神分析批評 2 批評の可能性と問題点。
14	詩学 表現論とはどのようなものか。
15	まとめ 現代文学理論の可能性と留意点。
16	テスト

【履修上の注意事項】

大野ゼミ希望者は必ず履修すること。

【評価方法】

テストのみ。

【テキスト】

角川文庫『舞姫・うたかたの記』

【参考文献】

授業の中で毎週紹介する。

現代文学理論Ⅱ

担当教員 大野 隆之

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 琉球文化・人文情報コースは選択科目

【授業のねらい】

現代文学理論のうち沖縄文学に適用可能なものを抽出し、実際の作品を読み解きながら、作品分析の方法を学ぶ。

【授業の展開計画】

- 1, ポリフォニー 大城立裕「カクテルパーティー」
- 2, マイナー文学論 東峰夫「オキナワの少年」
- 3, 実証主義 久志英佐子「滅び行く琉球女の手記」
- 4, 男性原理と女性原理 又善栄喜「豚の報い」
- 5, ポストコロニアル 沖縄近代詩歌
- 6, サブカルチャー批評 ウルトラセブンと沖縄

【履修上の注意事項】

【評価方法】

レポート。

【テキスト】

『沖縄文学選』

【参考文献】

口承文芸学 I

担当教員 一俣 晴一郎

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

口承文芸について、特に沖縄の民間説話についての特徴をジャンル別に特徴を知らしめ、フィールドワークも実施する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	1. 後期講義の概要の説明。
2	2. 口承文芸の概要と分類。
3	3. 神話
4	4. 伝説 1
5	5. 伝説 2
6	6. フィールドワーク (6と7は同一日に実施)
7	7. フィールドワーク
8	8. 昔話 1
9	9. 昔話 2
10	10. 昔話 3
11	11. 昔話 4
12	12. 動物昔話 1
13	13. 動物昔話 2
14	14. 笑い話 1
15	15. 笑い話 2
16	16. 総括、レポート提出

【履修上の注意事項】

- 共通科目「沖縄の民話」と重なる所があるので、日文の学生は口承文芸学 I をお薦めする。
- フィールドワークを実施するので、受講者を学校車定員の 25 人に制限したい。

【評価方法】

- 出席状況 (欠席 5 回で単位は認められない) 欠席や遅刻で減点有り。
- レポート提出

【テキスト】

- 特になし。講義のたびに資料を配付する。

【参考文献】

コミュニケーション論

担当教員 下地 賀代子

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

この授業では、言語によるコミュニケーションのしくみを理解することを目標とします。具体的には、認知言語学および社会言語学の諸内容—ことばの意味、言語の伝達、言語意識、社会と言語行動、多言語社会など—を取り上げ、概説します。そして、これらの中から興味を持ったテーマを各自選び、調査を行うなどして実例を集め、検証・考察した内容を発表してもらいます。講義の最後には質疑応答の内容を反映させたレポートを提出します。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	言語コミュニケーションとは
3	認知意味論と社会言語学の諸概念
4	ことばの「意味」①
5	ことばの「意味」②
6	言語の伝達
7	言語意識
8	社会と言語行動①
9	社会と言語行動②
10	多言語社会
11	発表(1)
12	発表(2)
13	発表(3)
14	発表(4)
15	発表(5)
16	レポート提出

【履修上の注意事項】

出席日数が3分の2に満たない場合は原則として単位を認めないので、注意。
発表の日程は、受講人数及び授業の進み具合により変わる可能性があります。

【評価方法】

出席&授業への参加度(40%) + 発表(35%) + レポート(25%)
授業への参加度と発表の内容・取り組み方を重視します。

【テキスト】

プリントを配布します。

【参考文献】

町田健編／榎山洋介著『認知意味論のしくみ』研究社(2002)、町田健編／中井精一著『社会言語学のしくみ』研究社(2005)、久島茂『《物》と《場所》の意味論』くろしお出版(2002)、大堀寿夫編『認知コミュニケーション論(シリーズ認知言語学入門(第6巻))』大修館書店(2004)など。その他、授業中に適宜紹介します。

書道及び書道史 I

担当教員 比嘉 徳次

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

中学校書写教育に必要な知識と技能を習得することを主な目的とする。書写と書道の違いをしっかりと踏まえ、実技では中学校書写の教科書を題材とし、唐代楷書の臨書の方法なども学ぶ。また、中国・日本の書道史を概観し、用具・用材やその扱い方にも及ぶ。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	中学校国語科学習指導要領における書写の位置づけ
2	書写教育の現状と課題について
3	常用漢字について
4	筆順の原則①
5	筆順の原則②
6	許容の字体について
7	漢字の誕生ー甲骨文・金文ー
8	篆書・隸書について
9	様々な書ー行書・草書・木簡・帛書ー
10	書聖王羲之
11	平面から立体へ
12	二過折法と三過折法
13	初唐の三大家について
14	顔真卿と明朝体
15	臨書の方法につて
16	期末考査

【履修上の注意事項】

第1回で説明します

【評価方法】

第1回で説明します

【テキスト】

第1回で説明します（実習では中学校の教科書を利用します）

【参考文献】

第1回で説明します

書道及び書道史Ⅱ

担当教員 比嘉 徳次

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

中学校書写教育に必要な知識と技能を習得することを主な目的とする。書写と書道の違いをしっかりと踏まえ、実技では中学校書写の教科書を題材とし、唐代楷書の臨書の方法なども学ぶ。また、中国・日本の書道史を概観し、用具・用材やその扱い方にも及ぶ。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	文房四宝について
2	宋代・元代の書家とその書
3	明・清の書家とその書
4	行書・草書体について
5	仮名の誕生（万葉仮名）
6	平仮名と変体仮名・片仮名
7	三筆とその書
8	三跡とその書
9	平安朝の仮名の美
10	禅僧の書「墨跡」
11	記録用の公式書体「お家流について」
12	漢字仮名交じりの書について
13	文部科学省後援「硬筆・毛筆書写検定」について
14	六書について
15	琉球における書について
16	期末考査

【履修上の注意事項】

第1回で説明します

【評価方法】

第1回で説明します

【テキスト】

第1回で説明します（実習では中学校の教科書を利用します）

【参考文献】

第1回で説明します

情報システム論

担当教員 一芳山 紀子

対象学年 3年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

1・2年次において人文情報基礎および、文化情報処理論・文化情報学特殊講義・データベース論などにおいて、パソコンソフトウェアの初歩的知識・技術を習得している者。および、同等の知識・技術を持っている者を対象とする。ネット社会といわれる今日、ソフトウェアの知識や技術のみでは、解決できない諸問題が山積しています。本教科は、文系の学生が学ぶ機会の少なかったパソコンのハードウェア、ネットワーク、セキュリティそして情報倫理を包括的に学習し、情報運用管理能力を養い、ソフトウェア操作レベルのエンドユーザーから脱却し、実社会において「情報運用管理者」として活躍できるスキルを習得するものである。

【授業の展開計画】

- 1 パソコンの種類とハードウェア構成
- 2 本体を構成する部品とその役割
- 3 パソコン解体と組み立て
- 4 パソコンの周辺機器 ～日常でのメンテナンス～
- 5 ソフトウェアの種類/歴史とその機能/ファイルの概念
- 6 パソコンのトラブル対処 ハードウェア編
- 7 パソコンのトラブル対処 ソフトウェア編
- 8 情報倫理1：情報倫理の必要性和ネチケット
- 9 情報倫理2：関連法規（個人情報保護法・不正アクセス禁止法 他）
- 10 情報倫理3：サイバー犯罪の事例と対処法
- 11 ネットワーク基礎
- 12 著作権
- 13 インターネットセキュリティ
- 14 単元別確認テスト
- 15 期末試験
- 16 総括とまとめ/弱点指導

【履修上の注意事項】

原則として、人文情報基礎、データベース論の単位を取得したものを対象とし、パソコン上級者向けの授業と位置付ける。

【評価方法】

出席状況、学習態度、単元別テスト、期末試験などを総合的に判断し、評価する。（出席回数が全授業回数のおよそ二分の二を満たさない場合は単位を与えない）

【テキスト】

アプロスコンピュータ学院編：文系の学生のためのパソコン基礎概論 I

【参考文献】

パソコン整備士協会編：パソコン整備士検定試験3級公式テキスト

人文情報基礎

担当教員 山口 真也

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

日本文化学科の専門課程で修得する日本文化、琉球文化に関する知識をより広く、多様な手法で表現するために、ワープロソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの操作方法に関する基本的な技術を修得することを目指すとともに、文化研究の基礎となる、インターネットを活用した情報収集・文献収集のテクニックを身につけることで、文化研究における情報技術の必要性と可能性を実践的に学習する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス 文化情報学を学ぶ意義・パソコン教室、グループウェアの使い方・メール登録
2	PCの基本操作 日本語入力・ファイルの保存と削除・フォルダ管理
3	ワープロソフトの基本操作① 書式設定・書式の定義・ファイル保存・ファイルとフォルダの管理
4	ワープロソフトの基本操作② 拡張書式設定・ページレイアウト・参考機能(脚注)
5	ワープロソフトの基本操作③ クリップアートとワードアート・画像処理・パーティ案内文書の作成
6	ワープロソフトの基本操作④ 表と罫線設定・写真入り履歴書の作成
7	ワープロソフトの基本操作⑤ 図形描画・イラスト入りのハガキ、地図入りの文書作成
8	小テスト：文書入力(10分間350文字)、文書処理技能検定3級レベルの問題より
9	表計算ソフトの基本操作① データ入力・行と列の挿入、簡単な表計算(足し算・引き算)
10	表計算ソフトの基本操作② 簡単な関数(SUM、AVERAGE、DATE、IF)
11	表計算ソフトの基本操作③ 表の整形・グラフ作成方法、ワープロソフトとの連携
12	表計算ソフトの基本操作④ データベース機能・オートフィル設定・ページ設定・印刷
13	プレゼンテーションソフトの基本操作 写真、グラフの挿入・アニメーション・効果音設定
14	文献検索ガイダンス① 理論編(図書館・DBを使った文献収集方法)
15	文献検索ガイダンス② 実践編(図書館での文献検索演習)
16	テスト：データ活用検定3級レベルの問題より +到達度の確認

【履修上の注意事項】

- 1) 学籍番号順にクラス分けをする。無断でクラスを変更しないこと。
- 2) 日本語入力の練習は各自行うこと。速度が上がらない場合は相談に来ること。
- 3) 欠席した場合は翌週までに欠席届を提出し、次週までの課題の説明を受けること。(山口研究室5-405に持参)
- 4) 14回目、15回目の文献検索ガイダンスは、集中形式で、公休日に2時間続けて実施するので、日程を早めに調整して必ず出席すること。(日程は1回目の授業で発表)

【評価方法】

- 1) 演習課題の提出状況、出席状況、2回の小テスト、総合試験の点数を総合的に判断し、評価する。
- 2) 出席回数が全授業回数の2/3に満たない場合は単位を与えない。

【テキスト】

- 1) プリントを配布する。
- 2) 授業中に作成するデータの記録媒体として、USBメモリ(2GB以上、1000円程度)を各自で準備すること。

【参考文献】

卒業論文

担当教員 葛綿 正一

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義は卒業論文の作成をめざすものである。研究史をまとめ、分析の視点を設定し、論文の構成について考える。こうした方法論は広く応用が可能だと思われるので、ぜひ身につけてほしい。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	卒論とは何か	17	中間発表（8）
2	先行研究の整理（1）	18	中間発表（9）
3	先行研究の整理（2）	19	中間発表（10）
4	先行研究の整理（3）	20	中間発表（11）
5	先行研究の整理（4）	21	中間発表（12）
6	分析の視点（1）	22	中間発表（13）
7	分析の視点（2）	23	中間発表（14）
8	分析の視点（3）	24	中間発表（15）
9	分析の視点（4）	25	再検討（1）
10	中間発表（1）	26	再検討（2）
11	中間発表（2）	27	再検討（3）
12	中間発表（3）	28	再検討（4）
13	中間発表（4）	29	まとめ（1）
14	中間発表（5）	30	まとめ（2）
15	中間発表（6）	31	
16	中間発表（7）		

【履修上の注意事項】

【評価方法】

卒業論文によって成績を評価するが、その際、先行研究の整理、分析の視点、論文の構成などを重視する。

【テキスト】

『枕草子・徒然草・浮世草子一言説の変容』

【参考文献】

そのつど指示する

卒業論文

担当教員 下地 賀代子

対象学年 4年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

【授業のねらい】

「ことば」についての様々な研究分野から、各自が興味・関心を持っているテーマを選び、卒業論文としてまとめます。テーマについての先行研究を収集・検討し、問題点を明らかにして、調査・研究を進めていきます。また、中間発表を行うことによって、不十分な点を明らかにし、進捗状況を確認します。そして、その研究成果を文章化していきます。卒業論文はこれまでの「学び」の集大成です。早い段階から計画的に取り組んでほしいと思います。

【授業の展開計画】

次のような流れで卒業論文の完成を目指します。

- 1 テーマのしぼりこみ、確定
- 2 先行研究、資料の収集
- 3 内容の確認と考察→問題点を見つける
- 4 テーマにもとづく調査および研究
- 5 調査・研究成果の中間発表と討論
- 6 論文のアウトライン(目次)の作成
- 7 *夏休み：さらなる調査および研究
- 8 注・参考文献の書き方、引用の仕方
- 9 調査研究成果の中間発表(進捗状況の確認)
- 10 草稿の作成と提出
- 11 添削および個別指導
- 12 仮提出と添削
- 13 完成原稿(卒業論文)の提出

【履修上の注意事項】

進捗状況に応じて、個別的な面談も行います。

【評価方法】

卒業論文の内容と形式、またどのように取り組んだかという点を評価します。

【テキスト】

なし

【参考文献】

適宜紹介します

卒業論文

担当教員 田場 裕規

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講は卒業論文の作成をめざすものである。対象は概ね「古代文学」（上代文学・中古文学）を扱うものとするが、国語科教育における古典教育（古典文学教育）に関する分野も対象とする。

【授業の展開計画】

卒業論文執筆の主体は学生個人である。以下に示す展開計画は、参考（目安）のために記載するが、研究計画はそれぞれが作成して取り組む。

- 1 卒業論文の要件
- 2 卒業論文の進め方・年間計画作成
- 3 先行研究の検索、収集、整理①
- 4 先行研究の検索、収集、整理②
- 5 先行研究の検索、収集、整理③
- 6 先行研究の検索、収集、整理④
- 7 研究方法の検討①
- 8 研究方法の検討②
- 9 研究方法の検討③
- 10 小テーマの設定①
- 11 小テーマの設定②
- 12 卒業論文テーマの確定
- 13 卒業論文の構成
- 14 卒業論文の構成の検討
- 15 中間発表会
- 16 卒業論文の目次・章立て①
- 17 卒業論文の目次・章立て②
- 18 卒業論文の執筆方法①
- 19 卒業論文の執筆方法②
- 20 卒業論文の執筆①
- 21 卒業論文の執筆②
- 22 卒業論文の執筆③
- 23 卒業論文の執筆④
- 24 仮提出と添削
- 25 添削・個別指導①
- 26 添削・個別指導②
- 27 添削・個別指導③
- 28 卒業論文提出
- 29 卒業論文集の作成
- 30 卒業論文発表会

【履修上の注意事項】

- ①学位論文であることを自覚し、自分自身の向き合うテーマに対して謙虚に取り組んで欲しい。
- ②調査・検討作業をレジュメ等にまとめるときは遺漏のないように努めること。
- ③提出締め切りは厳守すること。

【評価方法】

論文の内容、組み立て、取り組み状況等を総合的に評価する。

【テキスト】

必要に応じて指示する。

【参考文献】

卒業論文

担当教員 仁野平 智明

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

各自の設定したテーマについて、先行研究をふまえたうえで、分析方法や論文の構成に関する方法論を身につけ、その成果を卒業論文としてまとめる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス	17	論の検証法
2	年間計画書作成	18	中間発表(1)
3	論文の構成、課題の見つけ方	19	中間発表(2)
4	文献・資料収集の方法および扱い方	20	中間発表(3)
5	研究概要の発表(1)	21	中間発表(4)
6	研究概要の発表(2)	22	中間発表(5)
7	研究概要の発表(3)	23	論文の執筆(1)・個別指導
8	研究概要の発表(4)	24	論文の執筆(2)・個別指導
9	研究概要の発表(5)	25	論文の執筆(3)・個別指導
10	研究概要の発表(6)	26	論文の執筆(4)・個別指導
11	研究概要の発表(7)	27	論文の執筆(5)・個別指導
12	研究概要の発表(8)	28	論文内容の発表・質疑応答(1)
13	研究概要の発表(10)	29	論文内容の発表・質疑応答(2)
14	研究概要の発表(11)	30	論文内容の発表・質疑応答(3)
15	前期の総括	31	総括
16	注釈の付け方・資料の整理法		

【履修上の注意事項】

3年生のゼミ論文とともに、論集を作成する。

【評価方法】

論文の内容、取り組みの姿勢などによって評価する。

【テキスト】

適宜紹介します。

【参考文献】

適宜紹介します。

卒業論文

担当教員 西岡 敏

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

3年次で設定したテーマを4年次で卒業論文として結実させます。卒業論文提出者（4年次）は、琉球語諸方言についての様々な研究分野から、自分が関心を持っているテーマを選択して、先行研究をふまえつつ、調査・研究の掘り起こし作業を進めていきます。調査・研究の成果を中間発表し、他の人の質問や意見を参考にして、不十分なところを直していきます。それらを論文という形として文章化し、個別的な指導・添削を受けてまとめます。

【授業の展開計画】

卒論テーマの確定
全体の略図を考える（目次の作成）
先行研究の検索、収集、内容確認（参考文献目録の作成）
テーマに基づく調査および研究
中間発表および討論
注釈の付け方、文献引用の仕方
草稿の作成と提出
草稿の添削および個別指導
仮提出と添削
完全原稿の執筆および提出
卒論発表会

【履修上の注意事項】

個別的な面談を必要とします。必要とあればゼミ合宿を行いません。

【評価方法】

論文の内容、形式、取り組み方などの観点から総合的に判断します。

【テキスト】

その都度指示します。

【参考文献】

その都度指示します。

卒業論文

担当教員 狩俣 恵一

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

卒業論文の対象分野は、オモロ・琉歌・組踊・琉球の神話や伝説や歌謡等の琉球文学である。テーマの設定、資料収集を行ったうえで、目次を作成しながら構想を立て、論文を執筆する。特に、自分のテーマと関連する先学の論文は十分に読み込むこと。

執筆に当たって重要なことは、「書くこと」は「考えること」であり、また文章力という技術を要することを認識すること。よって、実際に書き出す前に、ゼミの仲間同士で話し合い、質疑応答を活発にして論文の構想を練り上げるようにしたい。

【授業の展開計画】

第1回 卒業論文のテーマ設定の理由を各自が説明する。

第2回 論文執筆の段取りについて考える（目次の作成）

第3回～第14回 各自の発表と質疑応答

1. それぞれの研究テーマ設定についての説明と現段階の調査・研究報告
2. 資料収集と先行論文の報告

第15回 夏休みの課題をそれぞれ与え、それに関連した問題について討論する。

第16回 後期の最初の時間なので、1万字程度の論文を提出する。

第17回 各自の論文執筆に関連した質疑応答を行う。

第18回 卒業論文の仮提出

第19回～第28回 仮提出した論文の指導を受け、更に書き直す。

第29回～第32回 卒業論文集の作成

【履修上の注意事項】

1. 発表者が無断欠席した場合は、原則として単位を認めない。
2. 欠席が3分の1を超えた学生は、原則として単位を認めない。

【評価方法】

卒業論文と平常点及び出席

【テキスト】

なし

【参考文献】

各自の研究テーマに応じてその都度指示する。

卒業論文

担当教員 山口 真也

対象学年 4年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

【授業のねらい】

前年度の「演習II」にて行った個人研究を学術研究へと発展させ、ソフトウェア制作、社会調査(アンケート・観察・インタビュー調査)を本格的に実施し、卒業研究として完成させる。また、「卒業論文集」を出版すると共に、協力機関への報告・図書館への配布・卒業研究発表会の開催を通じて、2年間の個人研究の成果を広く公開する。これらの研究過程を通じて、①情報収集能力(文献調査力)、②データ集計能力、③情報分析力、④情報整理能力(論理的な文章構成力)、⑤情報発信力(プレゼンテーションスキル)、⑥コミュニケーションスキル・協働意識をさらに高め、卒業後、社会人として活躍するための基本的な知識・技能を習得することを目的とする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	卒業論文とはなにか?・卒業論文執筆の心得	17	卒業論文の執筆方法1 引用・脚注
2	卒業論文の進め方・作業計画書の作成	18	卒業論文の執筆方法2 調査結果の整理方法
3	学術論文の書き方1 主題規定文の作成	19	卒業論文の執筆方法3 調査結果の分析方法
4	学術論文の書き方2 序論執筆・問題意識	20	卒業論文の執筆1 (個別相談期間)
5	学術論文の書き方3 序論執筆・検証方法	21	卒業論文の執筆2 (個別相談期間)
6	学術論文の書き方4 学術論の文体	22	卒業論文の執筆3 (個別相談期間)
7	学術論文の書き方5 調査の方法	23	卒業論文の執筆4 (個別相談期間)
8	資料収集の方法1 図書・新聞記事	24	卒業論文の提出(仮提出)
9	資料収集の方法2 雑誌記事・学術論文	25	卒業論文の添削・個別指導1
10	卒業論文の構成1 目次・章立ての方法	26	卒業論文の添削・個別指導2
11	卒業論文の構成2 目次・章立ての発表①	27	卒業論文の添削・個別指導3
12	卒業論文の構成3 目次・章立ての発表②	28	卒業論文の最終提出・抄録の書き方
13	卒業論文の構成4 目次・章立ての発表③	29	卒業論文集の作成・印刷
14	卒業論文の構成5 目次・章立ての発表④	30	卒業論文最終発表
15	卒業論文の構成6 目次・章立ての発表⑤	31	
16	卒業論文の様式・英語タイトルの決定		

【履修上の注意事項】

【評価方法】

- 1) 卒業論文の完成度、提出状況、出席状況を総合的に判断し、評価します。
- 2) 出席回数が全授業回数 $\frac{2}{3}$ に満たない場合は単位を与えません。
- 3) 欠席する場合は欠席届を提出すること。(無断で欠席しないこと)
- 4) 10月～12月にかけては、1週間1回30分程度の個別相談を行い、卒業論文の執筆を進めていきます。
- 5) 2月末～3月にかけて合宿形式で卒業研究発表会を行います。

【テキスト】

前年度の卒業論文集を使用します。

【参考文献】

卒業論文

担当教員 吉田 肇吾

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

生涯学習社会・情報社会における図書館について、図書館情報学を中心とする学問分野の諸問題から、各々が独自のテーマを自由に設定し、卒業論文を執筆することで論理的思考の展開方法を学ぶ。具体的には「問題解決能力」として、各自の問題設定能力→あらゆる情報手段を使用した資料収集能力→収集した各種資料の比較・検討・選択能力→論文作成→発表→質疑応答・討論という論文作成作業プロセスをたどることにより、コミュニケーション能力まで含めた、社会生活の中で重要な実践的能力を養う。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション：論文作成プロセス	17	中間発表①
2	執筆スケジュールの組み方	18	中間発表②
3	テーマ設定・研究方法の確定	19	中間発表③
4	資料・情報の収集方法	20	中間発表④
5	論文の構成方法	21	論文執筆・個別指導①
6	内容発表の方法・質疑応答・討議について	22	論文執筆・個別指導②
7	各自のテーマ・研究方法の発表①	23	論文執筆・個別指導③
8	各自のテーマ・研究方法の発表②	24	論文執筆・個別指導④
9	各自のテーマ・研究方法の発表③	25	論文内容の発表・質疑応答①
10	各自のテーマ・研究方法の発表④	26	論文内容の発表・質疑応答②
11	個別指導①	27	論文内容の発表・質疑応答③
12	個別指導②	28	論文内容の発表・質疑応答④
13	個別指導③	29	論文内容の発表・質疑応答⑤
14	個別指導④	30	卒業論文提出
15	まとめ	31	総括
16	後期日程について		

【履修上の注意事項】

各自のテーマ設定に基づき、論文作成計画を立案し、計画に沿って着実に論文作成作業を進めること。

【評価方法】

提出された論文により評価する。

【テキスト】

各自のテーマ及び研究過程で適宜紹介する。

【参考文献】

卒業論文

担当教員 大城 朋子

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

テーマの最終設定、資料の収集と読み込み、論文の構想立て、実際の調査や分析等を行い、推敲を重ねるという一連の論文作成のプロセスを経て学術論文を完成させていきます。このような長期に渡る計画的で地道な研究を通して論理的な思考態度を身につけ、大学での学問の集大成とします。具体的には以下に示すような手順で進めます。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション、テーマの絞り込み
2	論文作成構想と具体的年間計画
3	テーマに関する論文目録の作成と発表
4	先行研究の読み込みと発表①
5	先行研究の読み込みと発表②
6	先行研究の読み込みと発表③
7	仮説論証の方法と調査票作成
8	調査の実施とまとめ
9	調査の実施とまとめ
10	先行研究の読み込みと発表④
11	先行研究の読み込みと発表⑤
12	結果・分析・考察のまとめ①
13	結果・分析・考察のまとめ②
14	論文仮提出（12月第2週目の金曜日）
15	論文本提出（1月第2週目の土曜日）
16	. 論文発表と冊子作成

【履修上の注意事項】

上記の各プロセスの各段階で発表を繰り返し行っていくので、発表の頻度は高いものになります。準備を綿密に行うように。

【評価方法】

論文の内容を評価していきますが、論文完成に至までの過程における一連の課題や発表等への取り組みも評価の対象となります。

【テキスト】

必要に応じて、適宜資料を配布します。

【参考文献】

各自が、論文に用いる参考文献の内容を他のゼミ生に紹介していきます。よって、参考文献は多岐にわたることになります。

卒業論文

担当教員 大野 隆之

対象学年 4年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

言うまでもなく卒業論文は学術論文であり、その単位が認められることで学士の称号が与えられる。したがってそれにふさわしい水準が当然のこととして要求される。そのためには、特に近代・現代文学を対象とする場合は、何よりも独創的な「問題のたて方」が重要である。作家の年譜を淡々と並べたり、無用な引用を長々としたあと、自分の人生観を披瀝するような随筆は学術論文ではない。問題をたてる、その問題に対処する適切な方法を選択し必要な資料をそろえる、独善に注意しながら慎重に考察を進める、わかりやすく論理的に執筆する、授業では、それら各段階のポイントを指導する。具体的には以下に示すような手順で進めていく予定である。

- 1、論文のスタイルⅠ。作家論か、作品論か。
- 2、論文のスタイルⅡ。資料中心の実証主義か、方法を中心とするか。
- 3、題目＝問題の設定。発表。
- 4、関連資料の収集。読解。
- 5、中間発表。
- 6、個別指導。
- 7、執筆。
- 8、卒業論文提出。

【履修上の注意事項】

4年次は就職や、資格取得等で多忙であるが、最初から分かっていることなので、しっかりとした年間計画を立てること。

なるべく全集を購入すること。

【評価方法】

【テキスト】

必要に応じプリントを配布する。参考文献については各自に指導する予定である。

【参考文献】

卒業論文

担当教員 黒澤 亜里子

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

各自が設定した課題、テーマについて調査・研究を行い、卒業論文をまとめます。

【授業の展開計画】

- 1 卒業論文の進め方 年間計画作成
- 2 調査、文献・資料収集の方法
- 3 参考文献目録の作り方
- 4 研究史のまとめ方
- 5 方法、視点の検討
- 6 小テーマの設定
- 7 仮説論証の練習
- 8 卒論テーマの確定
- 9 構想表の作り方
- 10 中間発表 ※夏期合宿での「中間発表会」をふくめ、各自年間3回以上
- 11 論文執筆
- 12 卒業論文の形式、体裁の確認
- 13 手直し／推敲／完成
- 14 合評会

【履修上の注意事項】

夏期合宿（卒論中間発表会）への参加は必須です。

【評価方法】

論文の内容、調査・研究方法、取り組みの姿勢、努力など総合的に評価します。

【テキスト】

各自の課題、テーマに応じて指導します。

【参考文献】

適宜指示します。

地域社会情報論

担当教員 照屋 理

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

琉球文化圏における呪詞・歌謡などに関する調査を行い、一般に活用できるような資料として整理します。また、文献に出てくる地域を実際に訪ねるなど、教室・野外の両方向からのアプローチで、琉球文学についての見識を深めます。

【授業の展開計画】

授業では、以下のことの繰り返しを計画しています。

1. 課題（呪詞・歌謡等の調査結果）の提示
2. 学生によるレジュメの準備および発表
3. 学生および教員によるコメント・討議
4. 現地訪問の計画・しおりの作成
5. 現地訪問（フィールドメモ・撮影など）
6. 現地訪問で得た資料の整理およびまとめ
7. インターネットなどを通じた情報発信

【履修上の注意事項】

パソコン教室を利用するため、登録人数を制限しています。
出席日数が3分の2に満たない者は原則として単位を与えません。
担当者を決めて発表を行うので、担当者は準備を怠らないこと。

【評価方法】

平常点、レポート、試験。平常点とレポートを重視します。平常点では、授業への貢献（積極的な発言など）、授業における発表の内容・姿勢、現地訪問の際の貢献度などについて評価します。

【テキスト】

その都度配布します。電子データとして配布することもあります。

【参考文献】

その都度指示します。

地域データベース演習

担当教員 伊佐 常利（前半8回）、芳山 紀子（後半8回）

対象学年 3年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

パソコンの初歩的知識・技術を習得している者。2年次までにおいてパソコンの基礎導入である、ソフトウェア操作について体系的な学習を受けた者、および、同等の知識・技術を持っている者を対象とします。本講義では、前学年までに習得したExcel・Wordなどの基礎的なIT活用技術を基に、文系の学生のための更なる高度な分野でのITスキルの習得をめざし、卒業年度までに、個々人でJavaと連携した簡単なデータベースを構築することを最終目的とします。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	データベースとは/MySQLの概要と環境設定①
2	MySQL 1 MySQLの概要と環境設定②
3	MySQL 2 テーブルの作成、確認、削除/データ型と列制約/データの挿入/データの検索
4	MySQL 3 where句/比較演算子/論理演算子
5	MySQL 4 並び替え/データの上書き/データの削除
6	MySQL 5 あいまい検索/結合MySQL課題作成
7	MySQL課題作成
8	MySQL課題作成
9	Java基礎 1 コーディング基礎/コンパイルと実行
10	Java基礎 2 変数と宣言/代入/データ型
11	Java基礎 3 文字列/算術演算子/インクリメント・デクリメント/文字列連結
12	Java基礎 4 if/比較演算子/if else/if elseif else
13	Java基礎 5 論理演算子/for
14	Java基礎 6 /JSPとデータベースの連携 1
15	JSPとデータベースの連携 2
16	期末テスト

【履修上の注意事項】

本授業は、人文情報基礎、データベース論の単位取得者を対象とし、パソコン上級者向け授業と位置づける。（上記2科目の単位を取得していない学生は受講できない）

【評価方法】

演習課題の提出状況、出席・遅刻状況、学習態度、実力判定試験などを総合的に判断し、評価する。（出席回数が全授業回数の2/3に満たない場合は単位を与えない。）

【テキスト】

すべてオリジナルテキスト（アプロスコンピュータ学院）

【参考文献】

必要に応じて配布

地域データベース論

担当教員 伊佐 常利、芳山 紀子

対象学年 3年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

授業前半は、人文情報コースでのソフトウェア研究のための技術向上を目的として、ActionScriptを用いたFLASHでのクイズゲーム等の製作方法を学習します。

授業後半はAccessを活用し、基本的なデータベースの設計と作成、そしてデータベースの応用を体系的に学習し、独自のデータベースの構築ができるよう、その前提知識を習得します。

。(1回目～8回目：伊佐担当、9回目～16回目：芳山担当)

※人文情報コースにてソフトウェア制作を卒業研究のテーマとする学生は必ず受講すること。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ActionScript基礎① ActionScriptとの概念と基本記述／フレーム操作
2	ActionScript基礎② 変数とその役割／テキスト操作／プロパティ／ムービーシンボル／Ikボーン
3	ActionScript基礎③ 関数とその役割／ボタンイベント
4	ActionScript基礎④ 条件分岐 (if文)
5	ActionScript応用① 簡易ゲームの作成①
6	ActionScript応用② 簡易ゲームの作成②
7	ActionScript応用③ 簡易ゲームの作成③
8	最終課題
9	データベースとは／Accessの基礎知識／データベースの設計と作成／テーブルの作成①
10	テーブルの作成②／リレーションシップの作成／クエリの作成
11	フォームの概要／フォームの作成 (練習問題)
12	クエリの概要／クエリの作成 (練習問題)
13	レポートの概要① レポートの作成① (練習問題)
14	レポートの概要② レポートの作成② (練習問題)
15	ピボットテーブルとピボットグラフの作成 (練習問題)
16	総合演習問題

【履修上の注意事項】

- 1) 人文情報基礎、データベース論の単位取得者を対象とする。
- 2) 人文情報コースにてデータベース・ソフトウェア制作を卒業研究のテーマとする(予定の)学生は必ず受講すること。

【評価方法】

- 1) 演習課題の提出状況、出席・遅刻状況、学習態度、実力判定試験などを総合的に判断し、評価する。
- 2) 出席回数が全授業回数の2/3に満たない場合は単位を与えない。

【テキスト】

各担当の1回目の授業にて指示します。

【参考文献】

データベース論

担当教員 芳山 紀子

対象学年 2年

単位区分 選必

準備事項

備考 琉球文化・日本文化コースは選択科目

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

インターネットをはじめとするネットワーク環境の充実に伴い、データの活用能力はこれからの社会の中で、極めて重要な能力となってきた。本教科では、Excelを活用し、前学年の学習内容を基に、卒業後の企業におけるビジネスシーンで役立つスキルを習得させ、更なるデータ活用能力を養うとともに、パソコンの基礎概念の形成を第一義として掲げるものとする。更に、本講義においては、学生の卒業後におけるビジネス社会で通用するパソコンスキルを総合的に高めることを目的とする。

【授業の展開計画】

- 1 基礎編の復習とスキルの平均化1：ガイダンス、表計算機能、グラフ機能
- 2 基礎編の復習とスキルの平均化2：データベース機能、総合演習問題と解説
- 3 関数1：高度な関数の使用方法（複雑なネスト関数を自在に操る）
- 4 関数2：難易度の高い関数の活用、演習問題
- 5 ワークシートの連携：ワークシートのグループ化、データのリンク他
- 6 3-D集計/データベース機能応用1：複数のワークシートの一括集計、高度なデータベース機能他
- 7 データベース機能応用2：フィルタオプションの考え方と設定、演習問題
- 8 ピボットテーブル1：データの作成、ピボットテーブルの概要他
- 9 ピボットテーブル2：ピボットテーブルの作成、ピボットテーブルの修正と活用
- 10 自動集計機能：自動集計機能の概要、自動集計機能の活用
- 11 マクロ1：マクロ機能の概要、マクロの作成他
- 12 マクロ2：様々なオブジェクトへの登録、マクロの実行 他
- 13 パソコン理論講義（1）：共通分野講義
- 14 パソコン理論講義（2）：データベース分野講義
- 15 期末試験
- 16 期末定試験の総括とまとめ弱点指導

【履修上の注意事項】

本授業はパソコンの活用能力を高める授業として位置づける。

一年次の人文情報基礎で初歩的な知識・技術をすでに習得し、単位を取得した者を対象とする。（編入生のみ人文情報基礎との同時履修を許可する）

【評価方法】

出席状況、演習課題の提出状況、実力判定試験などを総合的に判断し、評価する。
出席回数が全授業数の2/3に満たない場合は単位を与えない。

【テキスト】

すべてオリジナルテキスト

【参考文献】

必要に応じ配布

FOM出版 日商PCデータ活用完全マスター2級・3級

図書館概論

担当教員 山口 真也

対象学年 1年

単位区分 選必

準備事項

備考 琉球文化・日本文化コースは選択科目

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

本授業は、図書館の存在意義・種類・機能を幅広く学び、現代の図書館が直面している課題や職員制度の問題などを取り上げ、広い視野から「図書館とは何か？」ということ进行学习する。図書館司書資格取得希望者にとってはその導入科目として位置づけ、資格課程で必要となる基礎知識を習得するとともに、自己の職業適性を考える機会とし、一般学生については、図書館の意義・利用法を幅広く知り、大学生活や将来の職業生活・社会生活に役立つ知識を得ることを目的とする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス・図書館の定義と機能・サービスの種類
2	図書館の構成要素と現代的課題(1)：建物・資料
3	図書館の構成要素と現代的課題(2)：職員・利用者
4	図書館の存在意義と法制度：民主主義社会と図書館の関係・表現の自由と知る自由の関係
5	図書館の存在意義と「図書館の自由」(1)：「自由宣言」と「倫理綱領」
6	図書館の存在意義と「図書館の自由」(2)：資料収集・提供の自由、『図書館戦争』のテーマ
7	図書館の存在意義と「図書館の自由」(3)：利用者の秘密を守る・個人情報保護
8	図書館の種類(1) 公共図書館①：設置主体・目的、サービス対象、収集する資料、「任務と目標」
9	図書館の種類(2) 公共図書館②：サービスの三原則
10	図書館の種類(3) 学校図書館①：設置主体・目的、サービス対象
11	図書館の種類(4) 学校図書館②：設置義務、司書教諭制度とその課題、沖縄の学校図書館の特徴
12	図書館の種類(5) 大学図書館：設置主体・目的、サービス対象、課題
13	図書館の種類(6) 専門図書館：種類、特徴、地方議会図書室、病院図書館、刑務所図書館など
14	図書館の種類(7) 国立国会図書館・外国の図書館：種類、目的、利用方法、納本制度
15	図書館をめぐる様々な制度とその課題：著作権・出版流通制度・書籍のデジタル化
16	試験

【履修上の注意事項】

図書館司書資格取得希望者は、新年度に行っている図書館司書課程オリエンテーションにて、履修の順序を確認した上で履修してください。

【評価方法】

- 1) 期末試験の点数、レポート、出席状況で総合的に評価します。
- 2) 出席回数が2/3に達しない場合は、単位を与えません。
- 3) 遅刻3回で1回の欠席とします。

【テキスト】

1回目の授業で指示します。
適宜、プリントを配布します。

【参考文献】

図書館サービス論

担当教員 一呉屋 美奈子

対象学年 1年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

利用者と直接関わる図書館サービスの意義、特質、方法についての理解や知識を深める。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	1. 図書館の機能とサービス(1. 図書館の機能とサービス 2. 図書館サービスの役割と制度)
2	2. 図書館の機能とサービス (3. 図書館サービスの種類 4. 図書館サービスとネットワーク)
3	3. 図書館サービスとマネジメント
4	4. 来館者へのサービス
5	5. 利用空間の整備
6	6. 貸出サービスの構造
7	7. 資料提供の展開1 (リクエストサービス 相互貸借 広域利用 読書案内 団体貸出)
8	8. 資料提供の展開2 (複写サービスと著作権 利用記録とプライバシーへの配慮)
9	9. 情報提供サービス 1
10	10. 情報提供サービス 2
11	11. 利用対象に応じたサービス (児童 ヤングアダルト 高齢者)
12	12. 利用対象に応じたサービス (障がい者 多文化)
13	13. 多様な利用者サービス
14	14. 多様な利用者サービス
15	15. 利用者との交流
16	試験

【履修上の注意事項】

出席日数が3分の2に満たない者には、原則として単位を与えない。
人数が多かった場合は、4年次を優先いたします。

【評価方法】

期末試験、またはレポートと出席日数で総合的に評価する。

【テキスト】

『図書館サービス論』(JLA図書館情報学テキストシリーズ2) 日本図書館協会 (2010/02)

【参考文献】

『図書館学基礎資料』第10版 今まど子/編, 樹村房

図書館情報資源概論

担当教員 山口 真也

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

図書館資料全般の歴史・特質を論じ、その出版と流通のあり方、資料収集の理念・方法、選択ツールの種類、管理・保存方法について具体的に解説する。また、今日の図書館では図書資料以外にも、さまざまな視聴覚資料や電子資料が収集・提供されているため、これらの新しいメディアの特質や利用等にも言及する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス・図書館資料の定義・条件・種類
2	図書館資料の収集と選択(1)：収集方針・選書の必要性・いろいろな選書論
3	図書館資料の収集と選択(2)：収集方法・整理方法(資料組織化の意義と方法)
4	図書館資料の保存(1)：資料保存の意味、資料保存の具体的な方法
5	図書館資料の保存(2)：資料保存をめぐる問題、劣化・破損・盗難・職員・酸性紙問題
6	図書館資料と「図書館の自由」(1)：図書館の自由・知る自由とは？、『図書館戦争』の読み方
7	図書館資料と「図書館の自由」(2)：各図書館における「検閲」事例(わいせつ・出版倫理)
8	図書館資料と「図書館の自由」(3)：各図書館における「検閲」事例(人権侵害資料・プライバシー)
9	図書館資料と「図書館の自由」(4)：各図書館における「検閲」事例(差別資料)
10	図書館資料の種類(1)：印刷資料—図書・雑誌・新聞・小冊子・地図 ISBNとISSNの違い
11	図書館資料の種類(2)：非印刷資料—点字録音資料・マイクロ資料・著作権問題
12	図書館資料の種類(3)：非印刷資料—映像資料・音声資料・電子資料・ネットワーク情報源
13	図書館資料の種類(4)：灰色文献—行政資料・地域資料、図書館員の役割
14	図書館資料と出版流通問題(1)：図書館と出版界・書店の関係、委託販売・再販制
15	図書館資料と出版流通問題(2)：電子書籍と図書館
16	試験

【履修上の注意事項】

図書館司書資格取得希望者は、新年度に行っている図書館司書課程オリエンテーションにて、履修の順序を確認した上で履修してください。

【評価方法】

- 1) 期末試験の点数、レポート、出席状況で総合的に評価します。
- 2) 出席回数が2/3に達しない場合は、単位を与えません。
- 3) 遅刻3回で1回の欠席とします。

【テキスト】

1回目の授業で指示します。
適宜、プリントを配布します。

【参考文献】

馬場俊明著『図書館資料論』(JLA図書館情報学テキストシリーズII 7)、日本図書館協会、2008

日本芸能史 I

担当教員 宮城 茂雄

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

日本の古典芸能のなかで、琉球芸能の存在は重要な位置にあるといえる。それは、国が指定する重要無形文化財の指定数からもその重要度がわかる。それは、沖縄が琉球という王国を形成していた時代に発達した芸能が現在まで受け継がれたことによる。

この講義では、現代に伝わる芸能の中から古典芸能を中心に講義をすすめる。

【授業の展開計画】

- 1, 琉球古典芸能の歴史と概要
- 2, 琉球古典音楽 「三線音楽と琉歌の関係」
- 3, 琉球古典舞踊 「老人踊り」
「若衆踊り」
「女踊り」
「二才踊り」
- 4, 近代以後の琉球芸能 「雑踊り」
「歌劇・セリフ劇」
- 5, 古典芸能と民俗芸能の関係性
- 6, まとめ

【履修上の注意事項】

出席日数が3分の2に満たない場合は、原則として単位を認めない。
芸能鑑賞のため、ビデオなどの視聴覚教材を使用する講義が数回ある。
レポート提出を2回程度予定している。

【評価方法】

出席・レポート・期末試験

【テキスト】

テキストはなし。随時プリントを配布する。

【参考文献】

矢野輝雄著『沖縄舞踊の歴史』築地書館
矢野輝雄著『沖縄芸能史話』榕樹社

日本芸能史Ⅱ

担当教員 宮城 茂雄

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

日本芸能のなかで、琉球芸能の存在は重要な位置にあるといえる。それは、国が指定する無形文化財の指定数からもその重要度がわかる。その指定を受けている「組踊」や「琉球舞踊」は、首里城を中心に琉球の士族(ユカッチュ)によって深められてきた。

その発生・発達過程において、「能・狂言」「歌舞伎」など日本古典芸能の影響を受けているといわれる。この講義では、日本芸能史Ⅰで解説した琉球古典芸能を下敷きに、能や日本舞踊・上方舞などを中心に講義をすすめ、それぞれの芸能の関係性を考える。

【授業の展開計画】

- 1, 能楽と組踊「玉城朝薫とヤマト芸能」
- 2, 能楽概説
- 3, 謡
- 4, 仕舞
- 5, 作品研究 能「道成寺」と組踊「執心鐘入」
- 6, 舞と踊 ①歌舞伎舞踊（日本舞踊）と琉球舞踊
②上方舞と琉球舞踊
- 7, まとめ

【履修上の注意事項】

出席日数が3分の2に満たない場合は、原則として単位を認めない。
芸能鑑賞のため、ビデオなどの視聴覚教材を使用する講義が数回ある。
レポート提出を2回程度予定している。
日本芸能史Ⅰと連続して受講することが望ましい。

【評価方法】

出席・レポート・期末試験

【テキスト】

テキストはなし。随時プリントを配布する。

【参考文献】

矢野輝雄著『組踊への招待』琉球新報社
『能狂言事典』平凡社

日本語史 I

担当教員 一仲原 穰

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

日本語の音韻・語法・語彙等の各分野について、ある言語事実がどのように生じ、どのように発達したか、またどんな経路をとって衰え滅んだかを跡づける。初めに、日本語の変遷を大観し、重要なテーマを解説する。次に学生が、テキストあるいは研究書で述べていることが正しいか、原資料にあたって検証し、その結果を発表し、みんなで討議する。そのようにして、帰納法、実証方法を取得するのが目標である。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	序論（講義目標・講義方法・テーマの確認と担当決め）（日本語史の区分）
2	概説1（日本・上代語の特徴）
3	概説2（日本・中古語の特徴）
4	概説3（日本・中世語の特徴1）
5	概説4（上代～中世の言語資料）
6	上代の音韻1（上代特殊仮名遣いと母音など）
7	上代の音韻2（母音脱落など）
8	上代の文法1（動詞・形容詞活用の特徴）
9	上代の文法2（助動詞「り」、助詞「つ」など）
10	上代の語彙（和語と漢語、母音脱落、母音調和の法則など）
11	中古の文字（仮名の発生など）
12	中古の音韻（連声の発生など）
13	中古の文法（活用の種類の変異など）
14	中古の語彙（漢語の普及など）
15	中世の音韻（音便など）
16	中世の文法1（助動詞「う」「たし」など）

【履修上の注意事項】

一人ひとりが、自分がこのテーマを担当していたらどのように分析するか、という視点で発表を聞き、討議に積極的に参加してほしい。レポートは発表に関する評価だけでなく、底本となる文献の選び方、言語資料（データ）の集め方、データの分類や整理の仕方、レジュメの作り方などに対する評価を具体的に記すようにしてほしい。また、提出期限を守ることを厳守。

なお、この講義を登録できるのは原則として「日本語学概論」を履修、または登録済みの者に限る。

【評価方法】

研究発表（55%）、レポート（授業記録）（30%）、討議（授業参加）（15%）により、総合的に判断して成績をつける。

【テキスト】

『日本語史』沖森卓也・金子彰・近藤泰弘・久保田篤著（おうふう、1989年）

【参考文献】

『はじめて読む日本語の歴史』沖森卓也著（2010年、ベレ出版）

『日本語の歴史』山口仲美著（岩波新書、2006年）

『新訂 国語史要説』土井忠夫・森田武著（修文社、初版1955年・新訂版1975年）

日本語史 I

担当教員 下地 賀代子

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

日本語の音韻・語法・語彙等の各分野について、ある言語事実がどのように生じ、どのように発達したか、またどんな経路をとって衰え滅んだかを跡づける。初めに、日本語の変遷を大観し、重要なテーマを解説する。次に学生が、テキストあるいは研究書で述べてあることが正しいか、原資料にあたって検証し、その結果を発表し、みんなで討議する。そのようにして、帰納法、実証方法を取得するのが目標である。

【授業の展開計画】

- 1 序論（講義目標・講義方法・テーマの確認と担当決め）（日本語史の区分）
- 2～5 概説1（日本・上代語の特徴）
概説2（日本・中古語の特徴）
概説3（日本・中世語の特徴1）
概説4（上代～中世の言語資料）
- 6～16 上代の文字・音韻・文法・語彙に関する研究発表と質疑
中古の文字・音韻・文法・語彙に関する研究発表と質疑
中世の文字・音韻に関する研究発表と質疑

※講義の進捗状況により、内容を変更することもある。

【履修上の注意事項】

1人ひとりが、自分がこのテーマを担当していたらどのように分析するか、という視点で発表を聞き、討議に積極的に参加してほしい。

レポートは発表に関する評価だけでなく、底本となる文献の選び方、言語資料（データ）の集め方、データの分類や整理の仕方、レジュメの作り方などに対する評価を具体的に記すようにしてほしい。また、提出期限を守ること（厳守）。

【評価方法】

研究発表(55%) + レポート[授業記録](30%) + 討議[授業参加](15%)
により、総合的に判断して成績をつける。

【テキスト】

沖森卓也・金子彰・近藤泰弘・久保田篤著『日本語史』おうふう（1989）

【参考文献】

沖森卓也『はじめて読む日本語の歴史』ベレ出版（2010）、山口仲美著『日本語の歴史』岩波新書（2006）、土井忠夫・森田武著『新訂 国語史要説』修文社（初版1955・新訂版1975）、山口明穂・鈴木英夫・坂梨隆三・月本雅幸著『日本語の歴史』東京大学出版社（1997）

日本語史Ⅱ

担当教員 一中原 穰

対象学年 2年

単位区分 選必

準備事項

備考 琉球文化・人文情報コースは選択科目

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

日本語の音韻・語法・語彙等の各分野について、ある言語事実がどのように生じ、どのように発達したか、またどんな経路をとって衰え滅んだかを跡づける。初めに、日本語の変遷を大観し、重要なテーマを解説する。次に学生が、テキストあるいは研究書で述べてあることが正しいか、原資料にあたって検証し、その結果を発表し、みんなで討議する。帰納法、実証方法を取得するのが目標である。

【授業の展開計画】

日本語史Ⅱ（後期）

週	授 業 の 内 容
1	序論（講義目標・講義方法・テーマの確認と担当決め）（日本語史の区分）
2	概説1（日本・中世語の特徴2）
3	概説2（日本・近世語の特徴）
4	概説3（日本・近現代語の特徴）
5	概説4（中世～近現代の言語資料）
6	中世の文法2（尊敬語、謙譲語など）
7	中世の文法3（丁寧語「候」の発生など）
8	中世の語彙（女房言葉の構造など）
9	近世の文体（文体の分類とその特徴など）
10	近世の音韻（四つ仮名の混同など）
11	近世の文法1（代名詞など）
12	近世の文法2（已然形と仮定形の交替など）
13	近世の文法3（形容詞・形容動詞の新しい活用など）
14	近世の文法4（丁寧語「です」などの発生など）
15	近現代の文体（言文一致文）
16	近現代の語彙（西洋からの外来語）

【履修上の注意事項】

一人ひとりが、自分がこのテーマを担当していたらどのように分析するか、という視点で発表を聞き、討議に積極的に参加してほしい。レポートは発表に関する評価だけでなく、底本となる文献の選び方、言語資料（データ）の集め方、データの分類や整理の仕方、レジュメの作り方などに対する評価を具体的に記すようにしてほしい。また、提出期限を守ることを厳守。

なお、この講義を登録できるのは原則として「日本語史Ⅰ」を履修済みの者に限る。

【評価方法】

研究発表（55%）、レポート（授業記録）（30%）、討議（授業参加）（15%）により、総合的に判断して成績をつける。

【テキスト】

『日本語史』沖森卓也・金子彰・近藤泰弘・久保田篤著（おうふう、1989年）

【参考文献】

『はじめて読む日本語の歴史』沖森卓也著（2010年、ベレ出版）

『日本語の歴史』山口仲美著（岩波新書、2006年）

『新訂 国語史要説』土井忠夫・森田武著（修文社、初版1955年・新訂版1975年）

日本語史Ⅱ

担当教員 下地 賀代子

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

日本語の音韻・語法・語彙等の各分野について、ある言語事実がどのように生じ、どのように発達したか、またどんな経路をとって衰え滅んだかを跡づける。初めに、日本語の変遷を大観し、重要なテーマを解説する。次に学生が、テキストあるいは研究書で述べてあることが正しいか、原資料にあたって検証し、その結果を発表し、みんなで討議する。そのようにして、帰納法、実証方法を取得するのが目標である。

【授業の展開計画】

- 1 序論（講義目標・講義方法・テーマの確認と担当決め）（日本語史の区分）
- 2～5 概説1（日本・中世語の特徴2）
概説2（日本・近世語の特徴）
概説3（日本・近現代語の特徴）
概説4（中世～近現代の言語資料）
- 6～16 中世の文法・語彙に関する研究発表と質疑
近世の文字・音韻・文法・語彙に関する研究発表と質疑
近現代の文字・音韻・文法・語彙に関する研究発表と質疑

※講義の進捗状況により、内容を変更することもある。

【履修上の注意事項】

一人ひとりが、自分がこのテーマを担当していたらどのように分析するか、という視点で発表を聞き、討議に積極的に参加してほしい。レポートは発表に関する評価だけでなく、底本となる文献の選び方、言語資料（データ）の集め方、データの分類や整理の仕方、レジユメの作り方などに対する評価を具体的に記すようにしてほしい。また、提出期限を守ること（厳守）。

なお、この講義を登録できるのは原則として「日本語史Ⅰ」を履修済みの者に限る。

【評価方法】

研究発表(55%)＋レポート[授業記録](30%)＋討議[授業参加](15%)
により、総合的に判断して成績をつける。

【テキスト】

沖森卓也・金子彰・近藤泰弘・久保田篤著『日本語史』おうふう（1989）

【参考文献】

沖森卓也『はじめて読む日本語の歴史』ベレ出版（2010）、山口仲美著『日本語の歴史』岩波新書（2006）、土井忠夫・森田武著『新訂 国語史要説』修文社（初版1955・新訂版1975）、山口明穂・鈴木英夫・坂梨隆三・月本雅幸著『日本語の歴史』東京大学出版社（1997）

日本語音声学 I

担当教員 仲間 恵子

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

私たちの音声器官から発せられる声（言語音声）とは何かを現代日本語・標準語を中心に考え、必要に応じて諸言語・琉球語（琉球方言）との比較を行う。人は言語音声をどのように発声し、聞き取り、意味をもつ単位として使用しているのかを理解する。

【授業の展開計画】

進捗状況により内容は前後する

週	授 業 の 内 容
1	講義内容のガイダンス
2	言語音声のラング的側面と非ラング的側面について
3	言語音声の非ラング的側面1（状況的側面）
4	言語音声の非ラング的側面2（個人的側面）
5	言語音声のラング的側面1（単語・音節・音素）
6	言語音声のラング的側面2（単語・文・イントネーション）
7	テスト（第1回）
8	五十音図と仮名の成立について
9	仮名文字と音声の関係
10	五十音図成立時の音声
11	行と段の音声学的要素
12	清音と濁音の音声学的要素
13	母音について
14	はねる音（撥音）とつまる音（促音）
15	現代日本語標準語の五十音図とは
16	テスト（第2回）

【履修上の注意事項】

講義は音声学に関する専門的な用語が多くありますが、専門用語がさししめす具体的な音声、または具体的なことがらを常に考えながら受講してください。時に一緒に発声することがあります。それができる学生の受講を希望します。

【評価方法】

テスト2回（各30%）とレポート1回（30%）。以上で評価の90%とする。残り10%を出席状況で判断する。5回以上の欠席は単位を認めない。

【テキスト】

「言語音声は何を伝えるか」上村幸雄1964

「五十音図の音声学」上村幸雄 1989

※各テキストとも教員で用意する。

【参考文献】

『日本語音声の研究 全7巻』杉藤美代子 和泉書院

日本語音声学Ⅱ

担当教員 仲間 恵子

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

私たちの音声器官から発せられる声（言語音声）とは何かを現代日本語・標準語を中心に考え、必要に応じて諸言語との比較を行う。日本語音声学Ⅰでの講義内容をふまえ、日本語標準語の音声の考察を深める。また、音声学における国際音声字母（IPA）の理論と表記法について日本語音声を主な具体例として学ぶ。

【授業の展開計画】

進捗状況により内容は前後する。

週	授 業 の 内 容
1	現代日本語標準語の規範的な音声
2	母音1（みじか母音音素となが母音音素／連母音／二重母音）
3	母音2（標準語の母音音素とジョーンズの基本母音）
4	母音3（母音音素まとめ）
5	子音1（音節を開く子音音素／音節を閉じる子音音素）
6	テスト（第1回）
7	子音2（直音と拗音）
8	子音3（直音と合拗音）
9	子音4（子音音素の調音と音声表記）
10	子音5（つまる音（促音）とはねる音（撥音）の調音と音声表記）
11	音節1（日本語のみじかい音節となが音節）
12	音節2（単語と音節）
13	音節とアクセント
14	アクセント
15	アクセントとイントネーション
16	テスト（第2回）

【履修上の注意事項】

講義は音声学に関する専門的な用語が多くありますが、常に用語がさししめす具体的な音声、または具体的なことがらを考えながら受講してください。時に一緒に発声することがあります。それができる学生の受講を希望します。

【評価方法】

テスト2回（各45%）。以上で評価の90%とする。残り10%を出席状況で判断する。

【テキスト】

「日本語 現代（音韻）」『言語学大辞典第4巻』上村幸雄

※テキストは教員で用意する。

【参考文献】

(1) 『ことばの科学入門』GLORIA J. BORDEN/KATHERINE S. HARRIS 廣瀬
肇訳 メディカルリサーチセンター (2) 『日本語音声の研究 全7巻』杉藤美代子 和泉書院

日本語学概論 I

担当教員 尚 真貴子

対象学年 2年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

日本語教育を実際に行う場合に役立つように、現代共通語としての日本語を説明する上で必要な基礎的知識を幅広く学習する。「音声」「語彙」「意味」「文法」「表記」「若者言葉」「ウチナーヤマトウグチ」などの個々の分野で、日本語教育面での重要事項や現代共通語の特質についてできる限り触れていきたい。そして、無意識に使用していた日本語を客観的に捉えられるような力を養ってもらいたい。

【授業の展開計画】

実際の授業の進め方（授業の展開計画）については、最初の授業の際に、詳しいシラバスを配布する予定である。

【履修上の注意事項】

積極的に教室活動に参加してほしい。

【評価方法】

総合的に評価（試験、発表等）するが、特に平常点（出席率、宿題、授業への参加度等）を重視する。

【テキスト】

配布資料と参考文献を中心に講義を進めていく。

【参考文献】

『概説日本語学』 鈴木 一彦他（明治書院）
『日本語概説』 加藤 彰彦他（おうふう）

日本語学概論Ⅰ

担当教員 下地 賀代子

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

私たちが普段もっとも口にする、耳にするコトバは、「日本語」と呼ばれる言語です。この授業では、現代共通語を題材に日本語の特徴について学んでいき、日本語学における基礎的知識および考え方の習得をめざします。そして、その専門的な知識を得ることによって、「コトバを客観的に捉える視点」を養ってもらいたいと思います。ふだん何気なく、無意識に使っている日本語が、いったいどのような特徴を持った言語なのかを意識的に考えてみましょう。Ⅰでは、語彙・意味を中心に解説していきます。また、言語の地域差に関わって文法についても少し触れます。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	「言語」とは？「日本語」とは？
3	文・語・形態素、品詞について
4	語彙とは、語の構成
5	語種と語感(1)：語種の出自とその特徴、和語と漢語
6	語種と語感(2)：外来語、混種語
7	語の位相(1)：集団語・役割語、性差とことば
8	語の位相(2)：世代差とことば、場面とことば
9	中間試験
10	語の位相(3)：地域差とことば、琉球の伝統方言とウチナーヤマトウグチ
11	「意味」とは、意味研究のいろいろ
12	語彙の意味関係(1)：包摂関係、類義関係
13	語彙の意味関係(2)：対義関係
14	語彙の意味関係(3)：意味の変化と多義語の成立、比喻、慣用表現
15	「意味」を捉える
16	期末試験

【履修上の注意事項】

出席と授業への参加度を重視します。

出席日数が3分の2に満たない場合は原則として単位を認めないので、注意。
講義の中で、予告なしに小テストを行うことがあります。

【評価方法】

出席&授業への参加度・小テスト(40%)＋中間試験(30%)＋期末試験(30%)

※中間試験の日程は、講義の進み具合により変わる可能性があります。

【テキスト】

テキストは使用せず、プリント・資料を配布します

【参考文献】

仁田義雄 他『改訂版 日本語要説』ひつじ書房、町田健編／中井精一著『社会言語学のしくみ』研究社、
宮地裕 他編著『講座日本語と日本語教育第6巻 日本語の語彙・意味(上)』明治書院
その他、授業中に適宜紹介します。

日本語学概論Ⅱ

担当教員 下地 賀代子

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

私たちが普段もっとも口にする、耳にするコトバは、「日本語」と呼ばれる言語です。この授業では、現代共通語を題材に日本語の特徴について学んでいき、日本語学における基礎的知識および考え方の習得をめざします。そして、その専門的な知識を得ることによって、「コトバを客観的に捉える視点」を養ってもらいたいと思います。ふだん何気なく、無意識に使っている日本語が、いったいどのような特徴を持った言語なのかを意識的に考えてみましょう。Ⅱでは、文字論と表記法を中心に解説していきます。また、日本語の歴史的な変遷に関わって音韻・音声についても触れます。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	文字と音声、日本語の文字
3	かな文字と発音の変化(1)：上代
4	かな文字と発音の変化(2)：中古
5	かな文字と発音の変化(3)：中世
6	かな文字と発音の変化(4)：近世
7	日本語の文体の変遷、言文一致
8	現代日本語の文字と書記法(1)：漢字の歴史と分類
9	中間試験
10	現代日本語の文字と書記法(2)：漢字の字体、漢語の構成、音読みと訓読み
11	現代日本語の文字と書記法(3)：漢字の問題、当用漢字と常用漢字
12	現代日本語の文字と書記法(4)：仮名遣い
13	現代日本語の文字と書記法(5)：漢字の送り仮名
14	現代日本語の文字と書記法(6)：ローマ字と外来語の表記
15	沖縄の人名・地名の漢字表記、これからの漢字の研究
16	期末試験

【履修上の注意事項】

出席と授業への参加度を重視します。

出席日数が3分の2に満たない場合は原則として単位を認めないので、注意。
講義の中で、予告なしに小テストを行うことがあります。

【評価方法】

出席&授業への参加度・小テスト(40%)＋中間試験(30%)＋期末試験(30%)

※中間試験の日程は、講義の進み具合により変わる可能性があります。

【テキスト】

テキストは使用せず、プリント・資料を配布します

【参考文献】

仁田義雄 他『改訂版 日本語要説』ひつじ書房、沖森卓也編『日本語史』おうふう
『新しい国語表記ハンドブック(第5版)』三省堂
その他、授業中に適宜紹介します。

日本語現代文法 I

担当教員 西岡 敏

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

日本語の総合的な運用能力を高めます。前期は敬語と文法に着目します。日本語検定3級の合格を目指し、実際に練習問題を解いていきます。

【授業の展開計画】

1. 敬語 尊敬語 謙譲語 I 謙譲語 II 丁寧語 美化語
2. 文法 語の文法 文の文法 語句の誤用と文のねじれ

【履修上の注意事項】

出席日数が3分の2に満たない者は原則として単位を与えません。
宿題は必ずやってくることを。

【評価方法】

平常点（30%）＋期末試験（70%）

【テキスト】

日本語検定公式テキスト「日本語」中級 3・4級受検用（東京書籍）
適宜、プリントを配ります。

【参考文献】

庵功雄・日高水穂・前田直子・山田敏弘・大和シゲミ2003『やさしい日本語のしくみ』（くろしお出版）。
佐々木瑞枝1994『外国語としての日本語』（講談社現代新書）。

日本語現代文法 I

担当教員 野原 優一

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

私たちは、物事を伝えたり、気持ちや考えを表したりするためにことばを使う。ことばにはいろいろ決まりがあるわけだが、その続け方（言語表現の組み立て方）の決まりを文法という。本講義は、ことばを文法的に考えることを通して日本語について考察を深めるとともに、自己の日本語力を豊かにすることも併せて習得する。前期（I）は敬語法、体言、用言を中心に学び、日本語検定3級合格を目指す。

【授業の展開計画】

1. 日本語の特色 2. 敬語： 待遇表現 3. 文法： 名詞 動詞 形容詞 形容動詞 接続詞 感動詞

- 第 1 回 ガイダンス 生活と言葉
- 第 2 回 日本語の特色
- 第 3 回 敬語（1）：敬語の種類と働き、敬語の形
- 第 4 回 敬語（2）：敬語の誤用、敬語連結、敬語のない敬意表現、非言語・パラ言語
- 第 5 回 敬語（3）：敬語例題・解答
- 第 6 回 語の文法 ：品詞、名詞（性質・種類・働き）
- 第 7 回 動詞（1）：動詞の性質・種類・活用形
- 第 8 回 動詞（2）
- 第 9 回 動詞（3）
- 第 10 回 形容詞 ：形容詞の性質・働き・活用
- 第 11 回 形容動詞 ：形容動詞の性質・働き・活用
- 第 12 回 文の文法 ：語順と係り受け、語句の誤用と文のねじれ
- 第 13 回 文法例題・解答
- 第 14 回 接続詞
- 第 15 回 感動詞、前期総括
- 第 16 回 期末試験

【履修上の注意事項】

出席日数が3分の2に満たない者は原則として単位を与えない。
宿題は必ずやってくること。

【評価方法】

平常点（30%）＋ 期末試験（70%）

【テキスト】

- ・『日本語検定公式テキスト「日本語」中級』（東京書籍）
- ・適宜、プリントを配る。

【参考文献】

- 『国文法の基礎』 永山 勇著 1989 洛陽社
- 『田中稔子の日本語の文法―教師の疑問に答えます―』 田中稔子 1994 近代文藝社
- 『口語文法ノート』 内間直仁監修 平成9年 数研出版

日本語現代文法Ⅱ

担当教員 西岡 敏

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

日本語の総合的な運用能力を高めます。後期は、語彙、言葉の意味、表記、漢字を扱います。日本語検定3級さらには2級の合格を目指し、実際に練習問題を解いていきます。

【授業の展開計画】

- | | | | |
|----------|---------|----------------|---------------|
| 1. 語彙 | 語と語の関係 | 結び付きにおける語の性格 | 語種と文体 |
| 2. 言葉の意味 | 似た言葉の区別 | 言葉の多義性 | ことわざ・慣用句・故事成語 |
| 3. 表記 | 現代仮名遣い | 送り仮名 | |
| 4. 漢字 | 異字同訓 | 字形が似ている漢字の使い分け | |

【履修上の注意事項】

出席日数が3分の2に満たない者は原則として単位を与えません。
宿題は必ずやってくることを。

【評価方法】

平常点（30％）＋期末試験（70％）

【テキスト】

日本語検定公式テキスト「日本語」中級 3・4級受検用（東京書籍）
適宜、プリントを配ります。

【参考文献】

庵功雄・日高水穂・前田直子・山田敏弘・大和シゲミ2003『やさしい日本語のしくみ』（くろしお出版）。
佐々木瑞枝1994『外国語としての日本語』（講談社現代新書）。

日本語現代文法Ⅱ

担当教員 野原 優一

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

私たちは、物事を伝えたり、気持ちや考えを表したりするためにことばを使う。ことばにはいろいろな決まりがあるわけだが、その続け方（言語表現の組み立て方）の決まりを文法という。本講義は、ことばを文法的に考えることを通して日本語について考察を深めるとともに、自己の日本語力を豊かにすることも併せて習得する。後期（Ⅱ）は、語彙・言葉の意味・漢字・表記、副詞・付属語などを扱い、日本語検定3、2級の合格を目指す。

【授業の展開計画】

1. 語彙 2. 言葉の意味 3. 表記 4. 漢字 5. 文法(副詞・連体詞・助詞・助動詞)

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス、前期の総括
2	語彙 : 語と語の関係 結び付きにおける語の性格 語種と文体
3	言葉の意味 : 似た言葉の区別 言葉の多義性 ことわざ・慣用句・故事成語
4	「語彙・言葉の意味」の例題・解答
5	表記 : 表記法 現代仮名遣い 送り仮名
6	漢字 : 常用漢字 異字同訓 字形が似ている漢字の使い分け
7	「表記・漢字」の例題・解答
8	副詞 : 副詞の性質・種類・用法
9	連体詞 : 連体詞の性質、まぎらわしい品詞、「副詞・連体詞」の例題・解答
10	助詞（1） : 助詞の性質・種類・意味・用法
11	助詞（2）
12	助詞（3）
13	助動詞（1） : 助動詞の性質・働き・意味・接続
14	助動詞（2）
15	助動詞（3）
16	期末試験

【履修上の注意事項】

出席日数が3分の2に満たない者は原則として単位を与えない。
宿題は必ずやってくること。

【評価方法】

平常点（30%）＋ 期末試験（70%）

【テキスト】

- ・『日本語検定公式テキスト「日本語」中級』（東京書籍）
- ・『日本語検定公式テキスト「日本語」上級』（東京書籍）
- ・適宜、プリントを配る。

【参考文献】

- 『国文法の基礎』 永山 勇著 1989 洛陽社
- 『田中稔子の日本語の文法―教師の疑問に答えます―』 田中稔子 1994 近代文藝社
- 『口語文法ノート』 内間直仁監修 平成9年 数研出版

日本語古典文法 I

担当教員 田場 裕規

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

高等学校までの古典文法（古文・漢文の文法）を復習し、古典文学作品を読むための基礎力の養成をめざす。文法だけに重きをおくのではなく、言語文化としての古典ということを意識して講義する。

【授業の展開計画】

- 1 ガイダンス
- 2 歴史的仮名遣い・言葉の単位・品詞
- 3 古文演習①
- 4 動詞
- 5 形容詞・形容動詞
- 6 古文演習②
- 7 名詞・連体詞・副詞
- 8 古文演習③
- 9 訓読について（送り仮名・返り点）
- 10 書き下し文
- 11 漢文演習①
- 12 再読文字・返読文字
- 13 漢文演習②
- 14 句形①
- 15 漢文演習③
- 16 テスト

【履修上の注意事項】

①後期「日本語古典文法Ⅱ」を継続履修すること。②A4サイズのノートを準備すること。③指定した範囲の予習をノートにした上で授業にのぞむこと。④古語辞典・漢語辞典を持参すること。⑤追試なるものは一切しない。ただし、どうしても単位取得の必要な学生は申し出ること。考慮しないことはない。⑥プリント類の保管・管理は受講者が行うこと。増し刷りや欠席者への対応はしない。自主性を重んじる。

【評価方法】

単純に（出席点＋テスト点＋ノート点）÷3＝成績点とする。ノート提出はテスト終了時を締め切りとする。

【テキスト】

『改訂版 楽しく学べる 基礎からの古典文法』（第一学習社）530円
『基礎から解釈へ 漢文必携』（桐原書店）520円

【参考文献】

日本語古典文法Ⅱ

担当教員 田場 裕規

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

前期に引き続き、高等学校までの古典文法（古文・漢文の文法）を復習し、古典文学作品を読むための基礎力の養成をめざす。文法だけに重きをおくのではなく、言語文化としての古典を意識して講義する。

【授業の展開計画】

- 1 助動詞①
- 2 助動詞②
- 3 古文演習
- 4 助動詞③
- 5 助動詞④
- 6 古文演習
- 7 助詞①
- 8 助詞②
- 9 古文演習
- 10 句形②
- 11 漢文演習
- 12 句形③
- 13 漢文演習
- 14 句形④
- 15 漢文演習
- 16 テスト

【履修上の注意事項】

①前期「日本語古典文法Ⅰ」も履修すること。②A4サイズのノートを準備すること。③指定した範囲の予習をノートにした上で授業にのぞむこと。④古語辞典・漢語辞典を持参すること。⑤追試なるものは一切しない。他だし、どうしても単位取得の必要な学生は申し出ること。考慮しないことはない。⑥プリント類の保管・管理は受講者が行うこと。増し刷りや欠席者への対応はしない。自主性を重んじる。

【評価方法】

単純に（出席点＋テスト点＋ノート点）÷3＝成績点とする。ノート提出はテスト終了時を締め切りとする。

【テキスト】

『改訂版 楽しく学べる 基礎からの古典文法』（第一学習社）530円
『基礎から解釈へ 漢文必携』（桐原書店）520円

【参考文献】

日本語表現法演習 I

担当教員 佐渡山 美智子

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

日本語表現法演習 I では、日本語の音声表現を中心に、基本である日本語の発声・発音、「伝える姿勢とその方法」を学び、グループワークを通して、互いに認め合い「繋がる」ことから理解を深めるプログラムです。「情報の収集」「理解」「整理」「選択」「表現」を実践しながらコミュニケーション力を高めます。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	日本語表現<音声表現>の現状とスキルアップの目的 班員紹介の実施方法
2	<音声表現>の基本―「姿勢」「発声」「発音」 班員紹介―班内紹介
3	<音声表現>の基本― 明瞭な発音「滑舌」 各班紹介
4	<音声表現>の基本―「外郎売」 人物スケッチの方法
5	<音声表現>の基本―「外郎売」 人物スケッチ＝他己紹介
6	<言葉に想いをのせて>詩の朗読―作品の選択・解釈 詩の創作スタート
7	<言葉に想いをのせて>詩の朗読―声・間の取り方・抑揚・強弱など
8	<言葉に想いをのせて>創作詩―言葉を選び紡ぐ <文字表現>創作詩集制作
9	<連携>創作詩集制作―報告・連絡・相談 役割分担と連携の方法
10	<集団表現>群読―実践 詩集配布
11	<理解>創作民話劇「鬼慶良間」について 台本配布
12	<集団表現>群読―鬼慶良間より 外郎売・暗唱表現テスト
13	<舞台表現>創作民話劇「鬼慶良間」キャスティングオーディション
14	「鬼慶良間」キャスティング・スタッフ決定 外郎売・暗唱表現テスト
15	表現の魅力と責任―言葉の力 外郎売・暗唱表現テスト
16	レポート提出

【履修上の注意事項】

- ・日本文化学科1年生は全員受講してください。
- ・出席日数が3分の2に満たない場合は単位を認めません

【評価方法】

2/3以上の出席を要件とし、授業態度、発表への取り組み、課題提出状況をもとに総合的に評価します。

【テキスト】

配付資料を使用します。

【参考文献】

1回目の授業で説明します。

日本語表現法演習Ⅱ

担当教員 佐渡山 美智子

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

日本語表現法演習Ⅱでは、日本文化学科の伝統として受け継いでいる創作民話劇「鬼慶良間」を大学祭で上演します。総合芸術といわれる舞台表現・演劇を、受講生全員がそれぞれの役割を担い、想いを繋いで創り上げる過程からコミュニケーション力を高め、表現することを実践します。後半では、論理的な思考と表現方法、理解力とあわせて自らの意思を伝えることを目的にディスカッションやディベートを行います。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	日本語表現法演習Ⅱの講義計画の説明と日程 鬼慶良間スタッフ紹介
2	「鬼慶良間」作品の解釈と説明・読み合わせ 本番までの計画書の作成
3	「鬼慶良間」立ち稽古 係ごとの報告・連絡・相談
4	「鬼慶良間」立ち稽古 係ごとの報告・連絡・相談
5	「鬼慶良間」通し稽古 係ごとの報告・連絡・相談
6	「鬼慶良間」ゲネプロ
7	「鬼慶良間」上演—大学祭①
8	「鬼慶良間」上演—大学祭②
9	「鬼慶良間」上映
10	プレゼンテーションとディスカッションについて —基本とマナー
11	ディスカッションのテーマをプレゼンテーション テーマ決定
12	グループディスカッションの実践 主張・論拠・データ検証
13	ディベートについて—ディベートの方法とその目的— 論理的な思考・発言力
14	ディベートの実践— ディベートマッチ
15	エンディング・グループワーク「これから」 表現の目的と方法について
16	レポート提出

【履修上の注意事項】

- ・日本文化学科1年生は全員受講してください。
- ・出席日数が3分の2に満たない場合は単位を認めません。

【評価方法】

2/3以上の出席を要件とし、授業態度、発表への取り組み、課題提出状況をもとに総合的に評価します。

【テキスト】

配付資料を使用します。

【参考文献】

1回目の授業で説明します。

日本史概論 I

担当教員 新城 俊昭

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

私たちが過去をふり返り、ある出来事について語ることは、現在の歴史観で過去の歴史事実に評価を下していることになる。いわば、現在の歴史観が明日の歴史の指針を示しているといえよう。私たちが過去の歴史事実にこだわるのは、その歴史評価を下している現在の目が、そのまま未来を見つめているからにほかならない。本講義では、日本の原始・古代から近世初期までの歴史を、史料・資料の分析を通して歴史事象の因果関係を明らかにし、その歴史的意義について考察する。

【授業の展開計画】

旧石器時代から室町時代までの歴史を概観するとともに、毎時間テーマを設定して学習を展開し、課題を深く掘り下げて学ぶことにより歴史的な思考力を培う。また、琉球・沖縄史にも視野を広げ、ウチナーンチュのアイデンティティの形成についても考察する。

週	授 業 の 内 容
1	旧石器時代の日本について港川人を中心に学ぶ。
2	縄文時代から弥生時代への移行について邪馬台国論争を中心に学ぶ。
3	大和政権の成立・発展と東アジア社会について学ぶ。
4	推古朝の政治と飛鳥文化について学ぶ。
5	平安初期の政治と文化について学ぶ。
6	摂関政治と国風文化について学ぶ。
7	武士の台頭と平氏政権について学ぶ。
8	鎌倉幕府の成立と執権政治の展開について学ぶ。
9	元寇と幕府の衰退及び鎌倉文化について学ぶ。
10	南北朝の動乱と室町幕府の政治・外交について学ぶ。
11	琉球王国の成立と発展について学ぶ。
12	東アジア社会と琉球の大交易時代について学ぶ。
13	惣村の発展と応仁の乱及び室町文化について学ぶ。
14	戦国の争乱とヨーロッパ人の来航について学ぶ。
15	授業のまとめ。沖縄歴史検定等で琉球・沖縄史についてのまとめ学習もする。
16	期末試験。

【履修上の注意事項】

特になし。毎回のテーマの進捗状況によって、扱うテーマを多少変更する場合もある。

【評価方法】

課題（レポート形式で3～5回程度）と試験の結果で評価する。試験は本講座で学んだ基礎知識の確認と、予め与えた課題から数点論述させる。配分は課題4割、テスト6割。また、授業に取り組む姿勢や意欲も重視する。場合によっては加点・減点することがある。

【テキスト】

特に指定教科書はない。毎回レジュメや史料・絵図などの参考資料を配布。副読本として『沖縄から見える歴史風景』新城俊昭著（編集工房東洋企画発行）を使用。

【参考文献】

プリントで配布または毎時間授業で紹介。

日本史概論Ⅱ

担当教員 新城 俊昭

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

私たちが過去をふり返り、ある出来事について語ることは、現在の歴史観で過去の歴史事実に評価を下していることになる。いわば、現在の歴史観が明日の歴史の指針を示しているといえよう。私たちが過去の歴史事実にこだわるのは、その歴史評価を下している現在の目が、そのまま未来を見つめているからにほかならない。本講義では、日本の近世から現代までの歴史を、史料・資料の分析を通して歴史事象の因果関係を明らかにし、その歴史的意義について考察する。

【授業の展開計画】

織豊政権から現代までの歴史を概観するとともに、毎時間テーマを設定して学習を展開し、課題を深く掘り下げて学ぶことにより歴史的な思考力を培う。また、琉球・沖縄史にも視野を広げ、ウチナーンチュのアイデンティティの形成についても考察する。

週	授 業 の 内 容
1	豊臣秀吉と琉球の関係について学ぶ。
2	江戸幕府の成立と幕藩制国家の仕組みについて学ぶ。
3	薩摩藩島津氏の琉球侵略について学ぶ。
4	幕藩制国家に組み込まれた近世琉球の社会と文化について学ぶ。
5	欧米列強の進出と日本の開国について学ぶ。
6	明治維新と廃琉置県(琉球処分)について学ぶ。
7	近代日本における沖縄の位置づけについて学ぶ。
8	不平等条約の改正と国境の確定について学ぶ。
9	日清戦争・日露戦争と沖縄の日本への同化について学ぶ。
10	第一次世界大戦と国際社会における日本の動向について学ぶ。
11	アジア太平洋戦争と沖縄戦の実相から見えるものについて学ぶ。
12	戦後日本の政治と米軍支配時代の沖縄について学ぶ。
13	高度経済成長期の日本と沖縄の「祖国復帰運動」について学ぶ。
14	現代日本の課題と沖縄の基地問題について学ぶ。
15	授業のまとめ。沖縄歴史検定等で琉球・沖縄史についてのまとめ学習もする。
16	期末試験。

【履修上の注意事項】

特になし。毎回のテーマの進捗状況によって、扱うテーマを多少変更する場合もある。

【評価方法】

課題(レポート形式で3～5回程度)と試験の結果で評価する。試験は本講座で学んだ基礎知識の確認と、予め与えた課題から数点論述させる。配分は課題4割、テスト6割。また、授業に取り組む姿勢や意欲も重視する。場合によっては加点・減点することがある。

【テキスト】

教科書は特に指定しない。毎回レジュメや史料・絵図などの参考資料を配布。副読本として『沖縄から見える歴史風景』新城俊昭著(編集工房東洋企画発行)を使用。

【参考文献】

プリントで配布または毎時間授業で紹介。

日本思想史 I

担当教員 田場 裕規

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講は、「古典に親しむ」ことを意識しながら、万葉集の歌を取り上げ、日本人と歌について講義する。また、歌を漢字表記することによって、どのような知的な活動が生まれていったのかということも考え、漢字と日本文化についても論じたい。

【授業の展開計画】

- 1 ガイダンス
- 2 歌のころ・言霊・霊魂
- 3 時代区分・万葉概説
- 4 磐姫皇后・雄略天皇
- 5 有間皇子
- 6 額田王
- 7 額田王と大海人皇子
- 8 壬申の乱と天武朝
- 9 大津皇子
- 10 柿本人麻呂①
- 11 柿本人麻呂②
- 12 高市黒人
- 13 歌の漢字表記①
- 14 歌の漢字表記②
- 15 日本人と歌—漢字表記から表現へ

【履修上の注意事項】

①無断欠席をしないこと（欠席後の欠席届は不要）。②プリント類の保管・管理は受講者が行うこと。増し刷りや欠席者への対応はしない。自主性を重んじる。

【評価方法】

単純に（出席点＋レポート点）÷2＝成績点とする。

【テキスト】

『万葉集』（いずれの出版社でものよいが、全歌を掲載してあるもの）

【参考文献】

伊藤博『萬葉集釋注』（集英社）
適宜紹介する。

日本思想史Ⅱ

担当教員 田場 裕規

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講は、「古典に学ぶ」ことを意識しながら、万葉集の歌を取り上げ、日本人と歌について講義する。「万葉びととの対話」ということをめざし、万葉びとの心について論じたい。今に生きる現代人が、「万葉びととの対話」によって、どのような価値観を見出すことができるか考えていきたい。前期の「日本思想史Ⅰ」を深化・拡充する。

【授業の展開計画】

- 1 ガイダンス
- 2 山部赤人
- 3 大伴旅人
- 4 山上憶良
- 5 高橋虫麻呂
- 6 大伴坂上郎女
- 7 戯れの歌
- 8 大伴家持①
- 9 東国農庶民①
- 10 東国農庶民②
- 11 防人
- 12 遣新羅使人
- 13 中臣宅守と狭野弟上娘子
- 14 大伴家持②
- 15 万葉の終焉

【履修上の注意事項】

①無断欠席をしないこと（欠席後の欠席届は不要）。②プリント類の保管・管理は受講者が行うこと。増し刷りや欠席者への対応はしない。自主性を重んじる。

【評価方法】

単純に（出席点＋レポート点）÷2＝成績点とする。

【テキスト】

『万葉集』（いずれの出版社でのよいが、全歌を掲載してあるもの）

【参考文献】

伊藤博『萬葉集釋注』（集英社）
適宜紹介する。

日本の音楽

担当教員 久万田 晋

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

日本の近代化以降、日本および沖縄において、どのようにしてポピュラー音楽が誕生し、従来の伝統音楽といかなる関係を持ちながら、どのような道筋を辿っていったかについて、時代別に見てゆく。それと共に、各時代において、日本的、あるいは沖縄的アイデンティティがいかに表現されているのかを考察してゆきたい。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	概論1 ポピュラー音楽の基礎概念
2	概論2 北米由来のポピュラー音楽
3	概論3 南米由来のポピュラー音楽
4	日本の近代化と西洋音楽の導入
5	大衆メディアの発展と流行歌の誕生
6	戦前期の流行歌 作曲家の時代
7	50年代の流行歌 ムード歌謡の登場
8	60年代の流行歌 演歌の誕生とフォーク
9	70年代以降のニューミュージックの展開
10	沖縄の新民謡の誕生 普久原朝喜
11	50～60年代の沖縄の新民謡
12	60年代沖縄のジャズとロック
13	70年代沖縄ポップの誕生と展開
14	90年代沖縄ポップの変容
15	2000年以降の沖縄のポピュラー音楽
16	試験

【履修上の注意事項】

第1回で説明します

【評価方法】

第1回で説明します

【テキスト】

第1回で説明します

【参考文献】

第1回で説明します

日本文化基礎演習

担当教員 大野 隆之

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 前期・後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考 琉球文化・人文情報コースは選択必修科目

【授業のねらい】

樋口一葉「たけくらべ」をグループで輪読することにより、朗読力、明治期の語彙に関する調査、読解力、批評力を身につける。

【授業の展開計画】

- 1, 教員による模擬発表、諸注意。
- 2, グループによる発表。

【履修上の注意事項】

グループ結成後の履修取り消しは認めない。

【評価方法】

発表内容が90%。特に朗読部分を最重視する。
期末テストを行う。これはグループ内における個人の力を確認するためのもので、評価の基本はグループの持ち点による。ただし不受験の場合は不可になるので注意。

【テキスト】

新潮文庫『にごりえ・たけくらべ』

【参考文献】

日本文化特殊講義 I

担当教員 岡部 嘉幸 (世話役：下地賀代子)

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 集中

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

「彼は走るダロウ」「彼は走るカモシレナイ」「彼は走るベキダ」「彼は走らナケレバナラナイ」などの形式は、それぞれ「推量」(ダロウ、カモシレナイ)、「当為・義務」(ベキダ・ナケレバナラナイ)というある特別な文の述べ方を表す。このような特別な文の述べ方を表すものをモダリティと呼ぶことにすると、日本語には上に挙げた形式の他にも様々なモダリティ形式が存在する。この授業では、日本語におけるモダリティ形式の意味・用法や類義的な2形式の意味の違いを具体的に概観するとともに、研究者の間で意見の対立がある「モダリティ」という概念についてこれまでどのような立場からどのような主張がなされてきたかを整理する。

【授業の展開計画】

- 01回：イントロダクション・この授業におけるモダリティの考え方
- 02回：モダリティ形式外観①—ウ・ヨウ
- 03回：モダリティ形式外観②—ダロウ
- 04回：モダリティ形式外観③—ハズダ(その1)：ハズダの用法
- 05回：モダリティ形式外観④—ハズダ(その2)：ハズダの否定
- 06回：モダリティ形式外観⑤—ハズダとニチガイナイ
- 07回：モダリティ形式外観⑥—ニチガイナイとカモシレナイ
- 08回：モダリティ形式外観⑦—連用形接続のソウダ
- 09回：モダリティ形式外観⑧—ヨウダ・ヨウナ・ヨウニ
- 10回：モダリティ形式外観⑨—ヨウダとラシイ
- 11回：モダリティ形式外観⑩—修士形式接続のソウダ・ソウダと他の伝聞形式
- 12回：モダリティ形式外観⑪—ベキダとナケレバナラナイ
- 13回：モダリティとは何か①—言語学における考え方
- 14回：モダリティとは何か②—日本語学における考え方(その1)
- 15回：モダリティとは何か③—日本語学における考え方(その2)
- 16回：授業のまとめ

【履修上の注意事項】

教科書は使用しない。授業中にプリントを配布する。

【評価方法】

授業内に行われる小テスト・小レポートと最終レポートにより総合的に評価する。

【テキスト】

【参考文献】

- 仁田義雄(1991)『日本語のモダリティと人称』(ひつじ書房)
- 益岡隆志(1991)『モダリティの文法』(くろしお出版)
- 尾上圭介編(2004)『朝倉日本語講座6巻・文法Ⅱ』(朝倉書店)

日本文化特殊講義Ⅱ

担当教員 島村 幸一 (世話役：西岡 敏)

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 集中

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

琉球王府の宮廷歌謡集『おもろさうし』から20首のオモロを取りあげ、それを解説することをとおして、『おもろさうし』はもちろんのこと、古琉球期の琉球王府の宗教世界や歴史、民俗、言葉、及び琉球孤の歌謡表現を学ぶことを目的とする。

【授業の展開計画】

- 1回：『おもろさうし』概説 オモロとは、編纂・構成
- 2回：第1－35、第3－93 「八重山侵略」と「島津侵攻」
- 3回：第2－42 東方に門を開くグスク
- 4回：第5－264、第8－466 男性歌唱者のウタ表現
- 5回：第10－524、534 久高島行幸
- 6回：第11－568 久米島の英雄
- 7回：第11－596、第12－671 神が現れる時、琉球の二つの季節
- 8回：第12－740 詞書きを持つオモロ
- 9回：第13－760、878 鳥に譬喩される船、理想的な航行
- 10回：第13－904、965 ヲナリ神に守られる船人
- 11回：第14－983 オモロの恋歌
- 12回：第14－986 馬上の「英雄」
- 13回：第16－1129 勝連の阿摩和利
- 14回：第20－1371 那覇に繋がる地方オモロ
- 15回：第21－1411 高級神女、君南風の招来
- 16回：試験

【履修上の注意事項】

琉球文学・文化を広く知ろうとする意欲ある受講生を望む。遅刻をしないように。

【評価方法】

平常点（主に出席等）と試験による総合評価。試験は、下記の教科書、及び配布したプリント持ち込みによる記述形式のもの。

【テキスト】

教科書として『コレクション日本歌人選56 おもろさうし』（笠間書院）を使用し、後はこちらでつくったプリントで補う。

【参考文献】

日本文化特殊講義Ⅲ

担当教員 仁野平 智明（後半）／田場 裕規（前半）

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

古今東西、人間は言語によって対象を認識し表現してきた。評論や文学作品に表れた書き手の価値観や、それを述べるに用いられた論理構造をとらえることによって、言語で表現することの意味を考えていく。あわせて、テキストそのものを精緻に読む能力を身につけることを目指す。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	読むこと・書くこととは
3	日本古典①
4	日本古典②
5	日本古典③
6	日本古典④
7	中国古典①
8	中国古典②
9	中国古典③
10	近代評論①
11	近代評論②
12	近代評論③
13	現代評論①
14	現代評論②
15	現代評論③
16	総括

【履修上の注意事項】

- (1) 国語科教職課程履修者のみの履修を認める。
- (2) 課題を出すことが多くなるが、きちんと果たして授業に臨むこと。

【評価方法】

提出物、出席状況などにより、総合的に評価する。

【テキスト】

適宜指示する。

【参考文献】

プリントを配布する。

日本文化特殊講義Ⅳ

担当教員 仁野平 智明（前半）／田場 裕規（後半）

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

古今東西、人間は言語によって対象を認識し表現してきた。評論や文学作品に表れた書き手の価値観や、それを述べるに用いられた論理構造をとらえることを通して、言語によって表現することの意味を考えていく。日本文化特殊講義Ⅲの内容をふまえ、テキストそのものを精緻に読む能力のさらなる向上を目指す。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	読むこと・書くこととは
3	日本古典①
4	日本古典②
5	日本古典③
6	日本古典④
7	中国古典①
8	中国古典②
9	中国古典③
10	近代評論①
11	近代評論②
12	近代評論③
13	現代評論④
14	現代評論⑤
15	現代評論⑥
16	総括

【履修上の注意事項】

- (1) 国語科教職課程履修者のみの履修を認める。
- (2) 課題を出すことが多くなるが、きちんと果たして授業に臨むこと。

【評価方法】

提出物、出席状況などにより、総合的に評価する。

【テキスト】

適宜指示する。

【参考文献】

プリントを配布する。

日本文化論

担当教員 葛綿 正一

対象学年 1年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

本講義は、日本文化について概観するものである。まず絵巻と古典文学について考え、次に演劇と古典文化について考え、最後に映画と現代文化について考える。日本文化の多様性や広がりを知ってほしい。ビデオ資料を活用する予定である。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	文化論の陥穽
2	絵巻と日本文化（1）
3	絵巻と日本文化（2）
4	絵巻と日本文化（3）
5	絵巻と日本文化（4）
6	演劇と日本文化（1）
7	演劇と日本文化（2）
8	演劇と日本文化（3）
9	演劇と日本文化（4）
10	映画と日本文化（1）
11	映画と日本文化（2）
12	映画と日本文化（3）
13	映画と日本文化（4）
14	まとめ（1）
15	まとめ（2）
16	

【履修上の注意事項】

【評価方法】

三回のレポートによって成績を評価する。

【テキスト】

開講時に指示する

【参考文献】

そのつど指示する

日本文学概論

担当教員 大野 隆之

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 前期・後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

世界文化の中の日本文学という視点を特に利解するために英文で書かれた日本文学論を講読する。

【授業の展開計画】

- 1, ドナルドキーンについて
- 2, 日本文学と中国文学
- 3, 日本特有の掛詞について
- 4, 暗示と象徴
- 5, 世界文学に対する日本文学の影響
- 6, 日本文学の構成力について

【履修上の注意事項】

毎回予習すること。

【評価方法】

発表もしくはレポートで受験資格を獲得し、期末テストで評価する。

【テキスト】

Donald Keene "Japanese Literature"
こちらで配布するので、購入は不要。

【参考文献】

日本文学講読 I

担当教員 田場 裕規

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講は『宇治拾遺物語』の講読を行い、語彙、文法、表現等への理解を深め、古文読解力の養成をめざす。国語の教職免許状取得のために必要な科目でもあるので、高等学校において教えるうる読解力を想定して講義する。

【授業の展開計画】

- | | | | |
|---|-----------------|----|--------------|
| 1 | ガイダンス | 9 | 『宇治拾遺物語』の講読⑥ |
| 2 | 説話とは何か | 10 | 『宇治拾遺物語』の講読⑦ |
| 3 | 『宇治拾遺物語』の類話について | 11 | 『宇治拾遺物語』の講読⑧ |
| 4 | 『宇治拾遺物語』の講読① | 12 | 『宇治拾遺物語』の講読⑨ |
| 5 | 『宇治拾遺物語』の講読② | 13 | 『宇治拾遺物語』の講読⑩ |
| 6 | 『宇治拾遺物語』の講読③ | 14 | 『宇治拾遺物語』の講読⑪ |
| 7 | 『宇治拾遺物語』の講読④ | 15 | 『宇治拾遺物語』の講読⑫ |
| 8 | 『宇治拾遺物語』の講読⑤ | 16 | テスト |

【履修上の注意事項】

- ①無断欠席をしないこと。②指定した範囲の予習をした上で講義に臨むこと。③古語辞典を必ず持参すること。
④追試なるものは一切しない。但し、どうしても単位取得に必要な学生は、申し出ること。考慮しないことはない。
*厳しい注意事項を列挙したが、読み味わう心と古典に学ぶ謙虚な姿勢を重視したい。

【評価方法】

単純に（出席点＋テスト点＋レポート点）÷3＝成績評価とする。レポートのテーマは講義初回に提示する。『宇治拾遺物語』に関する複数のテーマから任意に選択し取り組んでもらう。尚、400字詰原稿用紙換算10枚以上とする。

【テキスト】

中島悦次校注『宇治拾遺物語』（角川ソフィア文庫）940円

【参考文献】

日本文学講読Ⅱ

担当教員 田場 裕規

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講は『源氏物語』桐壺巻の講読を行い、語彙、文法、表現等への理解を深め、古文読解力の養成をめざす。国語の教職免許状取得のために必要な科目でもあるので、高等学校において教えるうる読解力を想定して講義する。また本文（青表紙本の変体仮名）の読みに慣れることも目指す。

【授業の展開計画】

- | | | | |
|---|---------------|----|---------------|
| 1 | ガイダンス | 9 | 『源氏物語』桐壺巻の講読⑥ |
| 2 | 『源氏物語』の概説① | 10 | 『源氏物語』桐壺巻の講読⑦ |
| 3 | 『源氏物語』の概説② | 11 | 『源氏物語』桐壺巻の講読⑧ |
| 4 | 『源氏物語』桐壺巻の講読① | 12 | 『源氏物語』桐壺巻の講読⑨ |
| 5 | 『源氏物語』桐壺巻の講読② | 13 | 『源氏物語』桐壺巻の講読⑩ |
| 6 | 『源氏物語』桐壺巻の講読③ | 14 | 『源氏物語』桐壺巻の講読⑪ |
| 7 | 『源氏物語』桐壺巻の講読④ | 15 | 『源氏物語』桐壺巻の講読⑫ |
| 8 | 『源氏物語』桐壺巻の講読⑤ | 16 | テスト |

【履修上の注意事項】

①無断欠席をしないこと。②講義のはじめに本文（変体仮名）の読みを行うので、事前に読みの練習等を行ってから講義に臨むこと。③指定した範囲の予習をした上で講義に臨むこと。④古語辞典を必ず持参すること。⑤追試なるものは一切しない。但し、どうしても単位取得に必要な学生は、申し出ること。考慮しないことはない。

【評価方法】

単純に（出席点＋テスト点＋レポート点）÷3＝成績評価とする。レポートのテーマは講義初回に提示する。桐壺巻に関する複数のテーマから任意に選択し取り組んでもらう。尚、400字詰原稿用紙換算10枚以上とする。

【テキスト】

『古典セレクション 源氏物語1』（小学館）1,680円

【参考文献】

日本文学講読Ⅲ

担当教員 黒澤 亜里子

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義では、主として近現代作家のテキストを取り上げながら、日本近代のジェンダー編成のありかたを考察します。

【授業の展開計画】

(前期)

- 1 ジェンダー論入門
「勢力 (power)」概念で読む向田邦子の「花の名前」「かわうそ」
- 2 樋口一葉「にごりえ」／ジェンダーと周縁性
- 3 与謝野晶子「みだれ髪」／ジェンダーと身体性の言説
- 4 田山花袋「蒲団」／ジェンダーと囲い込み
- 5 森鷗外「半日」／ジェンダーと〈母〉
- 6 長塚節「土」／ジェンダーと階級

【履修上の注意事項】

期末レポート以外に、発表、課題を2～3回課します。

【評価方法】

①試験 (orレポート) ②課題・提出物 ③出席

【テキスト】

『ジェンダーの日本近代文学』（黒澤亜里子他著、翰林書房）

【参考文献】

そのつど指示します。

日本文学講読Ⅳ

担当教員 黒澤 亜里子

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義では、主として近現代作家のテクストを取り上げながら、日本近代のジェンダー編成のありかたを考察します。

【授業の展開計画】

(導入) ジェンダー論入門Ⅱ

- 7 田村俊子「生血」／ジェンダーと〈性〉
- 8 平塚らいてう「茅ヶ崎へ、茅ヶ崎へ」／女性同性愛というセクシュアリティ
- 9 夏目漱石「こゝろ」／男性同性愛と異性愛体制およびジェンダー
- 10 菊池寛「父帰る」／ジェンダーと家父長制
- 11 有島武郎「或る女」／ジェンダーとセクシュアリティ
- 12 谷崎潤一郎「痴人の愛」／ジェンダーとメディア

【履修上の注意事項】

発表、提出物を課します。

【評価方法】

- ①試験 (orレポート) ②課題発表・提出物 ③出席

【テキスト】

『ジェンダーの日本近代文学』（黒澤亜里子他著、翰林書房）

【参考文献】

そのつど指示します。

日本文学史 I

担当教員 葛綿 正一

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義は日本文学史を学ぶものである。特に古典文学を中心に、個々の作品を読み進めながら、それぞれの文学史的位置づけについて考えてみたい。レポートの書き方についても触れる予定である。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	時代区分について
2	万葉集について、一
3	万葉集について、二
4	万葉集について、三
5	古事記について、一
6	古事記について、二
7	風土記について
8	レポートの書き方
9	古今集について
10	物語文学について
11	日記文学について
12	随筆文学について
13	歴史物語について
14	説話文学について
15	まとめ
16	

【履修上の注意事項】

【評価方法】

レポートとテストによって成績を評価する。

【テキスト】

『日本古典読本』筑摩書房

【参考文献】

そのつど指示する

日本文学史Ⅱ

担当教員 大野 隆之

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

日本の近代現代文学はすでに百年以上の歴史をもっている。その内どこまでを近代とし、どこからを現代とするかは諸説あるが、日本文学史近代現代Ⅱでは自然主義成立以後、即ち大正市民文学以降の文学の流れを概観する。具体的には次の通りである。

- 1、明治期啓蒙思想、戯作の残像と変容
- 2、写実主義と浪漫主義、没理想論争
- 3、ロマン主義から自然主義へ、日本近代文学の確立
- 4、大正文学・白樺派、私小説と芥川
- 5、関東大震災の衝撃
- 6、モダニズムとプロレタリア文学の登場
- 7、転向文学と国策文学
- 8、戦後文学
- 9、現代文学文学

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

テキストは初回の講義で指示する。

【参考文献】

柄谷行人『日本近代文学の起源』講談社1980年
亀井秀雄『感性の変革』講談社1983年

日本文学特殊講義 I

担当教員 仁野平 智明

対象学年 3年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

近現代の小説を文学的文章教材として研究する方法について学ぶとともに、中学・高等学校の国語科教科書に採録されている作品の教材価値について具体的に考察する。文学研究における成果をはじめとする、国語科を取り巻く近接諸領域との関連も合わせて検討し、教材研究における素材的研究を行う能力と姿勢を身につける。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	読書行為とテキスト
3	作者はどこにいるのか、語り手とは何者か
4	教材論とは
5	グループ発表・研究討議①
6	グループ発表・研究討議②
7	グループ発表・研究討議③
8	グループ発表・研究討議④
9	グループ発表・研究討議⑤
10	グループ発表・研究討議⑥
11	グループ発表・研究討議⑦
12	グループ発表・研究討議⑧
13	グループ発表・研究討議⑨
14	グループ発表・研究討議⑩
15	グループ発表・研究討議⑪
16	まとめ

【履修上の注意事項】

- (1) 教職課程履修者は、履修することが望ましい。
- (2) 扱う作品を事前に読み込んで、自分の解釈をもって授業に臨むこと。

【評価方法】

発表の内容、討論への参加状況、提出物、出席状況などにより、総合的に評価する。

【テキスト】

プリントを配布する。

【参考文献】

プリントを配布する。

日本文学特殊講義Ⅱ

担当教員 仁野平 智明

対象学年 3年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

近現代の韻文作品を文学的文章教材として研究する方法について学ぶとともに、中学・高等学校の国語教科書に採録されている作品の教材価値について具体的に考察する。文学研究における成果をはじめとする、国語科を取り巻く近接諸領域との関連も合わせて検討し、教材研究における素材的研究を行う能力と姿勢を身につける。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	韻文とは
3	作者中心主義からの脱却
4	音読・朗読・群読
5	グループ発表・研究討議①
6	グループ発表・研究討議②
7	グループ発表・研究討議③
8	グループ発表・研究討議④
9	グループ発表・研究討議⑤
10	グループ発表・研究討議⑥
11	グループ発表・研究討議⑦
12	グループ発表・研究討議⑧
13	グループ発表・研究討議⑨
14	グループ発表・研究討議⑩
15	グループ発表・研究討議⑪
16	まとめ

【履修上の注意事項】

- (1) 教職課程履修者は、履修することが望ましい。
- (2) 扱う作品を事前に読み込んで、自分の解釈をもって授業に臨むこと。

【評価方法】

発表の内容、討論への参加状況、提出物、出席状況などにより、総合的に評価する。

【テキスト】

プリントを配布する。

【参考文献】

プリントを配布する。

日本文学特殊講義Ⅲ

担当教員 西岡 敏

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

琉球の説話・歌謡などに関する文献を読み、一般に活用できるような資料として整理します。琉球文化と日本文化との比較も視野に入れます。また、琉球文化について和文や漢文、英語で書かれた文献や資料を読み、古文・漢文の読解力や英語力の向上を図ると同時に、国際的に文化発信する能力を養います。また、文献に出てくる地域を実際に訪ねます。教室・野外の両方向からのアプローチで、琉球文化・日本文化についての見識を深めます。

【授業の展開計画】

この講義では、以下のことを計画しています。

1. 課題の提示
2. 学生によるレジュメの準備および発表
3. 学生および教員によるコメント・討議
4. 現地訪問の計画・しおりの作成
5. 現地訪問（フィールドメモ・撮影など）
6. 現地訪問で得た資料の整理およびまとめ
7. インターネットなどを通じた情報発信

【履修上の注意事項】

出席日数が3分の2に満たない者は原則として単位を与えません。
担当者を決めて発表を行うので、担当者は準備を怠らないこと。

【評価方法】

常点、レポート、試験。平常点とレポートを重視します。平常点では、授業への貢献（積極的な発言など）、授業における発表の内容・姿勢、現地訪問の際の貢献度などについて評価します。

【テキスト】

その都度配布します。電子データとして配布することもあります。

【参考文献】

その都度指示します。

日本文学特殊講義Ⅳ

担当教員 大野 隆之

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

日本文化の広がりに伴い、サブカルチャー等新しい表現に対する批評のあり方を検討する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	文化領域の拡大としてのサブカルチャー（イントロダクション）
2	サブカルチャー批評の原理と危険性
3	金城哲夫と沖縄、年譜・研究史
4	金城哲夫初期作品、ウルトラQ時代
5	ウルトラマンと日本人
6	ウルトラセブンというシリーズ
7	帰京後の金城、沖縄芝居挑戦と挫折
8	「帰ってきたウルトラマン」と上原正三
9	映像論・モニタージュとフォトジェニック
10	マンガ論の方法
11	手塚治虫と沖縄
12	ゴジラ対メカゴジラ 沖縄の表象
13	テンペスト 新しい沖縄の表象1
14	龍神マブヤー 新しい沖縄の表象2
15	まとめ サブカルチャー批評の意義と可能性
16	テスト

【履修上の注意事項】

【評価方法】

テスト

途中3回抜き打ちに出席を取る。

【テキスト】

全て毎週準備するため不用

【参考文献】

『怪獣学入門』

『ウルトラマン大鑑』

比較文化 I

担当教員 兼本 敏

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

この科目では、各自が持つ異文化に対する好奇心や憧れを自他の文化を比較することを通じて、自分の文化への理解を深め、1. 比較文化とは何であるのか 2. 文化をどのように比較するか 3. どのように役に立てるか の3点を明確にでき、実感することである。

前期では基本的な概念と方法論を身の回りの事例を挙げて話し合う。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	文化とは何か ことばの語源から文化が扱う領域や文化の定義について考える
3	古今東西の文化・文明の交流史の例を概観する
4	古今東西の文化・文明の交流史の例を概観する
5	文化の諸相 (1) 世界の宗教・食文化・習慣
6	文化の諸相 (2) 言語の変遷、言語と文化の関係について考える。
7	質疑応答 まとめ
8	日本と西洋文明 (1) 日本の古代からの文化輸入史
9	日本と西洋文明 (2) 文化輸入の事例 翻訳 外来語
10	質疑応答 まとめ
11	日本とアジア交流
12	日本とアジア交流
13	日本とアジア交流
14	質疑応答 まとめ
15	期末試験
16	期末試験 (解説と解答)

【履修上の注意事項】

中学、高校での世界史に関する教科書を読んでおく。

世界地図と気候図を見ておくこと。

【評価方法】

講義の中でキーワードを提示します。期末試験はキーワードを理解 (調べる) していれば容易です。

【テキスト】

特に指定しない。学期のはじめに使用する資料および書籍リストを配布する。

【参考文献】

角田太作『世界の言語と日本語』(くろしお出版) 1991、石綿敏雄・高田誠『対照言語学』(おうふう) 1990、青木保『異文化理解』(岩波新書) 2000、黒木雅子『異文化論への招待』(朱鷺書房) 1998、佐野正之 他『異文化理解のスタラテジー』(大修館書店) 1998

比較文化Ⅱ

担当教員 兼本 敏

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

日本文化も琉球（沖縄）の文化も、日本・中国・朝鮮・東南アジア諸国等の影響を受けて、独自の特色を持つものになってきたと言われている。この講義では、中国を中心にして形成された「漢字文化圏」の中における日本および琉球の位地を文化史的に解明していくことで、東アジアにおける日本文化、琉球文化の一端を明らかにする。

【授業の展開計画】

第1週～第3週 前期で学習した『比較文化』の方法論を再確認する。
第4週～第6週 各自でテーマを設定してもらうための話し合い
第7週～第11週 プロジェクト作業 質疑・指導
第12週～第15週 プロジェクト発表
第16週 まとめ

【履修上の注意事項】

前期を履修済みが望ましい。プロジェクトを決定するために各自の興味の対象を明確化する必要があります。クラスメートや教員と頻繁に話し合ってください。

【評価方法】

プロジェクト発表を以って評価する。

【テキスト】

特に指定しない。各プロジェクトについては話し合いながら適宜紹介する。

【参考文献】

漢字に関する書籍一般。 一海知義『漢詩入門』岩波ジュニア新書 1998/上里賢一『ビョン江のほとりで一琉球漢詩の原郷に行く』沖縄タイムス社2001 /島尻勝太郎選・上里賢一注釈『琉球漢詩選』ひるぎ社 1990

文化情報学概論

担当教員 山口 真也

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本授業は、人文情報コース関係科目の基礎科目として位置づけ、2つのサブコース(文化情報学、図書館情報学)の研究内容を理解することを目的とします。前半は文化情報を発信するためのルールとマナーを「表現・言論・報道の自由」という観点から理解し、後半は、後半は沖縄の民話や日本の昔話を素材とする朗読データを制作、図書館やインターネット等の情報装置を使って文化情報を発信するための基礎的な知識と技術を習得します。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	文化情報を発信する意義・人文情報コースの説明 情報発信のルール① 表現・言論の自由
2	情報発信のルール②表現・言論の自由 表現の自由と自主規制(非実在青少年問題・差別語)
3	情報発信のルール③表現・言論の自由 演習(ドラえものの原作マンガ書き換えにみる自主規制基準)
4	情報発信のルール④表現・言論の自由 演習(原作マンガとアニメの比較にみる自主規制基準)
5	情報発信のルール⑤著作権と文化 著作権法の目的・種類(知的財産権、侵害事例)
6	情報発信のルール⑥著作権と文化 著作権法の構造(権利の制限、複製権の制限を中心に)
7	情報発信のルール⑦著作権と文化 演習(大学生活における身近な著作権侵害事例)
8	文化情報の発信①音声情報処理 民話情報をデジタル化する意義・作品選定・台本作成方法の説明
9	文化情報の発信②音声情報処理 グループ演習(台本作成→提出)
10	文化情報の発信③音声情報処理 グループ演習(台本添削・返却→再提出) 情報処理・入門編
11	文化情報の発信④音声情報処理 応用編(効果音追加・フェイドアウト・ミキシング)
12	文化情報の発信⑤音声情報処理 音声入力(スタジオ録音:リハーサル)
13	文化情報の発信⑥音声情報処理 音声入力(スタジオ録音:本番)
14	文化情報の発信⑦音声情報処理 実習
15	文化情報の発信⑧音声情報処理 実習
16	文化情報の発信⑨ 課題提出・インターネットでの公開

【履修上の注意事項】

3年次から人文情報コースへ進み、ソフトウェア制作を卒業研究のテーマとしたいと考えている人は必ず2年次に履修してください。

【評価方法】

- 1) 単元ごとに実施する小レポートの提出状況、音声情報処理課題の提出状況、出席状況の点数を総合的に判断し、評価します。
- 2) 出席回数が全授業回数の2/3に満たない場合は単位を与えません。
- 3) 遅刻は3回で1回の欠席とします。

【テキスト】

- 1) 毎週、プリントを配布します。テキストは使用しません。
- 2) データを保存するメディアとして、USBフラッシュメモリ(2GB以上)を各自で準備してください。

【参考文献】

文化情報学基礎演習

担当教員 山口 真也

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考 琉球文化・日本文化コースは選択必修科目

【授業のねらい】

前期の「文化情報学概論」にて制作した音声データ(沖縄民話の朗読データ)を使って、アニメーション形式のデジタル紙芝居と手製の絵本を制作し、県内の小学校、公共図書館へ配付(またはインターネットで公開)することで、3年次から始まる人文情報コースでの文化情報の蓄積と発信に関する研究についての理解をさらに深めることを目指します。また、これらの制作過程を通じて、①ソフトウェア制作に関心がある学生向けにはFlashアニメーションの制作技術、②図書館司書資格課程受講生向けには本の仕組みの知識・製本技術、③Wordを使ったDT(書籍編集)技術を身につけることを目標とします。「文化情報学概論」を受講した人のみ履修できます。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	文化情報を発信する意義・デジタル紙芝居(アニメーション)・手作り絵本制作の計画
2	アニメーションの制作①:Flashの基本操作(図形の描画、レイヤー、モーショントウイーンの設定)
3	アニメーションの制作②:Flashの基本操作(モーションガイド、背景の透過、シーンの連結)
4	アニメーションの制作③:Flashの基本操作(カラー変更、パブリッシュ、音声の追加)
5	アニメーションの制作④:Flashの基本操作(シェイプトウイーン、振り子、Action Script)
6	アニメーションの制作⑤:イラスト作成(ペンタブ、ペイント系ソフトの使い方)
7	アニメーションの制作⑥:イラスト作成実習(1)
8	アニメーションの制作⑦:イラスト作成実習(2)
9	アニメーションの制作⑧:イラスト作成実習(3)
10	アニメーションの制作⑨:イラスト作成(PCへの取り込み、着色)
11	手作り絵本の制作①:パソコンを使った書籍編集方法(DTP)、ページ入れ替え・テキスト流し込み
12	手作り絵本の制作②:DTP実習(1)
13	手作り絵本の制作③:DTP実習(2)
14	手作り絵本の制作④:絵本の印刷・本体と表紙シールの作成
15	手作り絵本の制作⑤:製本実習 いたかがり綴じ、表紙と本体との結合、絵本の完成
16	課題提出・発表:インターネット公開、アニメーション上映会の実施

【履修上の注意事項】

- 1) 前期に開講される「文化情報学概論」を履修した者が受講できます。
- 2) 3年次より、人文情報コースを選択し、文化情報ソフトウェア、データベース制作を行う者は必ず受講するようにして下さい。
- 3) パソコンの基本操作ができることを前提とする授業のため、「人文情報基礎」「データベース論」「マルチメディア論」(同時受講可)を履修していることが望ましい。

【評価方法】

- 1) 出席回数と課題提出状況によって総合的に評価します。
- 2) 全16回の授業の内、2/3以上欠席した場合、または課題未提出者には単位を与えません。
- 3) アニメーション上映会を外部で行う場合、授業日以外に行うこともあります(日曜日など)。2ヶ月ほど前に日程を通知しますので、必ず参加できることを受講の条件とします。

【テキスト】

- 1) プリントを配布します。
- 2) 2GB以上保存できるUSBフラッシュメディアを各自で準備すること。

【参考文献】

文化情報学基礎演習

担当教員 吉田 肇吾

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考 琉球文化・日本文化コースは選択必修科目

【授業のねらい】

3年次から「図書館情報学ゼミ」を専攻しようとする学生への基礎ゼミと位置づける。したがって国策レベルの図書館変化の方向性(理想像)を把握した上で、図書館における「課題・問題点のとらえ方・考え方」の基礎を学ぶ。また最新の図書館情報学の学問的成果や、実際の図書館の諸相を広く取り上げ、分析方法の基礎を身につける。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション：科目内容について
2	生涯学習社会・情報社会の図書館の基礎知識
3	生涯学習社会・情報社会の図書館員の基礎知識
4	生涯学習社会・情報社会の図書館像①：レポートA
5	レポートA：発表①
6	レポートA：発表・まとめ②
7	生涯学習社会・情報社会の図書館像②：レポートB
8	レポートB：発表①
9	レポートB：発表・まとめ②
10	現代図書館の実像：レポートC
11	レポートC：発表：現状報告
12	レポートC：発表：現状まとめ
13	これからの図書館像
14	これからの図書館職員
15	現代図書館の課題・対応策のまとめ
16	試験

【履修上の注意事項】

2年次前期までに、司書資格の基礎的科目である「図書館概論」「図書館サービス論」「図書館資料論」を履修しておくことが望ましい。

3年次から「図書館情報学ゼミ」を専攻しようとする学生は、必ず履修すること。

【評価方法】

レポート・出席状況及び授業への参加姿勢で総合的に評価する。

【テキスト】

必要に応じ適宜プリントを配布する。

【参考文献】

文化情報学特殊講義

担当教員 兼本 敏、池宮城美幸

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

このクラスでは現代社会において接触（利用）するソフト（アプリケーション）全般について基本的活用を理解してもらい、また実際に起動させて最終的に作品を作ってもらい、情報に関する大学生として必要最低限の法的知識（著作権、個人情報保護法など）を理解してもらい、近々の未来で一般化すると予想されるリポジトリやアーカイブスの有り様を考えてもらう。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション（目的と目標）
2	アプリケーションについて（選定 アンケート）
3	アーカイブス&リポジトリの基本概念・基本前提
4	データベースの概念
5	DPT マルチメディア
6	選定ソフトの基本操作（文書、表計算、データベース、P.P.T. など）
7	選定ソフトの基本操作
8	選定ソフトの基本操作
9	選定ソフトの基本操作
10	選定ソフトの基本操作
11	作品作成 質疑
12	PDF & OCR 検索エンジン 文字コード
13	公開に関する基本概念・法的規制
14	作品作成 発表
15	作品作成 発表
16	作品作成 発表

【履修上の注意事項】

これまで学んだ文書作成、表計算アプリ以外のアプリに興味を以ってください。図書館のリポジトリや公文書館のアーカイブスをチェックしてクラスの目標を意識してください。

【評価方法】

最終的に作成する作品で評価します。

【テキスト】

特に指定しませんが、各アプリに関する使用方法や応用本を適宜読んでください。

【参考文献】

適宜紹介します。

文化情報処理論

担当教員 芳山 紀子

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 琉球文化・日本文化コースは選択科目

【授業のねらい】

パソコンの初歩的知識・技術を習得している者。1年次の人文情報基礎において、体系的に学習を受けた者および、同等の知識・技術を持っている者を対象とし、Excel・Wordの応用操作を通し、身の回りに存在するデータを効率よく活用する技術を習得する。日本商工会議所の「日商PC検定試験（文書作成）2級」（旧日商日本語文書処理技能2級）レベルの習得を第一段階とする。本授業をとおり、パソコンの操作技術は勿論のこと、今後実社会で必要とされるネットワークやハードウェアなど、パソコンの基礎知識及び漢字力・読解力・企画力・数学力など、総合力を育成し卒業後の即戦力への足がかりとする。

【授業の展開計画】

本授業をとおり、パソコンの操作技術は勿論のこと、今後実社会で必要とされるネットワークやハードウェアなど、パソコンの基礎知識及び漢字力・読解力・企画力・数学力など、総合力を育成し卒業後の即戦力への足がかりとする。

- 1 ビジネス文書の基本構成と活用 基本的ビジネス文書の作成 頭語と結語 時候の挨拶など
- 2 文書の編集 移動・コピー・入れ替え ビジネス文書作成 ルビと記号入力 その他
- 3 図形描画の概念と活用 練習問題 テキストボックスの概念と活用（1）
- 4 図形描画で作品を作る（機関車トーマス）
- 5 図形描画練習問題1 演習問題 図形描画演習問題2 作成手順の説明
- 6 罫線活用と図形活用の表の違いと特徴 罫線の学習1-1 段落罫線 文字列を表に変換
- 7 罫線活用と図形活用の表の違いと特徴 罫線の学習1-2 段落罫線 表の編集
- 8 異なるアプリケーションの連携 データ作成 OLE機能の確認
- 9 日本語能力確認 慣用句・漢字の読み書き・敬語及び謙譲語その他
- 10 パソコン基礎概論講義1（一般知識 ハードウェア概要）
- 11 パソコン基礎概論講義2（ソフトウェア ネットワーク 情報セキュリティ）
- 12 実力養成演習問題1
- 13 実力養成演習問題2
- 14 実力養成演習問題2
- 15 期末試験
- 16 総括とまとめ

【履修上の注意事項】

各学生の情報技術、知識、希望を考慮し、クラス分けを行う。

本授業は、人文情報基礎、データベース論の単位取得者を対象とし、パソコン上級者向け授業と位置づける。（上記2科目の単位を取得していない学生は受講できない）

【評価方法】

演習課題の提出状況、出席・遅刻状況、学習態度、実力判定試験などを総合的に判断し、評価する。（出席回数が全授業回数の三分の二に満たない場合は単位を与えない。）

【テキスト】

すべてオリジナルテキスト（芳山紀子編集）

【参考文献】

FOM出版：日商PC検定試験完全マスター2級（文書作成）

文化テキスト論Ⅰ

担当教員 黒澤 亜里子

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 人文情報コースは選択科目

【授業のねらい】

文化テキスト論とは、多様な文化現象、表象を対象とし、それらが作られ、消費される構造や関係性を批判的に問題化する研究です。前期の文化テキスト論Ⅰでは、主としてジェンダー理論の基礎を学び、文化における表象、イメージを、ジェンダー、セクシュアリティ、ポスト・コロニアル等の視点から考察する予定です。

【授業の展開計画】

- 1 ジェンダー理論入門
- 2 「男」「女」とは何か
- 3 歴史的な議論（1）
- 4 歴史的な議論（2）
- 5 性別の起源
- 6 性差・ステレオタイプ・差別
- 7 性役割と社会的規範
- 8 性のグラデーション
- 9 映画の表象分析（1）
- 10 映画の表象分析（2）
- 11 映画の表象分析（3）
- 12 多様な文化現象を考える

【履修上の注意事項】

レポート、提出物を4～5回課します。

【評価方法】

- ①試験（orレポート） ②課題・提出物 ③出席

【テキスト】

プリント使用。

【参考文献】

参考図書・文献は、そのつど指示します。

文化テキスト論Ⅱ

担当教員 黒澤 亜里子

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 人文情報コースは選択科目

【授業のねらい】

文化テキスト論とは、多様な文化現象、表象を対象とし、それらが作られ、消費される構造や関係性を批判的に問題化する研究です。文化テキスト論Ⅱでは、実際の文学テキストや映像（映画、写真、ポスター、絵画 etc.）における表象、イメージを、ジェンダー、セクシュアリティ、クィア・スタディーズ、ポスト・コロニアル等の視点から分析、考察する予定です。

【授業の展開計画】

- 1 多様な世界の中で生きるということ
- 2 クィア理論の射程
- 3 映画「X-men」の表象分析
- 4 男同士の絆／ホモソーシャルな欲望（E・K・セジウィック）
- 5 映画「BROTHER」の表象分析
- 6 ハリウッド映画の「ミソジニー」（女性嫌悪）
- 7 「強制異性愛社会」と「ホモフォビア」（同性愛嫌悪）
- 8 微視的な政治、権力、監視etc.
- 9 ジェンダー・トラブル（ジュディス・バトラー）他
- 10 「沖縄」／ポスト・コロニアル／ジェンダー／セクシュアリティ
- 11 文化表象の分析（1）
- 12 文化表象の分析（2）
- 13 文化表象の分析（3）

【履修上の注意事項】

レポート・課題を4～5回課します。

【評価方法】

- ①試験（orレポート） ②課題・提出物 ③出席

【テキスト】

プリントを使用。

【参考文献】

参考図書・文献は、そのつど指示します。

琉球文化基礎演習

担当教員 西岡 敏

対象学年 2年

単位区分 必

準備事項

備考 日本文化・人文情報コースは選択必修科目

開講時期 前期・後期

授業形態 演習

単位数 2

【授業のねらい】

琉球方言に関するメディア（しまうたのCD、沖縄の民話、方言ニュース、沖縄芝居など）を題材とし、それらについて分からない単語を調べたり、文法について考えたりすることによって、琉球方言に対する理解を深めます。また、適宜、練習問題を解きます。沖縄の芸能や文学作品で用いられている言語の意味が理解でき、鑑賞できるようにすることが目標です。

【授業の展開計画】

1. 課題（琉球語テキスト）の提示
2. 学生によるレジュメの準備および発表
語義などを詳しく調べ、さらにその背景について調べること。
3. 学生および教員によるコメント・討議

レジュメの作成例（語義の部分）

ていんさぐぬ 花や 爪先に 染みてい
親ぬ ゆし言や 肝に 染みり

ティンサグ tiNsagu 名詞。ほうせんか。口語ではティンサーゲー。語源は「飛び砂（とびさご）」か。
～ヌ -nu 助詞。～の。連体格を表す。「～が」（主格）の働きをすることもある。

ハナ hana 名詞。花。

～ヤ -ja 助詞。～は。提題などを表す。

チミサチ cimisaci 名詞（複合名詞）。爪先。「チミ」は沖縄古典では「ツイミ」と発音する。
「サチ」の「チ」は「キ」が歴史的に口蓋化・破擦音化したもの。

～ニ -ni 助詞。～に。与格を表す。口語では、与格にはふつう「～ンカイ」を使う。

スミティ sumiti 動詞。染めて。「スミユン（染める）」のテ形。

ウヤ ?uja 名詞。親。「ウヤ」の「ウ」は「おや」の「お」が歴史的に狭母音化したもの。

ユシグトウ 'jusigutu 名詞。教訓。語源には「寄せ言」と「教え言」の2説がある。

チム cim 名詞。肝。心。沖縄では心のことを「チム（肝）」で表現するのが一般的である。

スミリ sumiri 動詞。染めろ。染めなさい。「スミユン（染める）」の命令形。

【履修上の注意事項】

登録人数を制限することがあります。

出席日数が3分の2に満たない者は原則として単位を与えません。

【評価方法】

出席（20%）＋発表（30%）＋期末試験（50%）

【テキスト】

適宜配布します。

【参考文献】

西岡敏・仲原穰[著]、伊狩典子・中島由美[協力] 2006[2000]『沖縄語の入門（CD付改訂版） たのしいウチナーグチ』（白水社）。国立国語研究所[編] 1963『沖縄語辞典』（財務省印刷局[大蔵省印刷局]）。

琉球文化基礎演習

担当教員 照屋 理

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考 日本文化・人文情報コースは選択必修科目

【授業のねらい】

琉球文化には、言語・芸能・音楽・信仰・建築・工芸等があるが、本演習では言語文化の神話・伝説・昔話・呪詞・歌謡・オモロ・琉歌・もしくは芸能及び民俗に関わるテーマを選んで発表してもらう。

発表に先立っては、文字資料の収集にとどまらず、必要に応じて現地調査なども行うこと。また、発表においては、日本本土・中国・韓国などのアジア諸国との比較研究を行うと共に、独自の見解を出すことができるように努めること。

【授業の展開計画】

第1回 発表についての説明

1. 発表日の確定。
2. 調査研究及び発表資料の作成。
3. 発表資料は、パソコンで作成すること。
4. 発表においては、聞き手がわかりやすいように工夫すること。

第2回

講義：琉球文化とは何か。琉球の範囲・琉球文化の特質について考える。

第3回～第15回

1. 学生の発表及び質疑応答
2. 発表のまとめを行う。

第16回 総括と試験

【履修上の注意事項】

1. 発表者の無断欠席は、原則として単位を認めない。
2. 3分の1以上の欠席者には、原則として単位を認めない。

【評価方法】

出席点・発表資料及び発表内容・質疑応答・試験の総合評価

【テキスト】

なし

【参考文献】

『沖縄古語大辞典』『沖縄民俗辞典』『南島歌謡大成』『南島昔話叢書』等

琉球文化論

担当教員 狩俣 恵一

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

琉球文化論とは文字通り、琉球の文化を論じる講義のことであり、「琉球文化とは何か」を念頭に聴講して欲しい。琉球文学の特質として挙げられることに、士族社会の文化と庶民社会の文化が密接な関係にあり、特に祭りや芸能などは庶民文化が源流なのか、それとも士族文化から起こったものか、判断しかねるものが多いので、そのような視点も重視して聴講して欲しい。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義内容、評価方法の説明
2	身近な方言から琉球文化を考える
3	琉球の祭りと文化を考える
4	『おもろさうし』の概説と作品鑑賞
5	奄美諸島の歌謡概説と作品鑑賞
6	宮古諸島の歌謡概説と作品鑑賞
7	八重山諸島の歌謡概説と作品鑑賞
8	琉歌の概説と作品鑑賞
9	『遺老説伝』の概説と作品鑑賞
10	南島の昔話概説と作品鑑賞
11	琉球芸能概説
12	民俗芸能概説と鑑賞
13	琉球舞踊概説と鑑賞
14	組踊概説と鑑賞
15	沖縄芝居概説と沖縄歌劇鑑賞
16	試験

【履修上の注意事項】

1. 毎回の講義で、簡単なレポート及び質問等を書いてもらう。
2. 3分の1を超える欠席者は、原則として単位を認めない。
3. 自筆のノートは、試験に持ち込むことができる。コピー等は不可。

【評価方法】

試験・出席点・レポート

【テキスト】

『新編 沖縄の文学』（沖縄時事出版 2008 増補・改訂版）

【参考文献】

必要に応じて配布する。

琉球文学概論

担当教員 狩俣 恵一

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

琉球文学には、小説・日記・随筆などの記載文芸は少なく、神話・伝説・昔話・歌謡・芸能など口頭で伝承される口承文芸が多い。その主な理由は、琉球国時代には文字の読み書きのできる人が少なかったこと。また、琉球文学が祭祀や祝宴などと密接につながっていたことがある。

そのことを念頭に、琉球文学を「歌謡・詩歌形態」「説話・小説形態」「芸能・戯曲形態」に分類して講義を行う。また、琉球文学の発生論についても考えてみたい。

【授業の展開計画】

第1回 琉球文学の分類

神話・伝説・昔話・琉歌・オモロ・民俗歌謡・組踊・狂言などをジャンル（形態）別に分類し、整理・大系化する。

第2回～第5回 歌謡・詩歌形態（呪言・呪詞・長詞形歌謡・短詞形歌謡など）について考察する。

第6回～第7回 説話・小説形態（神話・伝説・昔話・物語など）について考察する。

第8回～第13回 芸能・戯曲形態（民俗芸能・琉球舞踊・組踊・沖縄芝居など）について考察する。

第14回～第15回 琉球文学の発生論について考察する。

第16回 試験

【履修上の注意事項】

1. 毎回の講義では、簡単なレポート及び質問票などを提出する。
2. 3分の1を超える欠席者は、原則として単位を認めない。
3. 自筆のノートは試験に持ち込むことができる。コピー等は不可。

【評価方法】

試験と出席。

【テキスト】

必要に応じてプリントを配布する。

【参考文献】

その都度指示する。

琉球文学講読 I

担当教員 仲原 伸子

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 日本文化・人文情報コースは選択科目

【授業のねらい】

『おもろさうし』は首里王府によって編纂された沖縄最古の神歌集である。1531年に第1巻、1613年に第2巻、1623年に第3巻以降の全22巻が成立した（総数1554首）。

本講義では、実際にオモロに関する資料を活用しながら、資料の内容を理解しその扱い方を学ぶ。最終的に自分でオモロを調べることができることを目標とする。1コマ1・2首ずつ採り上げ、重複、校異、歌形、反復句、語意、語釈、解釈、先行研究などについて調べ読解していく。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	琉球文学の中の『おもろさうし』
2	『おもろさうし』概説（成立・内容・主題）
3	『おもろさうし』概説（周辺歌謡・文学史的な位置づけ）
4	『おもろさうし』概説（諸本）
5	王府おもろ
6	神女おもろ(1)
7	神女おもろ(2)
8	船ゑとのおもろ(1)
9	船ゑとのおもろ(2)
10	ゑさおもろ
11	名人おもろ
12	こねりおもろ
13	地方おもろ(1)
14	地方おもろ(2)
15	公事おもろ
16	期末試験

【履修上の注意事項】

【評価方法】

レポート点と出席状況・授業参加姿勢とを総合的に評価する。

【テキスト】

『おもろさうし』上・下（外間守善・岩波文庫・2000年刊）

【参考文献】

『南島の神歌 おもろさうし』（外間守善・中央公論社・1994年刊）

『古典を読む おもろさうし』（外間守善・岩波書店・1998年刊）

その他、参考文献一覧を授業で配布する。

琉球文学講読Ⅱ

担当教員 仲原 伸子

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 日本文化・人文情報コースは選択科目

【授業のねらい】

『おもろさうし』は首里王府によって編纂された沖縄最古の神歌集である。1531年に第1巻、1613年に第2巻、1623年に第3巻以降の全22巻が成立した（総数1554首）。

本講義では、実際にオモロに関する資料を活用しながら、資料の内容を理解しその扱い方を学ぶ。最終的に自分でオモロを調べることができることを目標とする。1コマ1・2首ずつ採り上げ、重複、校異、歌形、反復句、語意、語釈、解釈、先行研究などについて調べ読解していく。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	琉球文学の中の『おもろさうし』
2	『おもろさうし』概説（成立・内容・主題）
3	『おもろさうし』概説（周辺歌謡・文学史的な位置づけ）
4	『おもろさうし』概説（諸本）
5	王府おもろ
6	神女おもろ(1)
7	神女おもろ(2)
8	船ゑとのおもろ(1)
9	船ゑとのおもろ(2)
10	ゑさおもろ
11	名人おもろ
12	こねりおもろ
13	地方おもろ(1)
14	地方おもろ(2)
15	公事おもろ
16	期末試験

【履修上の注意事項】

【評価方法】

レポート点と出席状況・授業参加姿勢とを総合的に評価する。

【テキスト】

『おもろさうし』上・下（外間守善・岩波文庫・2000年刊）

【参考文献】

『南島の神歌 おもろさうし』（外間守善・中央公論社・1994年刊）

『古典を読む おもろさうし』（外間守善・岩波書店・1998年刊）

その他、参考文献一覧を授業で配布する。

琉球文学特殊講義 I

担当教員 宮城 茂雄

対象学年 3年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

琉球文学のなかで劇文学や戯曲として位置づけられている「組踊」は、玉城朝薫によって創作された。また、現在まで上演され続けている琉球芸能の一つでもある。

本講義では、組踊の表現方法をさまざまな視点から考察することを目的とする。

【授業の展開計画】

- 1、組踊概説
 - ①誕生とその歴史
 - ②文学的表現（台詞を中心に）
 - ③音楽的・舞踊的表現

- 2、作品研究
 - 「執心鐘入」 台本講読
演技と音楽

 - 「二童敵討」 台本講読
演技と音楽

 - 「花売の縁」 台本講読
演技と音楽

【履修上の注意事項】

出席日数が3分の2に満たない場合は、原則として単位を認めない。
組踊の鑑賞のため、ビデオなどの視聴覚教材を使用する講義が数回ある。
レポート提出を2回程度予定している。

【評価方法】

出席・レポート・期末試験

【テキスト】

テキストはなし。随時プリントを配布する。

【参考文献】

矢野輝雄著『組踊への招待』琉球新報社

琉球文学特殊講義Ⅱ

担当教員 宮城 茂雄

対象学年 3年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

琉球文学のなかで劇文学や戯曲として位置づけられている「組踊」は、玉城朝薫によって創作された。また、現在まで上演され続けている琉球芸能の一つでもある。

本講義では、組踊の表現方法をさまざまな視点から考察することを目的とする。

【授業の展開計画】

- 1, 組踊概説 ①誕生とその歴史
②文学的・音楽的・舞踊的表現

2, 作品研究

「万歳敵討」 台本講読
演技と音楽

「雪払い」 台本講読
演技と音楽

「大川敵討」 台本講読
演技と音楽

【履修上の注意事項】

出席日数が3分の2に満たない場合は、原則として単位を認めない。

組踊の鑑賞のため、ビデオなどの視聴覚教材を使用する講義が数回ある。

レポート提出を2回程度予定している。

【評価方法】

出席・レポート・期末試験

【テキスト】

テキストはなし。随時プリントを配布する。

【参考文献】

矢野輝雄著『組踊への招待』琉球新報社

琉球方言学概論

担当教員 西岡 敏

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

琉球語諸方言の一つである沖縄語首里方言について、できるだけやさしく楽しく学んでいきます。本講義では、CALL教室で学びながら、沖縄語（ウチナーグチ）が何とか聞けるようになることを目標とします。また、沖縄中南部方言に属する首里方言のみならず、沖縄北部方言、奄美方言、宮古方言、八重山方言、与那国方言などの諸方言についても、折にふれて解説します。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイドダンス・琉球語諸方言の区画
2	三母音化・口蓋化
3	「ヌ」と「ガ」・指示詞
4	沖縄語の形容詞（サ形容詞）
5	沖縄語の動詞
6	「ヤ」が付くときの音変化・動詞の終止形
7	動詞の連体形・沖縄語における「係り結び」
8	「～に」にあたる助詞（与格）・動詞の語幹
9	志向形・疑問詞と疑問文
10	声門閉鎖音・サ形容詞の丁寧形
11	連用形（第1中止形）・尾略形（準連体形）
12	テ形（第2中止形）・過去形・継続形
13	ナ形容詞（形容動詞）・終助詞
14	動詞の丁寧形・アーニ形（第3中止形）
15	沖縄語の複文
16	試験

【履修上の注意事項】

登録人数を制限することがあります。
出席日数が3分の2に満たない者は原則として単位を与えません。

【評価方法】

出席・提出課題（30%）＋期末試験（70%）

【テキスト】

西岡敏・仲原穰[著]、伊狩典子・中島由美[協力] 2006[2000]
『沖縄語の入門（CD付き改訂版） たのしいウチナーグチ』（白水社）。第7課まで。

【参考文献】

国立国語研究所[編] 1963『沖縄語辞典』（財務省印刷局[大蔵省印刷局]）。井上史雄・吉岡泰夫[監修] 2004
『沖縄の方言 調べてみよう暮らしのことば』（ゆまに書房）。

琉球方言学概論

担当教員 下地 賀代子

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

奄美大島から与那国島に至る島々の連なりは「琉球弧」と呼ばれています。「琉球方言」（最近では「琉球語」とも）とは、この琉球弧の島々で用いられているさまざまなコトバ＝方言の総称です。この授業では、メディアなどを通して最も目や耳にする機会の多い首里方言について、できるだけやさしく学んでいきます。そして、その基礎を身につけることを目標とします。また授業の中で、首里方言以外の各地の方言（奄美、沖縄北部、宮古、八重山）についても少しずつ触れていきます。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイドダンス、琉球弧とその広がり、琉球語の多様性
2	「ウチナーグチ」とは、あいさつ、自己紹介
3	首里方言の基礎①：3母音の原則、連母音の融合、口蓋化、数の数え方、
4	首里方言の基礎②：助詞「ヌ」と「ガ」・目的語の助詞、指示詞、コピュラ「ヤン」
5	首里方言の基礎③：1音節語の発音、サ形容詞の活用(1)
6	首里方言の基礎④：動詞の活用(1)
7	首里方言の基礎⑤：「リ」の発音と2種類の「ウ、イ」、助詞「ヤ」の融合、人称代名詞
8	首里方言の基礎⑥：動詞の活用(2)、係り結びの法則
9	中間試験
10	首里方言の基礎⑦：動詞の活用(3)、動詞の語幹
11	首里方言の基礎⑧：目的地を表す助詞と添加の助詞、疑問文と疑問詞
12	首里方言の基礎⑨：声門閉鎖音と長音化、普通体と丁寧体(1)
13	首里方言の基礎⑩：普通体と丁寧体(2)、動詞の活用(4)
14	首里方言の基礎⑪：動詞の活用(5)、サ形容詞の活用(2)
15	首里方言の基礎⑫：動詞の活用(6)、日本語の「に・で」に対応する助詞、いろいろな「ナ」
16	期末試験

【履修上の注意事項】

登録人数を制限することがあります。

出席日数が3分の2に満たない場合は原則として単位を認めないので、注意。

講義のはじめに語彙の小テストを行うことがあります。

【評価方法】

出席&提出課題・小テスト(40%)＋中間試験(30%)＋期末試験(30%)

※中間試験の日程は、講義の進み具合により変わる可能性があります。

【テキスト】

西岡敏・仲原穰[著]、伊狩典子・中島由美[協力]

『沖縄語の入門(CD付き改訂版)』白水社(2006[2000])

【参考文献】

国立国語研究所編『沖縄語辞典』大蔵省印刷局(1963)、内間直仁・野原三義編著『沖縄語辞典』研究社、

野原三義『うちなあぐちへの招待』沖縄タイムス社(2005)

その他、授業中に適宜紹介します。

琉球方言学特殊講義 I

担当教員 下地 賀代子

対象学年 3年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

この授業では、J-POPの歌詞や詩、絵本など、日本語(共通語)で書かれた「作品」を琉球方言(琉球語)に翻訳して、発表することを目標とします。まず、ウチナーグチ(首里方言)の過去の翻訳作品をいくつか紹介し、その中によく出てくる表現や文法について説明します。実際に短作文を作る練習なども行います。授業の後半では、グループごとに「作品」を選び、辞書などを利用してウチナーグチに翻訳します。そしてその成果を発表し、質疑応答の結果を踏まえてレポートとして提出します。翻訳作業を通して琉球方言と日本語との違いを学び、さらには方言の可能性を広げるためにできること・すべきことを考えてもらいたいです。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	琉球方言概説(1)：日本語と琉球方言(琉球語)、琉球弧の広がり
3	琉球方言概説(2)：「ウチナーグチ」とは、琉球方言の多様性
4	翻訳作品の紹介と文法概説(1)
5	翻訳作品の紹介と文法概説(2)
6	翻訳作品の紹介と文法概説(3)
7	翻訳作品の紹介と文法概説(4)
8	グループ分け、日本語作品の検討・決定
9	翻訳の中間報告と質疑応答(1)
10	翻訳の中間報告と質疑応答(2)
11	翻訳の中間報告と質疑応答(3)
12	翻訳の中間報告と質疑応答(4)
13	作品発表(1)
14	作品発表(2)
15	作品発表(3)
16	レポート提出

【履修上の注意事項】

出席日数が3分の2に満たない場合は原則として単位を認めないので、注意。
報告・発表の日程は、受講人数及び授業の進み具合により変わる可能性があります。

【評価方法】

出席&授業への参加度(40%) + 中間報告(20%) + 作品発表&レポート(40%)

【テキスト】

とくになし

【参考文献】

国立国語研究所編『沖縄語辞典』大蔵省印刷局(1963)、内間直仁・野原三義編著『沖縄語辞典』研究社、西岡敏・仲原穰[著]、伊狩典子・中島由美[協力]『沖縄語の入門(CD付き改訂版)』白水社(2006 [2000])
その他、授業中で適宜紹介します。

琉球方言学特殊講義Ⅱ

担当教員 下地 賀代子

対象学年 3年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

この授業では、J-POPの歌詞や詩、絵本など、日本語(共通語)で書かれた「作品」を琉球方言(琉球語)に翻訳して発表することを目標とします。まず、過去の翻訳作品をいくつか紹介し、その中によく出てくる表現や文法について説明します。前期では首里方言だけを対象としましたが、後期は宮古方言も取り上げます。授業の後半では各自「作品」を選び、辞書を利用したり琉球方言を話せる人に習うなどして、翻訳作業を進めます。そしてその成果を発表し、質疑応答の結果を踏まえてレポートとして提出します。翻訳作業を通して琉球方言と日本語との違いを学び、さらには方言の可能性を広げるためにできること・すべきことを考えてもらいたいです。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	
3	琉球方言の動詞の形
4	動詞の活用①
5	〃 ②
6	〃 ③
7	動詞の文法的カテゴリーの色々
8	テンス・アスペクト①
9	〃 ②
10	〃 ③
11	ムード①
12	〃 ②
13	〃 ③
14	ヴォイス①
15	〃 ②
16	レポート提出

【履修上の注意事項】

琉球方言学特殊講義Ⅰを受講していることが望ましい。

出席日数が3分の2に満たない場合は原則として単位を認めないので、注意。

報告・発表の日程は、受講人数及び授業の進み具合により変わる可能性があります。

【評価方法】

出席&授業への参加度(40%) + 中間報告(20%) + 作品発表&レポート(40%)

【テキスト】

とくになし。

【参考文献】

国立国語研究所編『沖縄語辞典』大蔵省印刷局(1963)、内間直仁・野原三義編著『沖縄語辞典』研究社、西岡敏・仲原穰[著]、伊狩典子・中島由美[協力]『沖縄語の入門(CD付き改訂版)』白水社(2006 [2000])
その他、授業中で適宜紹介します。